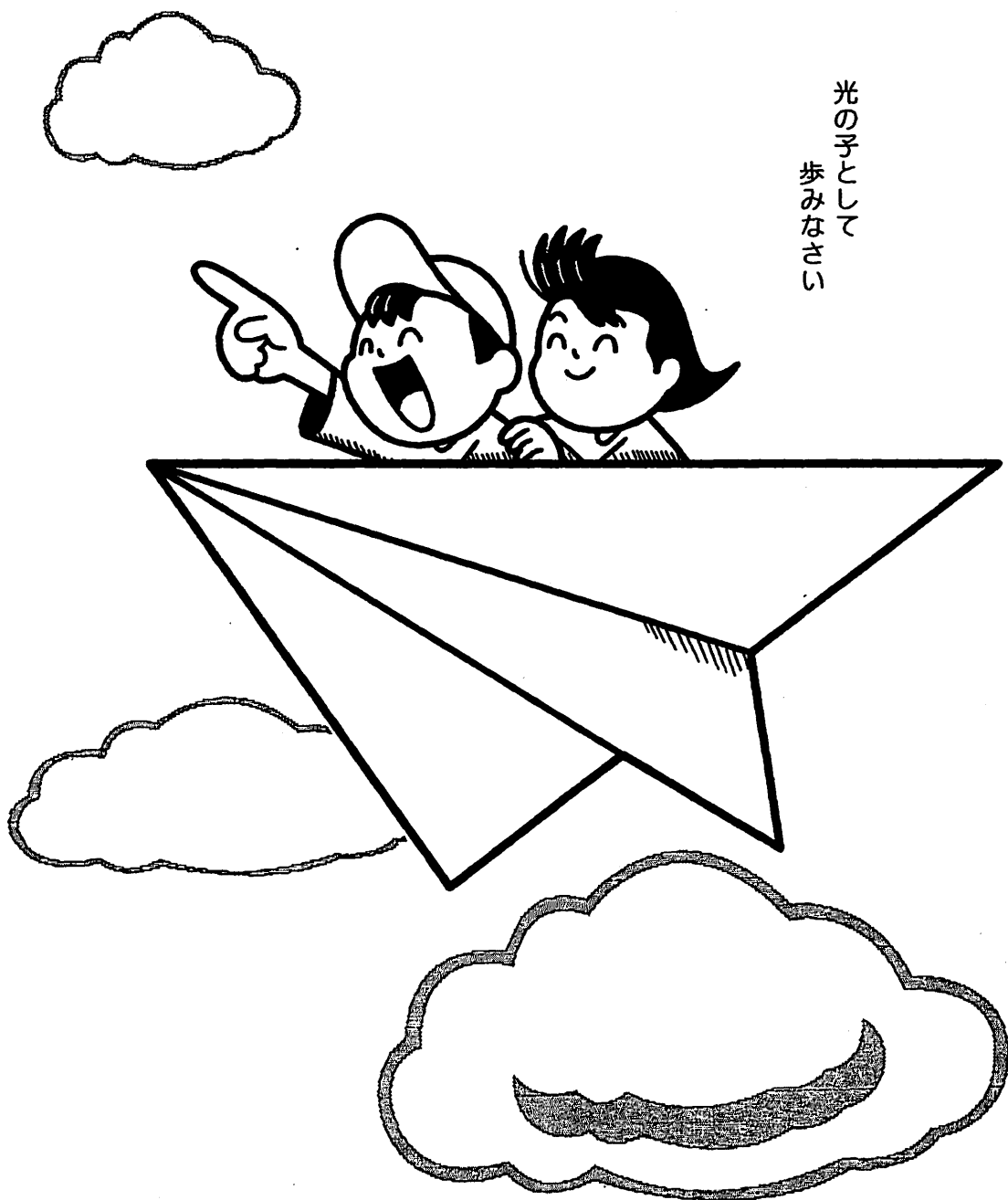


日曜学校教案誌

vol. **8**
2003. 1. 2. 3月号

光の子として
歩みなさい



日本キリスト改革派教会 中部中会教育委員会

もくじ

まえがき	遠山信和	3
巻頭説教「祈りを生きる—信仰を生きるとは—」	相馬伸郎	4
本誌の基本方針、目標をふりかえって	相馬伸郎	9
寄稿「腹話術習得法」その二	大西敏雄	12
良書紹介		
加藤常昭著『子どものための説教入門』をめぐって		
～日曜学校教師と牧師の対話～	小野静雄	17
日曜学校・教会学校訪問		
豊明教会日曜学校の紹介		21
中学生・高校生のための教会史 第39課～第50課	杉山 明	24
『日曜学校教案誌』発行のための自由募金のお願い		40
2003年1・2・3月分カリキュラム		41
聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例		43
1月5日		44
1月12日		52
1月19日		60
1月26日		67
2月2日		75
2月9日		82
2月16日		89
2月23日		96
3月2日		103
3月9日		110
3月16日		117
3月23日		124
3月30日		132
幼稚園科 工作		140
2003年4・5・6月分カリキュラム		141
あとがき		142
編集後記		表紙3

まえがき

遠山 信和（恵那教会牧師）

中部中会の教案誌をお用いくださる皆様に感謝申し上げます。今回の第8号で、一つの区切りとなります。執筆してくださる方々の編集会議を通して、子どもたちに何とかして福音を伝えようという熱い思いが伝わってきます。祈りとともに執筆して下さった方々に感謝申し上げます。

CS の子どもたちが大幅に減少し、信仰の継承が私たちの教会の大きな課題となっている今日であります。あるベテランの教師は、「私たちは、子どもたちへの信仰教育に失敗したんだ。その事を覚えて、初心に戻り、謙虚に、子どもたちに耳を傾けながら、信仰教育を考え、実践していく必要がある」と言われました。これまで、日本キリスト改革派教会（大会）において、私たちの神学や生き方に基づいた（継続的な）教案誌を作ることが出来なかったということも、失敗といえますか、いたらなかった点の一つではなかったかと思いますが、私たちは、「キリスト教教育」というものの理解を深めていくことが非常に重要ではないかと思えます。

今年の教会学校教師研修会は、カルヴィン神学校において、キリスト教教育を学ばれ、教育主事の資格をとってこられた吉田通志子姉を講師として行われましたが、吉田姉に、「日本の教会にもっとも訴えたいこと、必要をお感じになることをお話ください」と言いましたら、「キリスト教教育の役割とその意義について」という講演の主題をいただきました。要するに、キリスト教教育の必要性ということでもあります。これは、教会学校の先生だけの問題ではありません。親が子どもにどのようにして信仰を継承させていくか、聖書が教えているような、キリストの体なる教会をどのように形成させていくのか、賜物を用いて仕えあうことや主のために奉仕する人材をどのように育て育成していくのか、個人の霊的成長とともに教会全体の健全なあり

方を聖書から追求していくこととなります。

残念ながら、神学校においてもキリスト教教育という科目はありませんが、例えば聖和女子大学と提携するなどしてキリスト教教育主事の履修コースが出来るようになればと願っています。自分が受けるだけでなく、教え、育てる人材がたくさん生み出されてくる人材を養成するために、キリスト教教育の必要性を痛感しています。

福音書を見ると、イエス様は、いろんな方々に会い、福音宣教をなさいましたが、もっとも力をいれてなされたことは、弟子たちをまことにキリストの弟子にしていくことであったことが分かります。そして、このことは、主が私たちに命じておられることでもあります。「イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にいなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ 28：18-20）。

この教案誌も、産みの苦しみを覚えながら、ともかく二年間やってまいりました。この働きの背後には、純粋に聖書の御言葉に立つ教会を形成していきたい、子どもたちに喜びのおとずれを伝えたい、という願いと祈りがありました。不十分なところや、訂正した方がよいと思われるところ、課題などもたくさん与えられました。日本の教会はいろんな意味で、なお開拓期の教会であり、初代教会のような、あきらめないでチャレンジする、開拓者精神を失ってはならないと思えます。

さらによいものを求めて、聖書に向かって、自らを改革しつつ、主の召しにお応えしてまいりたいと思えます。感謝をもって。

「祈りを祈る—信仰を生きるとは—」

聖書 ガラテヤの信徒への手紙 2章15節～23節

ヨハネによる福音書 14章1節～14節

相馬伸郎（名古屋岩の上伝道所宣教教師）

ある日、弟子たちは、「誰が天国で一番偉い者になれるのか」と議論したことがあります。主イエスは彼らにおっしゃいました。「心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国に入る事はできない」。それ以来、キリスト者の口から、しばしば「幼子のように」なるということが言われるようになりました。

「子ども」という主イエスの言葉のイメージに導かれて、今皆様と、小学校に入学したばかりの1年生の頃を思い起こしてみたいと思います。学校でひらがなを学びました。漢字を学びました。その時、私どもはどのように文字を身につけたのでしょうか。私の子どもの頃、与えられた練習ノートには、先ず太くて黒い文字でひらがなが記してありました。そして、その左側には、薄い灰色の文字で、お手本が印刷されていました。子どもたちは先ずそのお手本をなぞってみるのです。これが、「あ」という文字。何度も、何度も、その薄い灰色の文字で印刷されていた「あ」という文字の上を鉛筆で、なぞりました。その後、習字も習いました。この時も、お手本を見せられました。先生が赤い文字で、お手本を書いてくれました。半紙に何度も何度も、お手本を見ながら、真似して書いてみます。とても、むづかしい。思うように、手が動かない。しかし、あるとき、ふっと気がつく、先生が後ろから近づいて、私の手を握る。そして、私の手を動かす。そうすると、自分の筆が動きだす。お手本の字をなぞるように動きだす。そして、自分の半紙の上にもまるで大人のような、お手本のような立派な字が現れ出る。まばゆい

ような、照れてしまうような上手な字。おそらく、皆さんも同じような経験をなさったことがおありなのではないでしょうか。

実に、キリスト信仰とは、聖書の救いの道とは、この初めて文字を習う幼子の姿勢、あり方にとても似ています。救いとは、あたかもお手本の上になぞるように、まさに信仰の対象である主イエスをなぞること、つまり、主イエス・キリストと一つに結ばれる事であります。主イエス・キリストと結合すること、一致することであります。しかも不思議な事に、なぞっている自分の手は、ほかならない主イエス・キリスト御自身が握ってくださり、なぞらせてくださる、そのようなことなのであります。そして、自分では、恥ずかしくなってしまうような、見事な、新しくされた自分自身をそこに発見するのであります。思いもかけない、主イエス・キリストによってかたどられた新しい人間がそこに現われてゆくのであります。これが、信仰の歩みなのであります。救われた生活、キリストにある新しい人生であります。

このようなキリスト信仰でありますから、お手本が決定的に大切であります。信仰を生きるとは、ただ自分が信じる道を突き進むというものでは、全くありません。信仰の道とは、自分で新しい道を切り拓くようなものとは異質であります。つまり、キリスト教信仰とは歩むべき道は既にきちんと備えられているのであります。私どもは、神が備えてくださる「その道」を歩むことなのであります。つまり、信仰を生きるとは、「その道」を生きることなのであります。

す。「この道」から脱線すれば本人は信仰を、キリスト教信仰を生きていると言い張っても、それは全く空しい言葉であります。また、キリスト信仰は、ひとりぼっちで歩むものではありません。キリストの体なる教会と共に、キリストの共同体を築きながら天国へと旅する歩みであります。ですから、お互いのお手本が共通でなければ、キリストとの交わりはおろか、キリストにある交わり、共同体の絆を結ぶ事は不可能であります。

字を習い覚える幼子にとってのお手本ではなく、私どもにとってのお手本とは何か、なぞるべきものは何か。言うまでもなく生きておられる主イエス・キリストであります。主イエスは、御自身が十字架に赴かれる直前に、このようにおっしゃいました。「わたしが道であり、真理であり、生命なのです」。主イエス御自身が道。主イエス御自身が父なる神のもとに行く、その道だとおっしゃいました。ここでは、天国への道が話題になっているのであります。主イエスはおっしゃいます。2節、「わたしの父の家には住むところがたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたの為に場所を用意する」。4節、「わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている」。このお話の流れから、主イエスが、「わたしが道であり、真理であり、生命なのです」とおっしゃったことは、文脈としてはスムーズに繋がらないのではないでしょうか。「わたしが道を教える、あるいはわたしが父なる神への道を指し示す」と言うことなら分かります。しかし、「わたしが道」であるとは、簡単には飲み込めない言葉かと思えます。さらに、6節、「わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことが出来ない」。キリストを通るとか、キリストを通過するとか、キリストが道そのものであるという表現は神秘的とも言える表現であります。

主イエス・キリスト御自身がここで、キリスト信仰、神の子として生きる道とは、道でありたもうキリスト御自身を踏みしめて行くことであると明言されました。御自身と一つに重ねあわされる、結び合わされる、それこそ、救いであり、救われて生きるあり方であるとおっしゃいました。主イエス御自身が道となって、私も自身の道は、この道を通ることによって、一つになる、キリストと重ね合わされるようにして生かされるのであります。

さて、キリスト教の信仰生活、キリストの道を歩む人と、信じていない人との明らかな違いとは何に現れ出るのでしょうか。いったい、キリスト者の生活の特徴とは、何でしょうか。いくつもあげる事が出来るでしょうが、単純に申しまして、「祈り」、祈りをするのではないのでしょうか。信仰生活を始めるとは、キリストの道を歩み始めるとは、先ず、祈りを覚えることから始まったものであることは、私どもの体験そのものではないでしょうか。

それなら、祈りをし始める、神に祈りをささげげること覚え始める、これはどういうことを意味しているのでしょうか。先ず、何にもまさって大前提となることは、祈りとは、まず、神に呼びかけられてこそ始まるものだという真理であります。誤解してはなりません。私どもが神を求め、呼んだから神が答えてくださったのではありません。神は、私どもが神を呼ばない先に、私どもを呼び続けてくださったのであります。キリスト教の祈りとは、神の呼びかけ、神の救いへの招きを受けたと、その招きの言葉を聴きとって初めて始まるものなのであります。神の招き、呼びかけに応答する事が、本当の祈りなのであります。神に呼びかけられた者の、神への呼びかけがキリスト教の祈りなのであります。神を「私の父、私どもの父」と呼ぶことが出来るのは、神が「わたしの子よ、わたしの子らよ」と呼んでくださったからなの

であります。私どもが「我が子」と呼ばれることがなければ、本来、神を父としてお呼びする事は許されないことであります。祈りは始まる時は、神が先ず働きかけてくださる、神から始められている業なのであります。

しかも神は、ただ天から直接に私どもに語りかけることはありません。先ほども申したとおり、神は、御自身の御言葉を聖書に記されました。神は、今、記された聖書を通して私どもに語りかけ、私どもを呼んでおられます。つまり、聖書に記されている御言葉が私どもに祈りの生活を呼び覚ますのであります。祈りを与えるのであります。聖書から語りかけてくださるお言葉を聴くことが私どもに祈りの言葉を与える事となるのであります。

キリスト教信仰は、道でありたもうキリスト御自身を踏みしめて行きながら、そこでキリストの道と自分自身の道とが一つになる、キリストと自分自身が一つに重ね合わされることであります。そのようにしてキリストと結合して生きることであります。そして、そのあり方は、祈りにおいてもまた全く同じであります。むしろ、祈りの道を進む事によって、道なるキリストと一つに結ばれることが起こる、キリストとの交わりとは、祈りにおいて実現するのであります。しかも祈りにおいても、私どもが何もない道を切り開いて行くわけではありません。既に、道がある。祈りの道が備えられてあるのであります。

ウエストミンスター信仰規準には、「恵みの手段」という言葉があります。平たく申しますと、主イエス・キリストと一つに結ばれるための道、方法、手立て、手段であります。それは、御言葉と聖礼典と祈りの三つであります。つまり、祈りは、主イエス・キリストと一つに結ばれるための、交わりのための道、方法、手立てであります。主イエス・キリストと結合するとき、私どもは、言うまでもなく、主イエス・キリストの祝福の全てを受けることができます。

それなら、祈りを呼び覚ます、祈りを与える聖書の御言葉の中で、一番ふさわしいお言葉は何でしょうか。それは、古来、教会が祈り続けてまいりました、主イエス・キリストの祈り、主の祈りでありましょう。これほど、長く、広く祈られてきた祈りの言葉はほかにありません。教会が地上にある限りは、すべてのキリストの教会はこれからもこの祈りを祈り続けて参ります。何故なら、この祈りは、主イエス・キリストが祈ることをお命じになった、主イエス・キリスト御自身が祈り続けられた祈りだからであります。これこそ、祈りの言葉の代表であります。いえ、それ以上のものであります。主の祈りは、私どもがなすべき「祈りのなかの祈り」であります。祈りの道、原型、模範、模型であります。私どもが主イエス・キリストと一つにされるために、主イエス・キリスト御自身が、主の祈りを、既に与えていてくださるのであります。主イエス・キリストは、どのように祈ったらよいのか分からない、祈りを知らないし、できない私どもに向けて、主の祈りを明かしてくださったのであります。ですから、この主の祈りは、私どもの祈りの道そのものであります。主イエス・キリスト御自身が父なる神への道そのものでありますが、主の祈りは、祈りの道そのものなのであります。祈りへの道ではなく、祈りの道そのものなのであります。

「天にまします我らの父よ」と、これは、本来、神の独り子なる主イエス・キリストのみが呼びかかるとの許される、神への呼びかけであります。しかし、今や、私どもは、主イエス・キリストを信じる信仰が与えられ、主イエス・キリストの十字架の贖いによって、罪を赦され、人間となられた主イエスの兄弟、弟、妹とされました。そのようにして、神の子としていただきました。神の御子が「天にまします我らの父よ」と祈られた言葉を今、主イエスは口移しのように私どもに祈らせられます。そこにおいて、本来、主イエス・キリストこそが祈ることがで

きる祈りを、まるで自分のもともとの祈りの言葉のようにして祈らせていただくことができるのであります。まさに、主の祈りを媒介にして、私どもキリスト者、神の子らは、御子イエス・キリストと一つとされていることを確信させられるのであります。これこそ、祈りの主要な目的にほかなりません。そうであれば、主の祈りにまさって、その祈りの目的が達せられる祈りがほかにあるだろうかとすら思います。私どもがキリスト者として生きる上で、その最初の頃も、今のこの時も、そして将来も、全ては生けるキリストとの交わり、キリストとの結合こそ私どもの信仰の一切であります。キリストと結ばれることが全てなのであります。

説教の最初に思い起こした、小学校に入学した幼き頃のことを今ここでもう一度思い返したいと思います。あの文字を習い覚える時に、練習ノートに灰色で印刷されたお手本をなぞるように、キリスト御自身をなぞる、キリストと一つに重ねあわされる、それがキリスト者の生活、歩みなのであります。キリストをなぞる以外に、キリスト者はキリスト者であることができせん。その意味で、お手本であるキリストをなぞることであります。そのときに、私どもの生活は健やかになるのであります。そして、そのお手本とは、具体的には、主の祈りを祈ることであります。主の祈りを自分の口に入れ、自分の言葉に移して祈ることであります。そうであれば、これは、ただ単に、主の祈りを暗記して、機械的に唱えることとは違ってまいります。自分の表現で、自分の言葉で、主の祈りを翻訳する、自分の具体的な生活のなかで、主の祈りを祈る時には、たとえば御名をあがめるために、「これこれ、こうさせてください」、まさにその人自身の固有の課題に基いた祈りが生まれてよいし、生まれて来るはずであります。

しかし、キリスト御自身、そして、主の祈りというお手本からそれてしまった時には、それ

がどれほど、充実している生活、活動的な信仰生活であったとしても、それがどれほど、楽しく豊かな信仰生活だと自分で実感できたとしてもそれは、神の御前に価値がありません。信仰は、道なるキリストご自身と結び合わされること、信仰の道そのものであるキリストと一致していなければ、無意味なのであります。

お手本をなぞる、それはまた、角度を変えて表現するならこうなります。使徒パウロは、ガラテヤの信徒への手紙第2章19～20節でこう証しています。「わたしはキリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身をささげられた神の子に対する信仰によるものです」。

これは、あたかも習字のお手本を見て、難しいなどため息をついている我々の小さな手を、先生が上からつかんでなぞらせてくださることに似ております。キリストが私をつかんで、キリストが私の内に生きてくださり、住んでくださり、キリスト御自身と結び合わせ、キリストのように歩ませようと捕らえてくださるのであります。祈りは、その意味で、自分が空っぽになって、イエス・キリストに生きていただく術であります。そして、これが信仰を生きることであります。自分が空っぽになってそれだけにキリストに満たされて、そのようにして、神の御意志が私どもを支配する、それが信仰を生きることであります。

しかし、道を示されているにもかかわらずなお迷い、見失いやすい私どもであります。また、もともと道を歩むための力を持っていないのが私どもであります。だからこそ、父なる神は、常に、憐れみを持って祈りへと招きよせてくださり、祈りを通し、特に主の祈りによって、キリスト御自身と結んでくださり、この祈りを通して、キリストの命、キリストの力、キリスト

の愛、キリストの霊を、キリスト御自身を私どもを満たしてくださいませ。

これから私どもは、それぞれの奉仕の場に散らされようとしております。しかし、そこでも主の祈りという祈りの道、この絆によって、私どもは、主イエス・キリストと一つにされます。それだけでなく、お互いに一つにされるので。しかし、それだけに、私どもは、この神の民の祈りの家を慕い求めるのではないのでしょうか。「我らの父よ」、「私どもの父なる御神」、と呼びかけるとき、教会の仲間を忘れて、父をお呼びする事は出来ないからであります。このようにして、兄弟姉妹への愛もまた呼び覚まされるからであります。

そして神は、教会の主日礼拝式に、恵みの手段の三つ、御言葉の朗読、特に説教、祈り、そして聖礼典を備えていてくださいます。この三つによって、私どもを、御子イエス・キリストと結合させようと待っていてくださいます。ですから、私どもは、来週の日曜日もここへと喜びのうちに集められます。そして、キリストとの絆、お互いの絆を深めさせ、強めていただく

のであります。私どものこの歩みこそ、信仰を生きる本道であります。このようにして、私どもは、キリストと結ばれて、天国へと力強く前進し、上昇して行くことが出来るのであります。

祈祷

私どもの先頭に立ち、またしんがりにも立ち、共に歩いてくださいます主イエス・キリストの父なる御神。私ども自身を、御子の歩みに、御子イエス・キリスト御自身に重ね合せてくださいました救いの恵みを心から感謝申し上げます。しかし、その御子を見失って、勝手な道へとそれてしまうこといくたびであろうかと御前に恥じる者であります。いよいよ、御言葉を聴きつづけ、祈りをささげつづけ、聖礼典にあずかり続けながら、終わりまで御子イエス・キリストと結ばれて歩み続ける事ができますように、御霊を注いでください。生きているのは私ではなく、キリストがわたしの内にあって生きておられる、働いておられることを確信させてください。そのようにして、常に主イエスの支配を自覚的に受け入れることができますように。主イエス・キリストの御名によって、アーメン。

本誌の基本方針、目標をふりかえって

相馬 伸郎 (名古屋岩の上伝道所宣教教師)

中部中会の有志の働きとして開始され、中部中会教育委員会で発行された『子どもカテキズム』をカリキュラムの中心にして編まれた弊誌も、最終号を迎えることができました。当初の目標と約束を成し遂げることができました。これは、関係各位の愛する兄弟姉妹方の主と子どもたちを愛するその並々ならない祈りと御奉仕の賜物であり、読者の皆様のご協力によります。何よりも、神の熱心にもとづくものであります。心から感謝申し上げます。

I. 教会学校と日曜学校

私どもの日曜学校を考察する際に必ず確認しておきたいのは教会規定第4章「教会学校」の条項です。それによりますと、日曜学校は教会学校（教会の教育事業が主として行なわれる組織。28条）の働きの一部とされています。弊誌は、『日曜学校教案誌』と銘打って発行いたしました。創刊号の「オリエンテーション」にも記したとおり、その目標は高く、すべてのキリスト者の教育と伝道を目指したものでした。つまり、教会学校の営みにいささかなりとも奉仕することでした。弊誌を契約の子の親はもちろん、教会員にも読んでいただければと願います。弊誌は、教理（信仰の言葉）体得の道を目指して編まれたものだからです。それは、自分自身の祈りの言葉を紡ぎ出す力を獲得する道であり、ひいては伝道の言葉を獲得する道でもあると理解しているからです。

II. 日曜「学校」か、子どもの「礼拝共同体（祈りの家）」か

ただし、教会の教育事業が行なわれる組織を「学校」とみなすことの是非は、改めて問われて

良いかと思いますが、ここで触れる暇はありません。ちなみに、いにしえより教会は「学びの家」と称されてまいりました。教会は御言葉によって立ちもし倒れもするのですから、教会が御言葉（教会の教え＝教理）を教える、学びを施す場所として整えられ、考えられて来たことは当然であったと思います。ただしこの学びは、その性格からして必然的に、礼拝をとまなうものとならざるを得ません。ですから、学びの家としての教会の自己理解は、「祈りの家」としてのそれに従属するものとして認識されることが健全でありましょう。

私どもは、日曜学校のみことの祝福の鏡、健やかな成長は、大人のそれがそうであるように、「礼拝式」にあることを確信いたしております。それゆえに、本誌も子どもカテキズムも、日曜「学校」としての整備より、むしろ「子どもの礼拝共同体」の形成という視点で編集されてまいりました。

III. 分級中心より、礼拝式中心

子どもの礼拝共同体の形成という視点から日曜学校の働きを評価するとき、必然的に、日曜学校の働きの比重を分級に置くのではなく、礼拝式に置くこととなります。

私は、これまでしばしば、教師の方から、嘆き混じりにこのように質問されました。「分級の準備は大変です。教案誌をていねいに読むだけでも……。いわんや担当分級展開例を実践することは……」。土曜日の夜になって、せっぱつままったように焦る日曜学校教師像……。それは決して例外的なことではありません。そこで手軽な準備のために教案誌やワークを求める……。

弊誌が繰り返し申し述べて参りましたことは、

「分級展開例をそのまますることが大切なのではありません。分級では、子どもと共に祈りをささげることができればそれで良いのですよ」。準備したものの全部をやれたかどうかという事が分級運営の良し悪しの基準にはならないと思います。大胆に申して、弊誌の分級展開例をそのまま実践して（でき）ている日曜学校は、多くはないと思います。筆者の日曜学校もまた然りです。しかし、それでかまわないのです。礼拝式で、きちんと福音が、御言葉とカテキズムが届いていれば、分級は「オマケ」くらいに考えてくだされば良いと考えております。このようなスタンスの日曜学校の取り組みによって、誠実な教師の抱く「周到なる準備にもとづく分級をしなければ……」という強迫観念を減らすことができるのではないのでしょうか。これはただ単に負担感を減らすという、いわば消極的な意味で申し上げているものではありません。

IV. 教師会と教師、教会形成の一環としての日曜学校

およそ教会的な奉仕の在り方は、いずれも共同的な奉仕の業です。とりわけ日曜学校の働きは、共同の働きによってこそ正しく担われ、正しい実りが結ばれるのです。つまり、担任教師の力量にもとづくそれぞれの分級の力に期待するよりむしろ、教師会（全員）の奉仕と祈りを束にして子ども礼拝式の充実を求め、そのために努力するあり方こそ求められているのではないのでしょうか。

例えば礼拝説教を担うのは担当日の奉仕者一人です。しかし、その時こそ、その背後の教師たちの祈りがどれだけ集められるかが問われます。教師たちの祈りに支えられてこそ、説教や礼拝式が必ず聖霊の豊かな働きのなかでささげられる事を確信いたします。教師会が、単に教師たちの会議ではなく、日曜学校の働きを担う核としての「共同体」として形成されることが大切なのです。具体的には、充実した教師会を

持つことです。弊誌がその一助となれたら、どれほど幸いなことでしょう。さらに申しますと、教会全体の祈りに支えられなければ、日曜学校の業が教会形成そのものとしての結実を求めることはできなくなります。日曜学校の働きとは、各個教会の形成と伝道の働きそのものとはじかにつながっているものであり、そうでない働きは、少なくとも改革教会の教会形成の筋道とは異なる日曜学校となってしまいます。だからこそ、礼拝指針の第31条にうたわれている通り、小会の監督、配慮が非常に重要になるわけです。

V. 子ども礼拝式における礼拝説教（神の言葉）の重要性 一日曜学校の目標一

「子どもカテキズム」にもとづく二年間のカリキュラムによる日曜学校の働きは、祈りを教え、祈りの生活へと導くことによって完成します。「信じることは祈ること」であり、それゆえに日曜学校の目標は、自分の言葉で、一人で祈れる子ども、祈る生活を確立できるように導くことにこそあります。しかもそれは、まさに公同、共同の祈りである子ども礼拝式の充実によってこそ、正しく担われます。個人的な祈りの生活の訓練だけに焦点をあてるようなアプローチを改革教会はとることはできません。主日礼拝式（公同の大きな祈り）に支えられ、あずかってこそ、個人の小さな祈りの生活は生み出され、健やかに立つのであります。

いささかくどいともい知れませんが、そうであれば、日曜学校の中心が、子ども礼拝式にあり、その中心が神の言葉の説教にこそある事は、自ずから明らかとなると思います。何故なら、祈りは「御言葉に聴くこと」から始まるからです。これなしにキリスト教の祈りは成立しないからです。まさに日曜学校の営みは、どこまでも「子ども礼拝式」にその源泉があり、それだけに、上述のように子ども礼拝式中心の日曜学校と説教に力を注ぐことが求められるのではないかと思います。ちなみに筆者の日曜学校は、

開拓伝道という状況もあり、説教は基本的に筆者が奉仕しています。大人のための説教と同じように子どものための説教が決定的に重要だからです。蛇足ですが、誤解のないように申し上げます、牧師だけが説教を担うべきと主張しているわけではまったくありません。

VI. 説教の完成としての牧会 一分級の目標—

さて、しかしながら、またここでこそ、分級の固有の意義、重大な意義も明らかになります。神の言葉の説教を通して子どもたち全体になされる御業は、また一人の子どもの固有の状況、心の奥底にも届きます。しかし、一人の子どもの魂の状況に、よりの確に触れ、届けるためには、「牧会」が求められます。私どもが、分級の目標を「共に祈る」こととしておりますのは、子どもへの牧会を指し示すあり方を意味しているのです。この牧会に奉仕するのが分級なのです。この分級イメージは、「牧会」のイメージであり、教室において生徒全体に均一の知識を提供する「学校」のイメージは薄くなるはずで

す。今日の日曜学校出席者の激減状況が続けば、日本の教会の将来にとって致命的であると心から案じます。共に力を尽くし、支えあって、地域の子どもたちを教会に獲得するよう努力してまいりましょう。しかし、この状況を単に悲観的に捉えるのではなく、むしろ、少ない子どもたちであれば逆に徹底した信仰教育、霊的訓練を施すことができると受け止めることもできる

はずで

す。今導かれている子どもたちをもれなく信仰告白、洗礼へと導けたら、私どもの教会はどれほど力強く形成、前進できるでしょうか。説教（神の言葉の共同的伝達）と牧会（個人的伝達）が有効になされる時、日曜学校は正しく豊かな実りを結ぶ事を確信いたします。

そして、ここで明らかになることは、日曜学校でなされる業も、（大人の）教会での業も、互いに異なるものではなく、罪の赦しの福音によって生まれる教会形成の筋道とまったく一つのことであるということです。日曜学校の取り組みは教会形成そのものなのです。

VII. 終わりに

子どもたちは、（大人と同様に、いやむしろそれ以上に！）罪の赦しの福音に飢え渴いています。福音にあずからなければ、大人も子どもも、男も女も倒れたままです。あなたは、あるがままで、真の羊の大牧者なる主イエスと共に、主イエスの小さな羊飼いとして、主イエスの小羊たちを養い、訓練する奉仕者として召されているのです。どうぞ、あなたご自身が真の大牧者、良き羊飼いなる主イエス・キリストの牧会を深く、豊かに受けられますように。牧師からの牧会、指導を積極的に受けられますように！ 互いに励ましあって、感謝をもって、これからも、この光栄ある共同の奉仕の業を担って参りましょう。

腹話術習得法 その二

大西 敏雄 (尾張旭教会牧師)

前回に引き続き、腹話術について学びましょう。今回は台本について説明します。

4. 台本作成

(1) 台本作成の基本

- ①胸音は、○印でひらがなで書く。
- ②頭音は、×印でカタカナで書く。
- ③話ことばを使う。
- ④話のテーマと目的(強調点)を決めること。
- ⑤話の構成 ワンポイントの話にする。
例) あいさつ、導入、本題、結び、あいさつ
- ⑥聴衆(子どもたち)が楽しく聞いている姿を思い浮かべながら、楽しい内容を作り上げていく。
- ⑦頭音の破裂音使用の場合は工夫する。なるべく使用しないようにする。
- ⑧頭音の長さは、三打ぐらいにし、多いときでも十三打以内にする。それ以上ならば、少し間をおいて話すといい。
- ⑨あいさつで始まり、あいさつで終わる。

(2) 台本作成の工夫・注意

- ①三角関係の配慮
術者と人形の二者だけで話を進めず、聴衆にも配慮する。
- ②聖書の話術を術者と人形が、ただまじめに話していたのでは、腹話術が生きないし、話がつまらなくなってしまう。笑いの展開も含める工夫をする。
しゃれ、思い違い、極端なはなし、おおげさなはなし、どんでん返し、自慢話、くちまね等

例1) 悪い例

- は術者、◇は人形(以下同じ)
- エリコという 町が ありました
- ◇ウン
- そこに ザアカイ という人が いま
した
- ◇ウン
- ザアカイは 金持ちです
- ◇へー
- でも、ザアカイは 背が 低かった
んです
- ◇ソーデスカ

例2) 良い例

- エリコという 町が ありました
- ◇エリコちゃん？
- 人の名前 じゃなくて町の 名ですよ
- ◇ナーダー
- そこに ザアカイ という人が いま
した
- ◇ソーカイ
- おやおや さめてきましたね でも
この人は 金持ちです
- ◇オコズカイ ホシイナー

- ③素話をしない(素話……人形が話に入らず、術者だけで話を進めてしまう)
- ④人形のあいづちは、ただ「ハイ」「ウン」「エー」のみでなく、話を進めるための言葉であること。
- ⑤語呂合わせやだじゃれが多すぎないこと。

5. その他

(1) 三つの努力

- ①台本を作る。

②台本を覚える。

③台本を演じる(こどもたちが楽しく聞き、話ができることをイメージしながら演じる)

(2) 注意すべきこと

○人形や縫いぐるみは、おしゃべりをするのですから、こどもたちにとって、非常にかわいいアイドルとなります。ですから、こどもたちに、人形や縫いぐるみの口が動く構造などは、絶対に見せない。

○「本当は先生が言っているんでしょう」と言われても、「おしゃべり人形・ぬいぐるみ」のイメージを消さないようにする。だから、子どもたちにわかっていても、腹話術の秘密は教えない。

(3) 台本を作成して、添削希望の場合、大西宛にどうぞ。

(4) 「しゃべるぬいぐるみ」は、トイザラスなどで、“PlayTalkin”という名前で買えます。牛、ライオン、犬などがあります。サイズは背丈が約60センチ、2,999円(96年1月時点)。

6. 腹話術台本例

(1) あいさつの例

◎はじめて登場するとき

○クリちゃん

◇ハイ

○では そろそろ 始めようかね

◇ナニヲ？

○みなさんに お話するんですよ

◇ソーダッタネ

○では 最初に みなさんに ごあいさ

つ しなくっちゃネ

◇ウン

○クリちゃん 何だか もじもじ して

いるね

◇… … …

○おしっこ したいの

◇チガウ

○あっ 恥ずかしいんだな

◇ウン

○かわいい 女の子が いるから でしょう

◇ウン

○じゃー おじさんが 最初に あいさつ するから

◇ヤレー イケー

○そんな カまなくても

◇ソーデシタ

○わたしは 尾張旭教会の 牧師で またこのお人形のおじさんの 大西敏雄です。どうぞ よろしく

◇ヨロシク シテヤッテ

○次は クリちゃんの 番だよ

◇ハズカシイ ドウスルノ？

○じゃー おじさんが おしえてあげるよ

◇セワニナルゼ

○まず 「わたしは」 って 言うんだ

◇ワーワー

○わたしは

◇ワタシデス

○ちがうよ 「わたしは」

◇ダレデショウ

○クイズやってるんじゃないよ

◇ソーダヨ

○「わたしは 腹話術の 人形の クリちゃん です」

◇アナタガ？ マサカ

○クリちゃんの ことですよ

◇ソレガ ワタシデス ドウゾ ヨロクシ

○おや おや ごまかされちゃったネ

◇ソーシチャッタ

- さて
- ◇カエロウカ
- これから はじまるんですよ。
- ◇ソーダッタネ
- ここから 話を始める。

◎何回も登場しているときは たとえば

- 下記のように
- イヤー みなさん おはよう
- ◇オハヨウ
- また みんなに 会いましたね
- ◇ウン ウレシイネー
- みんなも 楽しそうだよ あっ あそこ
に 新しい お友だちが いますよ
- ◇イヤー ヨロシク ゴク クリチャン
デース
- さて 今日
- ◇ドンナ オハナシ ナノ？

(2) 話の例

◎「教われたザアカイ」、ルカ福音書19章
1～10節

- あいさつ (省略)
- さて イエス様が いらしたとき
- ◇ウン
- ユダヤの国に エリコという町が あ
りました
- ◇エリコちゃん
- エリコは 女の子の 名前じゃなくて
町の名だよ
- ◇ナーダ
- その町に ザアカイ という人が 住
んでいました
- ◇ソーカイ
- 人の 名前ですよ。
- ◇ソーカイ
- 大金持ちです。
- ◇へー
- りっぱな家に 住んでいます。

- ◇ソーデスカ ナニヲ している ヒ
トナノ？
- よく 聞いてくれた
- ◇キイテ ヤッタヨ
- お金を 集める 仕事だよ
- ◇へー オカネヲ アツメルノ
- そう
- ◇シュウキンヤサン ダネ
- でも ただの お金を 集めるんじや
ないんだよ
- ◇ギンコウ ゴウトウ カイ
- ちがう ちがう 税金を 集めるんだ
よ
- ◇ゼイキンツテ ナアニ？
- 政治や 建物や 学校や 道路などに
使うために 集める お金さ
- ◇ナーンダ
- さて イエス様の いらした頃は 徴
税人と言ってたんだ
- ◇アツチャー
- ところで、ザアカイには 友だちが
いませんでした
- ◇ソーカイ
- 他の 言い方は、ないの
- ◇ソーデスカ ドウシテ トモダチガ
イナイノ
- 実は、
- ◇ジャジャジャー
- その頃の 徴税人は 税金を 取り過
ぎたんだ
- ◇フトリスギ デスネ
- んまー そういうことだね
- たとえば 通行税と 言ってね 道を
通るのに お金を 取ったんだ
- ◇ユウリョウ ドウロダネ
- そう、でも、有料道路より ひどいんだ
- ◇ドウシテ
- ひとり 100円の ところを 200円
とって 100円ポケットに入れちゃう

◇アッ ズルイ
○今 ザアカイが いたら 「おい おま
え 人形のくせに シャベリやがるか
ら なまいきだ 300円払え」 とう
なる
◇イヤダヨ ソンナヤツ キライダ
○そう だから 友だちが いかんた
んだ
◇ソーカ
○しかも そのかしらです
◇ナニカシラ
○まあ わかりやすく 言うと 社長だ
よ
◇ワー スゴイ
○ある日のこと
◇アルヒッテ イツ
○ある日って ある日なの
○ザアカイが いつものように ふんぞ
りかえって すわっていました
◇フンヲ シテイタンデスカ？
○座って いたの
◇ヨウシキデスカ
○あのね トイレの 話じゃないの
◇フンノ ハナシ
○ちがう ザアカイのはなし
○むこうの ほうから 「おーい イエ
ス様が 来 たぞー」 って 聞こえま
した
◇オジサン
○なあに
◇ナンダカ ココカラ キコエルヨ
○向こうから 聞こえたことに するの
◇ウン キコエタ キコエタ
○そうでしょ
◇ココカラ キコエタ
○ザアカイは 思いました イエス様
あのうわさの イエス様
○徴税人や 町の女や 遊び人とも 話
してくれる人だ

◇アイタイノ？
○ウン
◇ジャー デカケタラ
○そうしよう
◇イケー
○外に 出てみると
◇カギハ
○閉めたよ
◇ヨロシイ
○さて 外に出でみると もう たくさ
んの人が います
◇イタカ
○いたか じゃありませんよ でも 大
勢の人で イエス様が見えません
◇ザンネンデシタ
○おまけに ザアカイは チビです
◇シタカラハ ドウ
○下からもぐって 見ようとしても み
んなが 見せてくれません
○ザアカイが いつも ずるいこと し
ているからです
◇ソウダヨ
○でも ザアカイは どうしても イエ
ス様を 見たい
◇ドウショウ
○そこで ザアカイは 考えた 何か
いい方法は ないかなー
◇ミンナヲ オドカソウカ
○だめだよ
◇ソウダ オカネを チャリーン チャ
リーン
○ばらまくの？
◇ソウ
○でも だめさ
◇ドウシテ？
○ザアカイは けち だもん
◇オジサント オナジダ
○おい おい そーだ 向こうにある
高い木に 登ろう

◇ソーダ
○ザアカイは 急いで
◇イソイデ イッテ
○木に登りました。
◇ヤッタネ
○イエス様が だんだん 近づいて 来
ました
◇ドウナルノカナ
○イエス様は 立ち止まりました
◇シカラレルカナ
○すると イエス様は 上を見上げて
言いました
◇キレイナ ホシダナー
○ザアカイよ いそいで おりてきなさい
◇へー
○どんな 気持ちでしょう
◇うれしい
○そうだねえ イエス様が 呼んでくだ
さった
○いそいで おりてきなさい
◇オリテコイ ナグッテヤル
○そんなこと 言いませんよ 今日 ぜ
ひ あなたの うちに とまりたい
◇エー ウチニ キテクレルノー
○そうですよ
◇タイヘンダ
○どうして？
◇オカネヲ カクサナクッチャ
○おい おい イエス様は どろぼう
じゃ ありませんよ

◇ソーデシタ
○ザアカイは 急いで おりてきました
そして よろこんで
◇コロンデ
○イエス様を迎えました イエス様に
ごちそうしました
◇ゴクモ ホシイ
○そうだね それで ザアカイは イエ
ス様を 救い主と 信じました
◇ヨカッタネ
○ザアカイは あたらしい人に なりま
した
◇ウレシイネ
○もう だましたり ごまかしたり し
ません
◇ヨロシイ
○まずいい人に お金を あげます
◇エライ
○ザアカイは いい人に なりました
◇ソーダネ
○イエス様を 信じた からだよ
◇イエスサナッテ スゴイネ
○そう すばらしいね わたしたちの救
いまだ
◇ウン
○では おいのりしよう
◇ハイ
(祈り)
○では また いつか あいましょう
◇サヨーナラー

(完)

良書紹介

加藤常昭著『子どものための説教入門』 をめぐって ～日曜学校教師と牧師の対話～

小野 静雄 (多治見教会牧師)

牧師 多治見教会の日曜学校教師会でも、この書物を一緒に読んだわけですが、とくに印象が強かったのはどういう点でしたか。

教師 説教の準備や語り方、などの点でずいぶん教えられる点、考えさせられる点がありましたが、なんといっても、日曜学校・教会学校とは、いったい何であるのか、という本質面での加藤先生の提言に教えられたことが多いです。

牧師 やはりわたしたちのなかには、「学校」という意識が非常に強く、その意識をあまり吟味することなしに日曜学校を続けている面がありますからね。加藤先生は、日曜日の朝、わずか一時間の枠で、学校教育に類するような「カリキュラム」を消化することに夢中になるのは不可能でもあり、考えなおす必要があると言っておられます。

教師 一定のカリキュラムをつくって、教育の達成目標を追及する、というタイプの理念を思い切って捨てるべきだという提言ですね。むしろ、「子どものための教会」という視点からの捉えなおしをしてほしい、と言われています。

牧師 ただ、加藤先生自身が牧しておられた教会でも、その理解の変革を実現することはできなかった、と語っておられますから、実際にはなかなか容易なことではないとも思います。日本キリスト改革派教会は、信仰告白への教育という観点で日曜学校を捉えていますから、やはり一定の教育目標を掲げることをやめるわけにはゆかないのです。

教師 信仰告白への教育という、わたしたちの本来の目標は、これからも重視してゆくべきだと思います。そのうえで、加藤先生が語ってお

られる、「子どものための教会」という理念と方法を、わたしたちも真剣にうけとめる必要がありますね。とくに、「教会学校が牧会をしているか」という問いかけはほんとうに身につまされます。

牧師 子どもたちが現実にはずいぶん疲れている、あるいは病んでいる、傷ついている。そうした現実にはっきり目を開いて対処するという課題が、どこかへ置き去りにされてきたことは否定できないことです。日曜学校を「子どものための教会」として捉えなおすということは、子どもにたいする「牧会」的な視点をどこまで実現しているか、という問いに重なっています。ひとりの人間として、またキリスト者として生きてゆくための牧会的な支援を、子どもたちにも届けねばならない、という加藤先生の提言は、わたしたちが素通りできないものだと思いますね。あとで語り合う「説教」の課題と方法についても、福音を福音として子どもの魂にどのように語りこむか、つまり「牧会」の視点をもつ説教をしなければ子ども礼拝は成立しない、と言っておられるわけです。

教師 加藤先生は、そのような課題をうけとめる具体策として、たとえば「分級」の位置づけること、そして、カテキズムの再発見についてふれておられます。

牧師 そうですね。分級の必要性の有無についても大胆に論じておられますが、その意図されるところは、ひとつには、日曜学校の中心は「子ども礼拝」にあるということですね。そしていまひとつは、分級の時間が、こども同士の競争を駆り立てるような場所になることへの厳しい

反省をせまっておられますね。むしろ、分級は子どもの魂と生活に、教師が牧会者としてむきあう時間、という位置づけがより必要かもしれませんね。

教師 カテキズムにもとづく教育という点では、中部中会の教育委員会による教案が、集中的な努力をつづけていて、わたしたちも今年から用いているわけですが。

牧師 用い始めて半年ですが、どういう印象をもっておられますか。

教師 まず実用の観点からみて、よく整えられたものですね。しかし、ただ便利というだけではなく、教案として用いているうちに、教師として福音の全体的な輪郭を教育されているように思います。教理と説教のつながりについて、いくらか自覚的になってきた、という感じをいただいています。

牧師 子どもには「教理」がわからない、という大人の側の先入観についても指摘しておられますね。概念や用語としての教理が理解できないとしても、人間の現実としての罪の自覚、死のおそれや人としての惨めさの体験など、そしてそうした罪と死と悲惨の現実から解放される喜びは、子どもでもわかる。つまり、日曜学校の礼拝が、明確な福音の使信をとどけているか、それとも道徳的な教訓で子どもを教えようとしているだけではないのか、そういう指摘はたいへん重要ですね。

教師 その問題は、日曜学校の説教をどのように語るかという、この書物の本題にもかかわることです。説教することの前提として、教師じしんがまず「礼拝者」であれという指摘がなされています。日曜学校礼拝の本質にかかわることだと痛感しました。

牧師 ほんとうにそうですね。ともすればわたしたちは、子どもに礼拝させる、ということに意識が向かっている。しかし、加藤先生は、教師たちの礼拝に子どもを招き入れる姿勢でありたい、といわれます。教師は、子どもたちの礼

拝監督ではない、教師全員がまず礼拝者であり、その喜びと感謝の中に子どもを迎える。そのような子ども礼拝を実現したいものです。

教師 そのような礼拝への集中があつてこそ、説教についても力と集中が与えられると言っておられます。神の前で語ること、という霊的な集中は、やはり教師自身が訓練をうける必要がありますね。

牧師 加藤先生が、日曜学校礼拝説教の「急所」としておられる部分(101~117ページ)で、牧師としても非常に耳の痛い指摘は、原稿にたよらず説教せよ、という部分ですね。改革派教会の創立者のひとり、岡田稔先生が、自分は原稿を書いてから、それを忘れたところに説教するのがいちばん調子がよい、といわれた言葉を忘れることはできません。わたしには到底できない相談ですが。やはり、説教の使信が説教者の人格とひとつになるほどの思索と修練があつての言葉であると思います。

教師 加藤先生は、日曜学校の礼拝説教にも、基本的にはおなじことを求めておられるわけですね。

牧師 みずからの人格とひとつになった言葉を語る必要をのべておられますね。そのような言葉を獲得するひとつの方法として、教師が、自分の全身を生徒の前にさらして語ることを勧めておられます。説教壇やテーブルのうしろに自分を隠さず、からだ全体をさらすのです。これは、人前で語るしごとの基本でありながら、牧師になつてもなかなか苦勞する点です。

教師 それとの関係で、子どもたちのまえに、「イエスを信じて生きようとするなら、わたしのようになってほしい、わたしの真似をすれば間違いない」と言えるほどの、心の備えをしてほしい、とも言われています。

牧師 弱さも欠点もふくめて、わたしたちのすべてが、主イエス・キリストの福音によって担われ、包まれ、恵みによって立たされている、その事実をいつでも証しする説教者であるよう

に、ということでしょう。この教師は、建前を語っていない。ほんとうに自分の信じることを語り、語っている言葉によって生きてもいる。そのことについては、大人であれ子どもであれ、聞き手は敏感ですね。うわべの言葉は通じない。そのことだけは、お互い、肝に銘じておきたいですね。

教師 わたし自身、陥りがちなあやまちで、とくに心にとめた点は、説教の前半では聖書を読み、後半、ないしは終わりの部分で、生徒たちへの応用（適用）を語るという方法です。これは、古代から行われた説教の伝統的な方法であると言っておられますが。

牧師 ごく最近まで、この方法は主流だったと思います。わたしたちの神学生時代にも、「序論」「本論」「結論」という順序で、結論部分で聞き手への「適用」を語るように教えられました。

教師 なにが問題なのでしょう。

牧師 加藤先生も指摘しておられるように、この方法では、信仰の教えを、道徳的な適用に転化することになりがちです。福音を、日常生活の知恵にすりかえたり、恵みの招きがいつの間にか律法の行いに変質する危険が非常に大きいのです。せっかく主イエス・キリストの恵みのわざを語りながら、結論と称して、道徳的な教訓をながながと述べるのは、子どもにとっても大人にとっても、退屈がいの何ものでもありません。主イエス・キリストの愛と真実を語ることは、説教者にも聞き手にも、それ以上の恵みであり喜びですから、その喜びのなかに「君もわたしも」すでに含まれている、という宣言が説教の本論でありまた結論でもある、そのように終始福音のみを語る姿勢が重要ですね。

教師 福音書の説教を重視しておられますね。福音書がいの説教は、日曜学校礼拝にふさわしくないということでしょうか。

牧師 そんなことはありません。ただいつも忘れてならないことは、子どものための説教のい

ちばん大きな目的は、活ける主イエス・キリストを語ることです。「教会学校に通い続けて、その通い続けた日々に、主イエス・キリストの御姿を、あるいはその言葉を、忘れようにも忘れられない程に、刻みつけられ、しかもそこに深い愛の経験が、子どもたちなりに結びついたならば、日曜学校の任務は既に十分に果たされた」と私は思う」と、加藤先生は語っておられます。これは、日曜学校に限らず、わたしたちの信仰の本質に属することですね。

教師 子どもたちに、主イエスが好きなひとになってほしい。そのようにも述べておられますね。幼児洗礼をうけている子どもたちの信仰のなかで、イエス様への生き生きした思いが弱いのではないか、という印象がありますが、思い違いでしょうか。

牧師 たしかにそのような面がありますね。神様がわたしたちのことを導いてくださる、という信頼は強いけれども、主イエス・キリストによって神がまことに近い方、親しい方、という信頼を育てることが、信仰告白への大切な道筋をつくるはずだと思います。その意味で、主イエス・キリストの物語を、いまここで語るのちの君として紹介する説教を、たがいに目指したいのです。

教師 子どものための説教に、どのような備えが必要かを、これまできちんと学ぶ機会がありませんでしたが、この本で、根本的な理念と具体的方法の両方をはじめて教えられたように思います。それだけに、ふだんの説教の準備の不十分さをいろいろ指摘されたこともあり、心を引き締めて説教の修練をつづける必要を感じています。

牧師 たしかに緊張感をもって修練にはげむことは大切ですね。同時に、日曜学校の説教は、たんなる技術ではないのですから、のびのびと教師としての個性を発揮してほしいと思います。牧師として、毎週、先生方の説教に耳を傾けることを続けていますが、だれが話しても、そこ

から御言葉が聞こえてくるという幸せを味わっています。御言葉が「説教」として語られるところ、かならず聖霊のお働きがあって、聖書を生きた神の言葉として取り次いでくださるのですね。聖霊のわざへの心からの信頼をもって、さらに命あふれる説教への道を共に歩みたいと思います。

教師 すぐれた書物によって、教師たちへの励

ましを贈ってくださった加藤常明先生に、ここから感謝しています。

※本書は、日本キリスト改革派教会西部中会教会教育委員会が主催した「信徒のための神学講座」(1999年9月20～21日)で、加藤常昭先生が語られた講演の記録です(別の集いで話された、同趣旨の講演記録も付けられている)。聖恵投産所出版部刊、定価1500円。

豊明教会日曜学校の紹介

豊明教会牧師 木下 裕也

豊明教会は豊明市三崎町（県道をへだてたすぐ向かいが市役所という場所ですが、たいへん静かな環境です）にあります。1981年に伝道を開始し、今年1月には教会設立を果たすことをゆるされました。

日曜学校は主日の朝9時から10時までの一時間です。9時30分まではともに礼拝をささげ、その後は各分級にわかれます。以下、私たちの日曜学校の特徴について簡潔に記してみたいと思います。

1. 礼拝

毎週、日曜学校教師と契約の子たちの親たち、そして10名ほどの子どもたち、あわせて20名前後で礼拝を守っています。日曜学校にとっても礼拝こそが生命であることを覚えて、礼拝の充実につとめるようにしてきました。礼拝プログラムはここ数年で何度かあらためましたが、主日礼拝（おとなの礼拝）と同じく、み言葉の招きを受け、み言葉の祝福にあずかり、み言葉への感謝の応答をなすという構成をつくりあげることに主眼を置いてきました。

礼拝の中で中会教育委員会発行の「子どもカテキズム」を交読します（校長が短く解説をします）。また「十戒」を唱和し、「主の祈り」を祈ります。

お話は牧師が月一回程度、あとは日曜学校教師たちが持ち回りで担当します。礼拝の司会は教師と子どもたちとで奉仕しています。献金当番は子どもたちが担っています。

最近の取り組みとしては、「子どもカテキズム」の定着をはかるため、一問ごとに教師が曲をつけ、歌うということをしています。こうし

てつくられた「カテキズム・ソング」がもうずいぶんの量になりました。

2. 分級

幼稚科・小学下級科・小学上級科・中学科の四つに分かれています。年に数回は合同分級も行います。最近は幼稚科の子どもたちが増えてきています。

現在は「子どもカテキズム」のカリキュラムに従って日曜学校を行っていますので、前半はカテキズムのおさらいをします。後半は各分級で創意工夫をこらして楽しいひとときを過ごします。教師たちの賜物が毎回よく生かされています。工作をしたり、絵を書いたり、時には散歩に出かけたり（もちろん朝の礼拝前には戻ってきますが）、母の日や父の日にはプレゼントを作ったりします。

3. 年間の諸行事

(1) イースターとクリスマス

近隣の子どもたちの伝道集会としても位置づけています。イースターには、礼拝の後、分級の枠をとりはらって祝会を持ちます。イースターにちなんだゲームをしたり、紙芝居や指人形劇をした年もあります。

クリスマスには、毎年12月のどこかの土曜日の午後に特別の集会を行います。近くの小学校の下校時に教師たちでチラシを配布します。ビデオの上映や子どもたちによる降誕劇、合唱やハンドベル演奏、ゲーム、ケーキ作り、プレゼント等盛り沢山のプログラムを用意します。

(2) 夏期学校

毎年夏に持たれる教会の一泊修養会にあわせ

て、おとなたちとは別プログラムで行います。内容は聖書の学び、ゲームや工作などで、分級の拡大版といったところですが、子どもたちは花火やスイカ割り、そして子どもたちどうしでひとつの部屋で寝られることも楽しみにしているようです。

昨年は三教会（名古屋・岩の上・豊明）の合同夏期キャンプにも参加することができ、楽しいひとときを過ごすことができました。

(3)「光の子新聞」

山口校長の編集による日曜学校新聞です。日曜学校の紹介や行事報告、エッセーやイラスト、写真等毎号充実した内容です。教会員や近隣の子どもたちの保護者にも好評で、伝道にも用いられています。

4. 日曜学校教師会

毎月第三主日の午後に持っています。私たちの教会は（教会としての歴史もまだ浅いのですが）教会員の平均年齢が若いことがひとつの特徴ですが、いまだ三十代の山口校長をはじめ、日曜学校の教師たちも若い方々がそろっています。皆が献身的に日曜学校の奉仕を担い、試行錯誤を重ねながらもつねに教師会の向上につとめてきました。現在、教師は牧師も含めて7名です。

教師会は大体以下のようなプログラムで進められます。

- ①その月の奉仕分担の確認。
- ②クラス・レポート。各分級の現状や課題について報告し、祈りのときを持ちます。
- ③教案研究。中会教育委員会発行の『子どもカテキズム』と『日曜学校教案誌』にもとづいて、毎回の教課のポイントについて確認します。
- ④読書会。『子どものための説教入門』加藤常昭著。
- ⑤その他。諸行事の打ち合わせ等。
加えて教案誌の分級（小学上級）の執筆も担

当することになりましたので、分担して原稿を書き、それを相互に検討しあう時も持つことにしています。

従来からとりわけ比重を置いてきたのは教案研究です。日曜学校のための準備を個々の教師に任せるのではなく、ともにみ言葉を学びあう中で、子どもたちとともに福音の恵みに生かされていくことを願いながら、行事の計画や事務的な打ち合わせに時間が不足しがちなおりに、つとめてこの時を確保するようにしてきました。日曜学校教師である前に、神の前に立つひとりの人間としてみ言葉に聞くいとなみを重ねていくことは、子どもたちに語りかける言葉を獲得していく上でもとても大切であると思われています。『日曜学校教案誌』第2号の「まえがき」にも、このあたりのことは少し書かせていただきました。

5. 現状と課題

前述のように、ここ数年はとくにカテキズムによる信仰教育に力を注ぎできました。2000年度にはそれまで使用していた教案誌を思いきってとりやめ、稲毛海岸教会の「子どもカテキズム」を参考にさせていただきながら、独自の教案を作成して一年を過ごしました。そして、現在は中会教育委員会発行のカテキズムと教案誌を用いながら信仰教育に取り組んでいます。今与えられている生徒は契約の子どもたちがほとんどですが、これらの子どもたちがひとり残らず信仰告白に導かれるよう祈り願っています。

昨年、契約の子どものひとりがクリスマスに信仰告白をしました（小学6年生）。『子どもカテキズム』を用いながら、一年間日曜学校校長と牧師とで信仰告白準備会を持ちました。あとに続く子どもたちのためのモデル・ケースとなってほしいと願っています。

近隣の子どもたちへの伝道については、まだまだこれからの課題です。ただ、いくにんかは継続して日曜学校につらなり、そして友だちを

誘ってきてくれます。子どもたちが伝道するのだということをいつも覚えさせられます。それから、最近になって教会が近所の子どもたちの日曜日のたまり場(?)のひとつになっているように感じます。午後やってきて、教会でみんなでお食事をし、びわの実をもいで食べたり、おとなたちと交わったり、庭や牧師館で遊んで

いたりする子たちがあります。それがきっかけで日曜学校に来る子もいます。現代の社会や家庭をとりまく複雑な状況の中で、教会が地域の子どもたちにとってもある安らぎを与える場所であることが求められているのだろうかと思わされているところです。

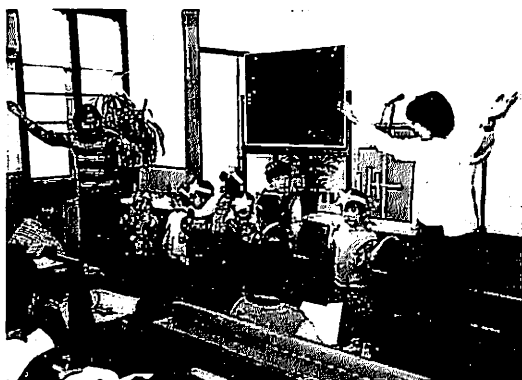
2001年クリスマス会の写真



じゃんけんゲーム



記念写真



幼稚科のおゆうぎ



ケーキ作り

中学生・高校生のための教会史

杉山 明 (瑞浪伝道所宣教師)

第39課 イギリスの教会改革 (1)

これまで、宗教改革がルター派教会、改革派教会、再洗礼派教会を生み出したことを学んできた。これに加えて、英国国教会というもう一つの信仰類型をもった教会をも生み出した。改革派や再洗礼派より緩慢な改革にとどまった教会である。

ヘンリー八世の時代の改革

ヘンリー八世 (1509～47年在位) の時代の改革は、政治的理由による改革であった。イングランドの教会では国王が主教を任命する伝統が続いてきた。政治にも聖職者が登用され、そのため霊性よりも政治的力量が聖職者に求められていた。ヘンリー八世はカトリック的信仰をもち、ルターの著書の使用を禁じた。そのため、ローマ教会から「信仰の擁護者」との称号さえ受けた。しかし、結婚問題でローマ教会と対立することになった。彼は、兄の未亡人キャサリンと結婚していたが、二人の間に与えられた子ども6人のうち、生き残ったのは一人の女子であった。嗣子は男子でなければならないとの理由で、王は別の女性と結婚し、男子の嗣子を与えられた。この結婚がローマ教会法に違反するため、教皇から絶縁を宣告された。話し合いによる解決が不可能なことを悟った王は、ローマ教会への報復を開始した。1531年、聖職者会議に罰金を科し、国王が教会の最高首長であることを宣告し、1532年に聖職者がローマに納める初年上納金を禁じ、1533年には教会法作成にも国王の許可が必要であることを議会に認めさせた。ヘンリーはトマス・克蘭マー (1489～1556

年) をカンタベリーの大主教に任命し、その克蘭マーによってキャサリンとの結婚の無効の判決を得た。1534年、議会から得たローマ教皇への服従の拒否法令を実行に移し、徹底的に教皇首位権を拒否した。議会は国王が英国教会における地上の唯一の最高首長であることを宣言する「首長令」(国王至上法) を可決した。

エドワード八世の時代の改革

エドワード六世 (1547～53年在位) の時代になると、政治的にローマ教会との独立という改革から、より積極的な教会改革へと変わっていた。その推進者はトマス・克蘭マーである。また、若くして即位したエドワードは、母方の伯父サマセット公爵が摂政となったが、彼はプロテスタントの同調者であり、国王を説得して宗教上の自由を認め、政治的自由も認めるように導き、両面での改革を行った。一般信徒のブドウ酒の陪餐許可、父の定めたカトリック主義者として規定する「六個条法」を廃止し、「画像取り外し令」を出し、聖職者の結婚を認めた。1549年には克蘭マーが作成に携わった英語の「共通祈祷書」の使用を定めた。ルター的傾向をもっていたがローマ的慣行が残った祈祷書である。

カトリックへの反動

エドワード六世は、スコットランドをイングランドと統一しようと図ったが、統一に失敗し、エドワード六世は失脚した。キャサリンの娘メアリー・テューダーが1553年に即位しメアリー一世

となり5年間在位した。メアリー一世はローマ教会の枢機脚の支援を得てカトリックの慣行を復活させ、それに従わない者を迫害し、国外追放や処刑した。クランマーもその犠牲者の一人となった。

エリザベス一世の改革

メアリー一世の対抗宗教改革にもかかわらず、イングランドの教会改革の火は消えなかった。1558年、メアリー一世の死後、異母姉妹のエリザベスが王位につき、エリザベス一世となった。彼女は、政治的には王が国の唯一の統治者とする首長令を発したが、宗教的にはヘンリー八世の立場を回復したいと望んでいた。しかし、ローマの賛成を得ることができず、プロテスタント

の立場をとらざるを得なかった。そのため、ローマとの対決を積極的には進めず、両者の中庸を行く穏健な宗教政策を実施した。1552年の祈禱書を改定し、信仰形式統一令を出してこれを使用させ、エドワード六世時代に採用したカルヴァンの色彩の強い信条「42個条」を改定し、「39個条」を議会に承認させ、国教会の信条とした。カンタベリー大主教の任職も国内の主教たちによって実施させた。ローマ教皇ピウス五世は女王を破門したが、女王はこれに屈せず、中庸の改革の道を保った。教皇はスペインの軍事力をもって従わせようとしたが、1588年、スペインの大艦隊はイングランド軍に撃破され、イングランド教会のカトリック化に終止符が打たれた。

第40課 イギリスの教会改革(2) —清教徒と分離派—

改革者と女王の対立

エリザベス一世の教会改革に関する中庸政策は多くの国民の賛同を得たが、教会改革を強かに推進しようとする改革者たちとは対立した。メアリー一世時代の迫害で大陸に逃れ、宗教改革の実際を見聞して帰国した改革者たちは、聖書の権威に従う教会の実現を期し、教会を清めんとした。改革者たちは、この志と行動から、1560年代に「ピューリタン(清教徒)」と呼ばれるようになった。彼らは教職会議に改革計画案を提出し、敗れたが、女王の強力なライバルとなった。清教徒の多くは国教会を否定するのではなく、国教会の教会制度のあり方に異論を主張していた。国教会が監督制度であったのに対し、カートライト(1535～1648年)派は長老制を、ジェイコブ(1563～1624年)派は会衆制を求めたのである。女王はローマ教会の脅威が去ると、清教徒を敵視し、1593年、「反清教徒令」を議会で成立させ、取締りを行った。

ジェームズ一世時代

1603年、スコットランドの王ジェームズ六世がイングランドの王位を継ぎ、ジェームズ一世(1603～25年在位)となった。彼はカルヴァン主義の信仰をもっていたが、制度は監督制を好んだ。君主制に都合がよいからである。清教徒たちは新たな王に長老制を期待して「千人請願書」を提出したが、入れられず、対立することとなった。ただ、ジェームズ一世は、英語聖書を作ることを議会に決定させ、「欽定訳」聖書を1611年に完成させたことで、教会に貢献した。

チャールズ一世とピューリタン革命

父ジェームズ一世の後を継いだチャールズ一世(1625～49年在位)は、神権を持つ君主制と教会の監督制を強く支持し、議회를君主の補助手段とみなした。また、アルミニウス神学を採用しようとしたため、清教徒を失望に陥れた。そのため、1628年～42年の間に2万人の清教徒がアメリカ大陸に渡るようになった。チャール

ズー一世は、スコットランドにも監督制と共通祈禱書を押し付けようとし、スコットランド人の暴動を引き起こした。1638年、スコットランドの指導者たちは、長老制度を擁護する「国民契約」に署名してイングランドに侵入した。侵入を防ぎ戦いに勝利を占めるためには、戦費が必要であり、王はイングランド議会の協力を求めなければならなかった。王の専制を良しとしない議会は、時を逃さず主権を議会の手に取り戻すことを図った。王の顧問官を投獄し、処刑した。しかし、宗教問題では長老制や会衆制を望む清教徒が占める議会派と監督制の継続を求める王党派が対立し、議会内の統一が図られず内乱状態が続いた。1646年、これに終止符を打ったのが、オリヴァー・クロムウェル（1599～1658年）であった。彼はすぐれた軍事的手腕によって、長期にわたって議회를清教徒の手に握らせた。チャールズ王は1646年に議会の捕虜となり、1649年には議会の手による裁判に付されて処刑された。

ウェストミンスター神学会議と信条の作成

王党派との対立が続く議会で、1643年、議会は監督制を廃止し、ついでウェストミンスター神学会議を招集し、国民教会の政治と信条に

ついでの勧告を求めた。神学会議は151名の清教徒と8名のスコットランド長老教会代表者によって構成され、1643年から1649年にかけてその仕事に携わった。1644年に「礼拝指針」、1645年に長老政治に立つ「政治規準」、1646年に「ウェストミンスター信仰告白」、1648年には、「大・小教理問答書」を完成し、スコットランドとイングランド両方で採用された。こうして長老派が議회를支配し、宗教改革が完成したかに見えたが、会衆主義に立つ軍の給与の未支払いなど配慮と義務を怠ったため、1648年、軍による粛清が行われ、長老派議員は追放され、会衆派議員が残務整理に当たることになった。

教会改革の後退

クロムウェルは、1649年から共和国を建設し、軍の支持を得て1658年まで統治した。彼が死ぬと無政府状態となり、王制復興が期待された。追放されていた1660年に、チャールズ二世は王としてロンドンに入り、議会は王党派と監督制支持者が選ばれ、祈禱書から清教徒色が一掃され、1662年には清教徒を締め出すための「統一令」が、また1664年には「秘密集会禁止令」が出された。こうしてイングランドの改革は後退した。

第41課 アメリカのキリスト教会の成立

30年戦争と武力対決の終結

ヨーロッパ大陸でのカトリック諸侯とプロテスタント諸侯の戦いは、宗教改革初頭から1648年まで続いた。特に1618年から1648年まで、ドイツを中心に行われた「30年戦争」と呼ばれる戦いは、血で血を洗う激しい戦いであった。カトリック信仰に立つ皇帝ルードルフ二世から自分たちの信仰をもって生きる許可を得ていたポヘミアのプロテスタントに対し、1617年、対抗宗教改革の代表者マクシミリアン一世が皇帝に

なると、カトリックの勢力を增強し彼らを圧迫した。それに不満を抱いたプロテスタント側がカトリックの摂政を殺害し、戦争が勃発した。やがてドイツ、スペイン、デンマーク、イングランド、ネーデルランド、スウェーデン、フランスの軍隊が参戦し、ドイツの国土で争う戦いとなった。この30年戦争は両者が和解する「ヴェストファーレン和議」をもって、1648年に終結した。宗教改革以来の両者の激しい争いはこのようにして終わり、17世紀の教会の舞台はアメ

リカ大陸に移動する。

アメリカ大陸と教会

1498年、コロンブスは南アメリカの北部に、1502年には中央アメリカに到達し、ヨーロッパ人の目を新大陸に向けた。イングランドやヨーロッパ各地からの移民が始まり、それと共にプロテスタント教会諸派が1607年から1732年までにアメリカに代表を置くようになった。ある人々は貿易を有利にするため、ある者は故国の人口過剰削減のため、また別の人々はスペインの脅威と対抗するため、新しい伝道を志し、自分たちの信仰に基く宗教生活を自由に確立するためと、移民者たちの目的は様々であった。

会衆派の入植

1606年、ヴァージニア植民会社が政府の許可を得て移民者をアメリカに送りこんだ。そこでは、宗教は英国教会を公認とすることが規定されていた。この地に清教徒的英国教会員が入植した。タバコの栽培に成功し、その農園経営のため奴隷を購入し、奴隷制度がアメリカに確立した。一方、ニューイングランドにはイングランドの迫害によりオランダを経てきた会衆派の人々が入植した。1620年8月、ピリグリム・ファーザーズという名で知られている約100名がメイフラワー号に乗ってニューイングランドのプリマスに入植した。彼らは、上陸前に結んだ「メイフラワー号契約」に基づいた契約思想を適用して市民生活を送った。1628年以降、多くの清教徒たちがサレムとボストンに移住し、会衆制度の教会を強化した。彼らの移民に貢献したジョン・ホワイト（1866～1933年）がチャールズ一世の専制政治からの自由を求めて渡来し、マサチューセッツ州に入り、大きな働きをした。

彼らはカルヴァン主義の神学を持つ会衆主義の教会を1629年に組織した。

バプテスト教会の移植

清教徒の一人ロジャー・ウィリアムズ（1603～83年）は、分離派の思想を持ち、独立精神の持ち主であったため、1631年にイングランドを去り、ボストンに、またプリマスに行き、教職を勤めた。州会議の干渉を受け管区から追放され、さまよううちにインディアンに助けられ、プロビデンスに植民地を開き、伝道を開始することができた。1639年に一つの教会を設立し、ウィリアムズをはじめ会員全員が再洗礼を受け、12名の会員がバプテスト方式による教会組織をした。1648年には、ニューポートにもバプテスト教会が設立された。

長老派教会の入植

1623年にオランダ人がニューヨークに入り、長老主義であるオランダ改革派教会を組織した。後日、彼らの多くが長老教会に加わった。フランスのユグノーも迫害から逃れてアメリカの東部に住まい、彼らの過半数も後に長老教会に加わった。アメリカ長老教会の基盤となった群れは、16世紀前半に北アイルランド移住させられたスコットランド長老教会の信徒たちである。彼らは1710年以降に経済的差別待遇が生じたため、アメリカに移住した。1775年までには50万人にもものぼった。彼らはペンシルバニア州に落ち着き、そこを長老教会の中心地とした。1706年、初めての中会をフィラデルフィアで設立し、1717年には大会を開催した。1729年にはウェストミンスター信仰告白を採択し、長老教会の歴史が始まった。

第42課 ドイツ敬虔主義

敬虔主義の登場

ドイツ敬虔主義は、ドイツのルター派教会がプロテスタント・スコラ主義と呼ばれる観念的な教理主義に陥ったことへの反動として発生した運動である。信仰における理性の働きを重要視した結果、教会の霊的状态が停滞した。これに対して敬虔主義は、感情を重要視し、キリスト者の新生を強調し、個人的信仰と霊的暖かさを生活体験の中に求め、信徒の役割を擁護した。17世紀初頭にオランダ改革派教会で発生したが、ドイツで30年戦争後に広がった。戦争の混乱によって敬虔主義を受け入れやすい状態にあったからである。

ドイツ敬虔主義の創始者シュペーナー

ドイツに敬虔主義の基礎を据えたのは、フランクフルトのルター派教会牧師フィリップ・ヤコブ・シュペーナー（1635～1705年）である。彼はルターの教理よりルターの訴える献身的生活を強調し、祈りと聖書研究と聖霊の内的照明の証である霊的体験を分かち合う家庭集会を開始した。この家庭集会が急速に広まり、敬虔主義運動に発展し、ドイツの教会に命を吹き込むことに成功した。しかし、他方では、敬虔主義運動に賛同する人々がルター派教会から離脱し、新しい教派を設立したために、ルター派教会の弱体化をも招くことになった。

敬虔主義の発展の貢献者フランケ

シュペーナーの影響を受けたアウグスト・ヘルマン・フランケ（1663～1727年）は、ライプチヒ大学の教授時代に敬虔主義にもとづく聖書学校を創立し、大学生や市民の間に信仰の覚醒を起こすことに成功した。また、ハレ大学に招かれると、そこを敬虔主義運動の中心地として運動を続けた。また、貧しい子どもたちのため

に学校を創設し好評をえると、2年後には中学校も創設したばかりか、孤児のためには孤児院を建設し、社会的貢献をとおして敬虔主義に生きる証を自ら示した。こうした働きによって、敬虔主義の裾野を広げた。

ツィンツェンドルフとモラヴィア派教会

シュペーナーの弟子であったザクセンの首都ドレスデンに生まれ、所領を持つニコラウス・ルートヴィヒ・ツィンツェンドルフ伯（1700～60年）は、敬虔主義の立場を広めたもう一人の人物である。彼はフランケの学校に学び、敬虔を学んだ。彼はまた、ポーランドの改革を試みた先駆者ヨハネス・フスの霊的遺産と言われるモラヴィア兄弟団の人々がザクセンに逃れてきたとき、自分の所領を開放してヘルンフート村を作らせ、1717年、モラヴィア派教会の再生に寄与した。モラヴィア派は、はじめの頃はルター派教会の一つの群れと考えられていたが、1742年にプロイセンで一つの独立した教会として政府に認められ、さらに1745年に監督、長老、執事を教会役員として持つ長老制によるプロテスタント教会となった。ヘルンフート村の運営は、モラヴィア派の4人の長老によってなされたが、ツィンツェンドルフも土地所有者として彼らを統率する権利を持っていた。モラヴィア派の人々は、家族から分離して男女別々の組会をつくり、監督のもとに置き、この世から分離してキリストの王国拡大のために、何処にでも行く共同社会の建設を目指した。正統的ルター教会や他の教派からは分離主義者とみなされ、反対された。彼らとの関わりの中で神秘的情感に満ちたより暖かい「心の宗教」の理念を深めたツィンツェンドルフであったが、ザクセン政府との関係が悪化し、1736年にザクセンを追放された。しばらく西部ドイツで働く機会を見出した後、オラ

ンダに弟子たち共に逃れて働き、1737年にはイングランドに、1741年にはアメリカにまで渡り、敬虔主義信仰をもって伝道に励み、モラヴィア派の会衆を組織化し、幾つかの学校をも設立した後に、1747年帰国を許されたが、1755年にヘルンフートに帰るまでのほとんどをイングランドで過ごした。ヘルンフートの人々は、多くの

讃美歌を作り、運動を強化し、また伝道では他の教派の人々よりも熱心で、宣教師たちを西インド諸島やグリーンランドやアフリカに派遣した。彼らが伝道した場所はいずれも、伝道の困難な場所であったことを覚えたい。敬虔主義の精神を十分に現しているからである。

第43課 リヴァイヴァル運動

18世紀アメリカの教会とリヴァイヴァル運動の発生

17世紀から18世紀に、新大陸アメリカにプロテスタント教会各派が進出し、伝道戦線を広げたのであるが、18世紀の初めの四半世紀が過ぎた頃から宗教生活を変革する運動が起こり、アメリカ各地に広がった。その運動をリヴァイヴァル運動（大覚醒運動）と呼んだ。この運動は、敬虔主義がヨーロッパに及ぼしたのと同様な影響をアメリカの教会に与えた。リヴァイヴァル運動の中心思想は、教会に入る通常の方法として自分の生活を変えてしまう聖霊による再生が必要であるという主張に表されている。水による洗礼を通しての入会ではなく、真の回心の体験をした群れが教会であるという教会観に立ち、厳格な道徳と敬虔を求めた。彼らは、清教徒たちが持っていた信仰の姿の再生を志したのである。この運動が起こった背景には、開拓者の影響や、繰り返される戦争、飢餓や戦争により引き起こされる頻繁な移動、また政教分離などによって、入植した人々が道徳的退廃と宗教への無関心に襲われ、教会から離れる事態が生じていたことがある。そのため、教会の活力が失われていたため、この運動が求められたのである。

中部植民地のリヴァイヴァル運動の始まり

リヴァイヴァル運動は、ニュージャージー州ラリタン・バレーから始まった。ピューリタン

の影響を受けたオランダ改革派教会の牧師セオドア・ジェイコブ・フリーリングハイゼン（1691～1747年）は、体験的知識に信徒たちの目を向けるよう指導し、その結果、信徒たちが目覚め、信仰復興が起きた。やがてオランダ改革派教会のみならず、長老教会の間にも広がった。アメリカ長老教会においてリヴァイヴァル運動を推進したのは、ウィリアム・テナント（1673～1746年）とその息子ギルバートである。当時、長老教会は正しい教理の重要性を多く旧派と、イングランドの清教徒的体験信仰を重視する新派があり、リヴァイヴァル運動は、最初、新派に受け入れられた。1751年以来、フィラデルフィア大会（旧派）とニューヨーク大会（新派）とに分割されていたが、1758年に合同し、全体が信仰覚醒運動の影響を少なからず受けた。

リヴァイヴァル運動の広がり

1734～35年、ノーザンプトンの会衆派牧師でカルヴァン主義神学をもつジョナサン・エドワーズ（1703～58年）の指導により、覚醒運動はその町に広がり、ニューイングランドに達した。ちょうどその時、イングランドの説教者ジョージ・ホイットフィールドがアメリカ滞在中で、ボストンとニューイングランドで説教をして覚醒運動に刺激を与えた。南部植民地では、1740～50年代、ヴァージニアとその南の地方で反体制教会派の中で広がった。サミュエル・デイヴィ

スの熱烈な説教の影響による。また、バプテスト派教会の中でも1750年代にリヴァイヴァル運動が始まったが、従来のバプテスト教会に受け入れられず、分離して新たな教派を設立した。アメリカにおけるリヴァイヴァル運動は、独立戦争に人々の関心が燃え上がるまで続いた。

メソジスト運動の影響

イギリスに始まったメソジスト運動がアメリカに伝えられたのは1766年であり、ニューヨークとメリーランドで同じころに伝道が開始された。ウェスリはアメリカ伝道のため8人の信徒伝道者を指名し、1769年に最初の伝道者を派遣した。信徒伝道者トマス・ウェブが早い時期に伝道をなし、独立戦争後も活躍したのは、アメリカ・メソジスト教会初代監督となったフランシス・アズベリ（1745～1816年）である。

独立戦争後の教会

18世紀終わりの四半世紀に北アメリカには13の植民地があり、独立戦争をへて、1789年にアメリカ合衆国憲法が成立した。その独立期における教会は、合理主義と政治への熱中により衰退したが、この時代に宗教的自由を獲得したことは注目に値する。国教以外の宗教の自由を獲得したことは、中世以来の1000年の歴史を塗り替え、諸教派が共存する市民社会を築く基礎を確立したからである。

リヴァイヴァル運動の負の効果

リヴァイヴァル運動はアメリカの教会の活性化に大いに貢献したが、反面、ある人々には霊的高揚よりも批判と非難の心を起こさせ、教会の分裂や、アルミニウスの思想やユニテリアン思想の普及を助長するマイナス効果をもたらした。

第44課 近代合理主義と教会

社会の変化

宗教改革は、宗教が教育や文化を支配するとの考えや唯一の礼拝形式の主張、現世よりも来世を重要視する宗教観、禁欲主義的傾向の維持など、中世の諸要素をも内包していたが、教会の制度、信仰の役割、礼典の意味、御言葉と説教の重要視、職業による神への奉仕の概念など中世の概念を超えた要素をもっていた。宗教改革の教会には、患みに動かされた信仰が躍動していた。ところが、その教会も時間の経過と共に活力を失い、プロテスタント・スコラ主義に陥り、その反動として17世紀半ばから現世的傾向に陥ってしまった。

教会の現世化を促したほかの要因は、教会の社会支配が終わり、文明の宗教的中立を求める勢いに押されたこと、また、社会の担い手に変化が生じたことによる。これまでの大地主や貴

族に代わって、専門職階級や商人階級、労働者階級が台頭し、教育や政治の面で大きな影響力を発揮するようになった。教会も国家も、彼らに寛容を示し、その結果、多くの分派や無宗教の人々を生むことになった。さらに、近代科学（経験科学）や哲学（合理主義）の勃興が社会の現世化に影響を与え、理神論を生み出し、ついに教会の現世化（世俗化）にも作用した。

合理主義の勃興

近代科学の発達は、人間の目を宇宙や宇宙の中の人間に目を向けさせ、人間理解を変えていった。さらに、あらゆる物の見方や多様な解釈があることを理解させた。地球中心の宇宙論から太陽中心の宇宙論への転換に寄与したコペルニクス、それを追認したガリレオ、惑星の運動法則を見出したケプラー、引力の法則を発見した

ニュートンなどが、観察によって知ることができた結果によって真理が論証されるということを証明した。この科学的帰納法が哲学にも応用された。フランシス・ベーコン（1561～1626年）が中世においてスコラ神学が用いた演繹法を捨てて帰納法を採用し、仮定を実験によって実証したときにのみ真理と認証する方法を採用した。イギリス人ジョン・ロック（1632～1704年）は、精神の中に固定観念の存在を否定し、幼児の精神が白紙であることを主張した。さらに、ルネ・デカルト（1596～1650年）は、人間は啓示によらず、理性によって真理を見出す力を持つと考え、知性が十分に理解するものだけが真の知識であると強調した。また、神と霊の存在も理性によってその存在を承認することができることを主張した。デカルトの思想はライブニッツやスピノザによってさらに発展し、人間の自立的理性と科学的方法によって獲得できるものを認識するようになった。やがて、神は人間が認識できる自然の内に内在すると考える汎神論に発展した。

理神論の影響

イギリスでも合理主義哲学の影響のもとに、理神論が生まれ、そこからドイツ、フランス、アメリカへと広がっていった。理神論は、人格的な神を認めるが、神は被造物を創造し、その後は自然法則の支配に委ねたという信仰体系を

打ちたてた。それゆえ、奇跡や啓示を否定し、神は、道徳的教師であるキリストを通しての贖い主として被造物世界に内在すると主張した。理神論の父と呼ばれる哲学者エドワード・ハーバートが1624年に理神論を発表したことに始まり、デイヴィッド・ヒュームが活躍する18世紀半ばまで、理神論はイギリスの上流社会に受け入れられた。フランスでは、18世紀に入るとルソーやヴォルテールに受け継がれ、聖書の権威、ローマ・カトリック教会の権力に反対し、信教の不寛容と対決した。アメリカでは、フランクリン、ジェファソン、トマス・ペインなどが理神論者の指導者として活躍した。そのため教会は、カトリック、プロテスタントを問わず大きな悪影響を受けた。

理神論への防御

正統信仰を保持する教会は、理神論者の攻撃を黙視したのではない。信仰を擁護するために、ウィリアム・ローやジョーゼフ・バトラー、ウィリアム・ペーリなどが理神論から無神論に至る合理主義に反論をした。ローは1732年に「理性の真相」を、1736年にバトラーは「宗教の類比」を、1794年にペーリは「キリスト教の証換観」を、1802年には「自然神学」を著し、神存在の証明や啓示と奇跡の証明をなし、正統的信仰の擁護のために戦った。

第45課 国家主義の嵐の中で

理神論と国家主義

理神論者たちの思想は、超越神の否定と教会の権威の弱体化をもたらすと共に、国家主義を強化する役割を果たした。17世紀にオランダの法学者グロティウスやイギリスのホブズなどによってすでに国家にも理性があると主張されてきたが、18世紀になると理神論者であるジャン

ジャック・ルソーは社会契約論に立って、国家の起源は神にでなく自然にあると主張した。彼らは、国家が主権者である人民の相互契約によって発生し、統治者を選び、統治者が義務を負ったとき、人民は反乱する権利があると考えた。18世紀前半に、合理主義と戦い傷ついた教会は、さらに、18世紀の最後の四半世紀に理神論の影

響のもとに発展した国家主義との大きな戦いを強いられた。

絶対的君主国家の登場

18世紀に宗教を国家の統治手段のように扱う絶対君主国家が登場した。まず、フランスではルイ十四世（1643～71年在位）が「朕は国家なり」と主張し、国家の統一のために国内の宗教をも統一しようと図った。国内はカトリックが多数で、16世紀末以来、ナントの勅令に守られて信教の自由を得ていた少数のユグノーと呼ばれたプロテスタントが共存していたが、カトリックはそのユグノーの絶滅を図った。そのため、多くの殉教者を出し、国外逃亡者は25万人を超えた。次に、ロシアでは、ピョートル一世（1682～1725年在位）がロシア正教会からの影響を排除するために、首都をベテルスブルクに移し、教会会議を廃止させ、教会を管理するために、帝政ロシアの国家の一機関として会議を設けた。そして懺悔制度を政治的に利用して取締りを強化した。プロイセンでもフリードリヒ二世（1740～86年在位）が教会の自治権を奪い、ルーテル教会を国家の監督下においた。以上のように、教会の自律性が国家によって蹂躙されたのである。

フランスの国家主義

フランスのカトリック教会は、多くの土地を所有し、土地からの収入は聖職者たちの手に入り、彼らを豊かにした。他方、95%を超える農民は貧しく、人々の間に貧富の差をもたらしていた。フランスの王ルイ十六世は財政再建の効果をおげることができず、国民の不満が爆発し、フランス革命が発生した。1789年6月に、長期にわたって閉ざされていた国民議会が招集され、8月には「人権宣言」が出され、共和国が成立した。しかし、この共和国も国家主義に立つ宗教政策を行った。国民議会は教会の領地は公共

の財産であると宣言し、1790年には「聖職者基本法」を制定し、司教区と司教の数は縮小され、修道院は廃止され、聖職者たちは国からの俸給によって生活することになり、国に対して忠誠を宣誓するように義務付けられた。教皇は教会の教理を決める権限のみに限定されてしまった。教会と国家の関係が中世とは逆転し、国家が教会を支配することになった。

1791年、ロベスピエールが率いるジャコバン党が勢力を増大し、パリを制圧し、恐怖政治を行った。1793年にルイ十六世は死刑に処せられたが、クーデターが起こり、ロベスピエール自身も1794年に処刑されて、恐怖政治は終わった。教会はその2年間、国家と全面対決を余儀なくされ、従わない聖職者は処刑され、国外に逃れたものが4万人にのぼった。1795年になってやっとすべての信教の自由が認められ、共和国の法に宣誓する限り礼拝を行うことができるようになった。

やがてナポレオン・ボナパルトが頭角を現したが、共和国は、国家の法に宣誓しない聖職者たちへの取り締まりを軽減せず、聖職者たちは亡命先でもフランスの威光を恐れて受け入れられず、プロテスタント諸国に逃れてようやく亡命を許されたのであった。フランス軍の侵入によりピウス六世は1798年に退位させられ、監禁のち追放され、その途上で死去した。1799年にナポレオンが政権を掌握すると、政策を遂行するためにカトリック教会との協力の必要を感じ、教皇ピウス七世と1802年に「宗教協約」を結び、関係を回復したが、長くは続かなかった。1809年には、教皇領をフランスに統合し、ピウス七世を3年間監禁した。ナポレオンが1815年、ワーテルローの戦いに敗れ失脚するまで、イタリアとフランスにおいては国家主義の干渉と迫害が激しく教会を脅かし、教会はこれと戦わなければならなかった。

第46課 産業革命の影に

18世紀のイギリスの信仰復興

ピューリタン革命以後、18世紀のイギリス教会は信仰の面で中庸の道を選んだのであるが、その生ぬるさのゆえに、神学においても、信仰の確信においても情熱を失ってしまった。説教は力を失い、道徳的講和のようになりがちとなった。信仰の停滞は国民の道徳的退廃を生じた。理神論との戦いでは正統神学が勝利を占めたが、一般の国民の不敬虔を克服することができなかった。生きた宗教の衰退はひどい状態であった。この現実に関心を痛めたウェールズ地方の幾人かの牧師たちが、福音的説教に力を注いだ。グリフィス・ジョーンズ（1631～1761年）がその代表者である。また、小学校の校長であったハウエル・ハリス（1714～73年）が回心し、熱烈な説教によって人々を信仰復興に導き、カルヴァン主義的メソジスト教会を設立した。信仰復興はウェールズから始まり、ついでイギリス全土に広まった。イギリスの信仰復興は1738年から1742年まで続き、そのおもな担い手は、メソジスト教会の創始者ジョン・ウェスリ（1714～70年）と弟チャールズ・ウェスリ、並びにジョージ・ホイットフィールド（1703～91年）である。

産業革命

18世紀末から19世紀の初頭になるとイギリス国教会は、産業革命という一つの荒波にもまれた。産業革命は1760年にイギリスで始まり、1830年以降ヨーロッパに広まった社会構造の大変革である。従来の手工業から大工業に変わり、産業の技術的基礎が一変した。イギリスにおける田舎の日常的仕事のあり方が変化したことに始まったと言われている。この革命を促した幾つかの理由がある。植民地獲得にともない18世紀の人口が増加し、市場が拡大したこと、労働力

の不足を補う技術の革新がなされたこと、なかでも動力源を飛躍的に供給する蒸気機関の改良されたことなどである。蒸気機関の購入のためには多くの資本が必要であり、また利潤を得るためには手工業から大企業への脱皮が必要となった。近代資本主義の誕生である。大企業における工場では、正確さ、几帳面さ、無駄の排除が強調された。こうして従来の自然のリズムによる生活が機械のリズムによる生活へと変革し、それにふさわしい新しい道徳と生活様式を生み出した。

教会の対応

産業化はイギリスの中部と北部に都市社会を生み出した。機械と高い煙突に象徴される新都市に住む人々に対して、1840年代になるまでイギリス国教会は対応することができなかった。教区設立のためには議会の承認が必要であり、そのために時間を浪費したからである。この人々のためにすばやく対応したのがメソジスト主義にたつ伝道者たちであった。メソジスト教会の創始者であるジョン・ウェスリは、1728年、イギリス国教会の司祭となり、終生国教会から分離しようとは考えなかったが、彼の死（1791年）後、国教会から分離して「メソジスト教会」が独立した。ウェスリは、1729年ごろ、オックスフォード大学研究員として在学中、少数のクラブを指導して「聖別された生活」の実現を目指した。1735年にそのクラブに加わったのがホイットフィールドである。彼は1736年にイギリス国教会の主教となり、巡回伝道者の道を歩んだ。メソジスト主義に立つ彼らとその仲間たちが教会の手の届かない所を巡回し、小さな会場や野外においても福音を説き、大衆の魂を神に導いた。

19世紀のイギリスの教会

イギリス国教会から独立したメソジスト教会の働きにより、一般大衆への伝道が進んだが、キリスト者労働者の子どもたちが中産階級を目指したため、教会は中産階級で占められるようになった。他方、なお手の及ばない労働者たちがいた。そこで19世紀になると、手の及ばない労働者たちに伝道を試みる運動や人々が現れた。その中の一人が救世軍の創始者ウィリアム・ブースである。信仰と愛の絆を主張して、労働者伝

道に活躍した。他方、国教会体制の中で信仰の復興に貢献した運動も行われた。その中で最も重要な出来事は、「オックスフォード運動」である。別名トラクト運動とも呼ばれるこの運動は、オックスフォードのオリエル・カレッジに勤める若い聖職者たちにより始められ、最大の指導者は、ジョン・ヘンリー・ニューマン（1808～92年）である。彼は「時事論評」（トラクト）を刊行し、原始キリスト教の復活に教会の命があることを主張した。

第47課 リベラリズム（自由主義）の台頭

教会の世俗化

18世紀の教会は、合理主義、国家主義、科学的方法論の進展、資本主義による社会構造の変化、個人主義などに脅かされた。19世紀に入るとさらにその傾向が世界的に強まり、人間の進歩を信じる進化論、ローマン主義とドイツ観念論哲学、科学的社会主義の影響を受けた神学者が出現し、リベラリズムと呼ばれる神学が盛んになり、聖書の権威を弱め、人々の心を信仰から引き離し、教会の世俗化は増大する。

啓蒙主義哲学の影響

合理主義的啓蒙主義哲学の頂点にたつ哲学者イマヌエル・カント（1724～1804年）は、科学的認識の成立根拠には、二つの要素があると考えた。一つは外部から来る対象、もう一つは人の意識であり、これが外部からの対象を秩序づけ、認識すると主張した。また、宗教のような超経験的なものは科学的対象ではなく、人間の中に存在する道徳的本性に出発点があり、信仰の対象であると主張した。従って宗教の使命は、有神論的倫理の完成にあるとみなした。聖書については神の歴史的客観的啓示を受け入れず、歴史書の一つと考えた。こうしてリベラリズム（自由主義）への哲学的枠を備えた。

ローマン主義の影響

ローマン主義の代表者であるフリードリッヒ・ダニエル・エルンスト・シュライエルマッハー（1768～1834年）は、宗教は理性の領域にあるのではなく、「感情」の領域にあり、人間の「絶対依存の感情」の成果であり、そのため信仰は、絶対的神の歴史的啓示から開放され、自己の中にある依存感情を育てていけばよいと主張した。

リベラリズム神学の発展

19世紀に生物学者チャールス・ロバート・ダーウィンの進化論の影響を受け、進化発展の理念を受け入れた自由主義神学が起こった。その哲学的理念は、ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリッヒ・ヘーゲル（1770～1830年）によって提唱された。彼は、神である絶対精神が、正定立、反定立、総合という三段階を経て弁証法的に発展すると考えた。

ヘーゲルの発展の論理を新約聖書批評に応用したのがフェルディナント・クリスティアン・パウエルである。歴史の中に必ず、正・反・合の三段階があることをキリスト教の歴史に適應すると共に、新約聖書の諸書の年代決定をも試みた。教会史に関しては、初期の弟子たち（ペテロたち）の抱いたメシア待望のユダヤ的キリスト教

が正、パウロ的キリスト教が反、両者の争いの結果、総合としての古カトリック教会が誕生したと説明した。聖書緒論に関しては、パウロ書簡のうち闘争の跡がある文書をパウロの真作とし、他は衝突が忘れられた後の時代の作であり、ヨハネによる福音書と共に総合の時代である2世紀に書かれたと論じた。

シュライエルマッハーの影響を受けた学者アルブレヒト・リチュル(1822~89年)は、宗教の基礎にあるのは個人の依存意識でなく、教会の依存意識であると考え、聖書は教会という共同体の意識の歴史であり、その研究のためには聖書靈感説は必要でなく、歴史的研究方法が必要であると主張した。

聖書批評学

以上のような観念論的哲学は、聖書の超自然的起源を否定し、人間意識の主観的進化の記録であるとみなし、聖書批評学を生み出した。聖書本文の正確さの研究である下等批評は信仰に益をもたらした。しかし、高等批評と呼ばれる聖書緒論の研究は聖書を人間的書物として読み、

人間的手段によって研究しなければならないとの前提に立ち、ジャン・アストリュク(1684~1766年)やヨハン・アイヒホルン(1752~1827年)などによって推し進められたが、聖書の権威を弱める結果をもたらした。彼らの研究は、モーセ五書にヨシュア記を加えた六書は幾つかの資料が合成された文書であるとの結論をもたらした。新約聖書の高等批評は、先にあげたようにパウルによって進められた。

正統神学の擁護者

このようなローマン主義やリベラリズムに対して、ドイツではエルンスト・ヴィルヘルム・ヘングステンベルク(1802~69年)をはじめ、ルター派正統主義に立つ聖書学者たちが保守的神学を擁護した。米国では、長老派教会プリンストン神学校の初代校長であったアーチバルド・アレキサンダー(1772~1851年)やチャールズ・ホッジ(1779~1878年)、ベンジャミン・プレックニンリジ・ウォーフィールド(1851~1921年)などが、このために活躍した。

第48課 戦争と教会

楽観主義の挫折と戦争の20世紀

人間の理性と進化によって世界の平和がもたらされると期待した19世紀の楽観主義は、20世紀に入ると、人類が犯した二つの世界大戦によって、ものの見事に挫折した。戦争の規模の大きさ、筆舌に尽くし難い悲惨さ、一瞬にして何万人を殺戮する科学兵器の登場など、人間の罪悪を剥き出しにした時代を招来したからである。なぜ、19世紀の期待に背く悲観的現実を迎えることになったのであろうか。また、このような現実の中で、教会はどのような営みをしたのであろうか。

戦争と国家主義

20世紀はこれまでの時代よりもはるかに強いナショナリズム(国家主義)が支配した時代である。近代化された国々の中にも、また、近代化に追いつこうとする国々も世俗的な国家の権力を強化することになった。とりわけ、全体主義国家であったドイツ、イタリア、日本と共産主義のソビエト連邦においては、国家の神格化、絶対化が起こった。また、自国の利益を獲得するために、世界の国々が同盟を結びあった。ドイツ、オーストリア、イタリアが結んだ三国同盟と、イギリス、フランス、ロシアが結んだ三国協商との対立を背景に、1914年から1918年ま

でセルヴィアの青年がオーストリアの皇太子を狙撃したことをきっかけに両国の間に戦争が始まった。ロシアがセルヴィアを応援し、そして二つ国と同盟関係を結んでいる諸国が参戦して第一次世界対戦へと広がった。三国同盟側が敗れ、ドイツは痛手を受けた。その敗戦のドイツの不安定な政治の中から、デマとテロを手段として独裁政治を断行したのがヒトラー率いるナチス党であった。ヴェルサイユ体制を破棄し、再軍備を強行し、教会を帝国教会に改組した。さらにオーストリアを合併し、1939年にポーランドに侵入し、第二次世界大戦が開始された。ドイツ、イタリア、日本の間に結ばれていた三国同盟のゆえに、大陸進出を狙ってアメリカと対立していた日本も1941年12月8日に連合国との戦いに参戦した。ドイツと同じように、日本においても政府は教会を国家の戦争体制のために改組し、日本基督教団の誕生をみた。こうして教会の帝国教会化が遂行されつつ、第二次世界大戦は1945年まで続き、連合軍の勝利で終わった。

国家主義と教会の姿勢

この間、全体的には日本の教会もドイツの教会も、また、イタリアのカトリック教会も、国家主義体制との妥協の道を歩み、信教の自由や思想の自由のために戦うことができなかった。しかし、ドイツでは、教会の帝国教会化の中で、少数者によってではあるが、国家の悪魔的性格を見抜いて戦った告白教会が誕生し、ナチズムに対して抵抗運動を展開した。告白教会は、帝国教会の監督を辞任してドイツ教会闘争の指導

者となったマルティーン・ニーメラーやカール・バルトに導かれて、「バルメン宣言」を出し、国家の神格化と対決し、キリストだけが聞くべき神の唯一のみことばであることを主張した。この告白教会の中に、地下抵抗運動に参加して逮捕され、1945年に処刑された若い殉教者ディートリッヒ・ボンヘッフアーがいた。彼は、今日の世界を「成人した世界」であると語り、キリスト者は生活のただなかで、犠牲を払いつつ積極的に隣人に仕えて行くことによって神の真実さが実現するとの信念を現した。この信念をもって、悪魔的國家への抵抗運動に献身したのである。

ローマ・カトリック教会

カトリック教会は、教会の組織が全体主義的であるので、全体主義的國家主義に対して寛容であった。ロシアでは無神論國家のゆえに、政府から迫害を受けたが、政府が教会の教皇制の権能を認める限り、國の制度がどのようなものであれ、これを受け入れ、國政の協力を惜しまなかった。世界大戦中も当時の教皇ピウス十一世は、イタリアの独裁者ムッソリーニがカトリック教会をイタリアの唯一の宗教と認めると、敵意を捨て、ムッソリーニの支配するイタリアを支持するようになった。スペインのフランコ政権やポルトガルのサラザール政権という独裁政権をも支持したし、1933年には、ドイツのヒトラー政権とも妥協した。しかし、ヒトラー政権は、ドイツのカトリック教会を弱体化させ、教会の力は後退した。

第49課 社会主義とキリスト教

社会正義への関心

19世紀から20世紀にかけて、産業革命や近代資本主義の発達に伴い、社会の中に極端な貧富

の差、過酷な労働の強制、様々な公害など、人間生活の抑圧が次第に顕著に表れてきた。しかも何処かの國に起ったことではなく、世界的な

現象であり、深刻な問題となった。そこでこの不正を糾そうとする社会正義への関心が人々の心に深まり、教会もこの大きな波に揺り動かされることになった。自由と平等、博愛と正義の遠行のための責任をどう果たかが教会に問われた。教会はおおむね聖書に教えに従い、信者の信仰と良心に訴えて社会正義を実現するように勧めてきた。アメリカでは企業家であるアンドルー・カーネギー(1835~1919年)は、信仰に立って社会事業によって富を還元すべきであると考えて社会正義に貢献した。また、救世軍は切り捨てられた労働者の霊的救済と物質的救済を目的とした活動を行ってきた。このような教会の対応を社会的不正の事後対策に過ぎず、観念的であると批判した人々が19世紀後半に現れた。

共産主義と社会主義革命

その批判者は、ドイツ観念論哲学と経済学を学び、初期社会主義である空想的社会主義を批判し、科学的社会主義をとえ、革命を指導したカール・ルクス(1818~83年)とその同志フリードリヒ・エンゲルス(1820~95年)である。共にドイツの思想家であったが、その活動はイギリスを拠点にして行われた。不平等など不正の原因は資本主義経済の矛盾にあることを科学的に立証し、無神論的唯物史観に立ち、革命によって抑圧された社会に正義を取り戻す以外に方法はないと主張し、世界の労働者たちに革命を呼びかけた。その革命が成功したのはドイツやイギリスにおいてでなく、ロシアにおいてであった。当時ロシアはロマノフ王朝の専制政治に民衆が苦しんでおり、革命家の呼びかけに応じ、1917年3月(ロシア暦の2月)労働者・兵士らが王朝を打倒し、ケレンスキ臨時政府を樹立した。2月革命である。さらに同年11月にはロシア社会民主労働党から派生したボルシェヴィキ(革命後にロシア共産党に改称)がレーニン指導のもとに臨時政府を倒し、ソビエト政権樹立に成功した。これが10月革命である。ロ

シア正教会は、マルクス主義国家の樹立によって国教としての特権を失い、多くの聖職者たちが追放や投獄に処せられた。ロシア革命の成功は、共産主義革命が社会正義実現の手段であるとの考えを国際的に広げた。

ソビエト社会主義共和国連邦は、1991年に独立国家共同体の成立により崩壊したが、中華人民共和国や朝鮮民主主義人民共和国などいくつかの国家が今日も存在し、革命による社会正義の実現を標榜している。

教会の取り組み

共産主義革命に触発され、社会正義実現の課題に教会は取り組まざるを得なかった。その方法としては、教育や医療や福祉など従来の方法に加えて、これまでにない幾つかの取り組み行われるようになった。マルクス主義との対話を通して、革命を正義実現のための手段と考える「革命の神学」をはじめ、中南米のカトリック教会から生じたすべての抑圧からの救いが聖書の中心メッセージであると主張する「開放の神学」、個人倫理を越えて政治や社会の現状を批判し、自由主義者として政治に参加したラインハルト・ニーバー(1892~1971年)の社会現実主義、賀川豊彦などにも見られるリベラリズムから生じた社会的福音などが、教会を通しての社会正義実現の理念となり、今日もそれぞれの立場で社会正義のために取り組んでいる。

エキメニカルな取り組み

次の課で学ぶところであるが、20世紀は諸教派が共同で、また世界の教会が共同で重要な課題解決に当たろうとした世紀である。プロテスタントでは、超教派の団体である世界教会協議会(WCC)が、特に第二次世界大戦後、社会問題を取り上げ、協議し、宣言を出し、正義の実現のために諸国の教会と協力してきた。また、世界教会協議会に属していない福音派諸教会も遅ればせながら1971年にフランスのローザンヌ

世界伝道会議において、政治・社会的使命について言及する告白をした。また、ローマ・カトリック教会は、1962年から開催した第二バチカ

ン公会議で社会に対する積極的な姿勢を表明し問題と取り組んできた。

第50課 世界教会運動

世界教会運動の萌芽と促進

19世紀の教会は概して外に向かったの拡張を志向したが、20世紀の教会は統合を目指したと見ることができる。諸教会の世界的統合（一致）運動を世界教会運動（エキュメニカル運動）と呼ぶ。世界教会運動は、19世紀の信仰覚醒運動による教派を越えた伝道協力や聖書協会の創立、さらに各派の世界同盟や協議会の結成などにその芽を見ることができるが、本格的な始動は、1910年、エディンバラで開催された「世界宣教協議会」である。その名のとおおりプロテスタント諸教会が宣教にかかわる様々な問題を協議した。閉会式において、ギリシア正教会とローマ・カトリック教徒を加えた会議に発展するようにとの期待を表明した。プロテスタント諸教会はその主旨を活かすため、ストックホルムで1925年、福音の光に照らして正義と権利の促進を目的とした「実践キリスト教会議」を開催した。また、福音、教会の本質、信仰告白、教職の職分、礼典、教会の一致などを討議する「信仰職制世界会議」を1927年にローザンヌで開催した。「実践キリスト教会議」と「信仰職制世界会議」の統合が1938年から準備され、第二次大戦後の1948年に「世界教会協議会」（略称がWCC）という名称で統合が実現した。世界教会協議会は、諸教派間の誤解を解消するためにまず神学と教会論について協議し、60年代に入ると、この世への奉仕と職務の問題の協議に力点をおいた。このようにして教会の分裂から一致への努力を示した。また、カトリックの参加を呼びかけ続けた。

カトリック教会の反応

プロテスタントの招きを拒絶していたカトリック教会は、「世界教会協議会」大会の成果の大きさを認め、態度を軟化した。1950年には非カトリック教徒との会合の禁止を解除し、それ以来、キリスト教の一致のために協力するようになった。また、1958年、教皇となったヨハネス二十三世は、第二ヴァチカン公会議を1962年に招集し、プロテスタントとの協力問題に道を開いた。ヨハネス二十三世の死後、パウロ六世によって公会議は引き継がれ、1965年12月8日まで四つの会期に分けて開かれた。第三会期では、諸教会間の平等な立場での対話を推進する「エキュメニズムに関する教令」を宣言し、教会一致への呼びかけを示した。また第四会期には、全面戦争への警告、戦争絶対反対と回避のための国際協力を訴えた「現代世界憲章」、ユダヤ人への愛と敬意を勧告する「非キリスト教的諸宗教に関する宣言」、「信教の自由に関する宣言」などを発布し、社会正義実現への取り組みも示している。第二バチカン公会議は16の文書を採択した。この会議の影響はただちに現れた。カトリックでは各国語でのミサ式文の使用が始まった。また1965年にはパウロ六世は、ギリシア正教会との和解を推し進め、国連本部にも出席し、平和への訴える労をとった。カトリック教会とほか教派のキリスト者どうしの対話が増加し、さらに両者の共同作業が始まり、各国におけるエキュメニカル運動の推進に貢献している。日本聖書協会による「新共同訳聖書」の発刊もその結果の一つである。

改革派教会の使命

世界教会の一致が叫ばれた20世紀にもう一つの注目すべき教会の運動があった。それは、教会の命に関わるキリスト教神学の復興運動である。18世紀と19世紀、世界のキリスト教会を支配した神学は合理主義キリスト教の神学、リベラリズム神学であった。実践を重んじる自由主義は、神学への興味を奪い、人々を疎遠にした。第一次大戦後、ヨーロッパでエミール・ブルナー（1889～1966年）やカール・バルト（1886～1968年）を中心に、聖書神学と組織神学への関心が高まった。特に、バルトは『教会教義学』という大著を書き、超越的で人格的な神、啓示

の絶対的必要性、人間の罪性を強調し、神の恩恵の神学を主張した。シュライエルマッハーの主観主義やリッチュルの相対主義に立つ神学を批判し、自由主義神学に歯止めをなし、正統神学の復興に貢献した。教会の一致の基礎となる神の啓示である聖書に人々の関心を呼び起こしたのである。バルト神学にも不十分さがあるが、この神学運動を継承し、教会の命である聖書の權威の意味をさらに明らかにしつつ、教会に命の息吹を提供することが改革派教会の最大の使命であろう。

（完）

『日曜学校教案誌』発行のための 自由募金のお願い

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名をあがめます。

中部中会教育委員会は、諸教会の日曜学校教育に資することを目的として『日曜学校教案誌』を発行しています。『子どもカテキズム』を1000部発行し、また『教案誌』も第七号を発行するまでに至っています。中部中会においては、すでに三分の二を越える教会がこの『教案誌』を採用していただき、他中会、他教会においても採用して下さる教会が与えられています。皆様のご支援に心から感謝を申し上げます。

この『教案誌』の発行のために、中部中会から援助を受けておりますが、あわせて皆様からの自由募金によってご支援いただきたいと願って、中部中会2002年度第一回定期会において自由募金の願いを提案し、承認していただきました。この献金は、『教案誌』の編集・出版のための費用として用いられます。子どもたちの信仰教育のための『教案誌』の発行のために、ぜひ皆様からのお祈りと献金のご支援をいただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。『教案誌』を購入くださることも、発行のための支援となります。信仰の養いの益ともなりますので、ぜひ『教案誌』のご購入もよろしくお願ひいたします。皆様のお祈りと献金のご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

目標金額	10万円
期 間	2002年4月～2003年3月末
送 金 先	郵便振替 長谷川正一 00840-3-3192

※『教案誌』自由募金である旨、振込用紙にご記入ください

日曜学校 2002年度カリキュラム (2003年1～3月分)

2年サイクル第2年 (子どもカテキズム問34～85)

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単 元 の 目 標			
1月5日 新 年	聖餐 (主の晩餐)	問74, 75	ウ小96, 97、ハイデ75-82
		マルコ14: 22-26	ヨハネ6: 35
聖餐の恵みを教え、聖餐に招く			
12日	祈りとは何か (一)	問76	ウ小98、ハイデ116, 117
		サムエル上3: 1-10	サムエル上3: 10b
祈りは御言葉に耳を傾けることから始まることを学ぶ			
19日	祈りとは何か (二)	問76	ウ小98、ハイデ116-118
		使徒言行録12: 1-19	フィリピ4: 6
主なる神を信頼して、どんなことでも素直にお祈りするよう励ます			
26日	祈りのお手本 —主の祈り—	問77	ウ小99、ハイデ118, 119
		ルカ11: 1-4	ルカ11: 1b-2a
イエスさまの教えられた主の祈りを私たちの祈りとする			
2月2日	天の父よ	問78	ウ小100、ハイデ120, 121
		マタイ6: 9-13	主の祈り
神の子とされた喜びをもって父の御名を呼ぶ			
9日	御名をあげめ させたまえ	問79	ウ小101、ハイデ122
		マタイ6: 9-13	主の祈り
祈りとは、神をほめたたえ、神の栄光をあらわすことである			
16日	御国を来たらせたまえ	問80	ウ小102、ハイデ123
		マタイ6: 9-13	主の祈り
祈りとは、御国の完成を待ち望んで生きることである			
23日	御心の天になるごとく	問81	ウ小103、ハイデ124
		マタイ6: 9-13	主の祈り
祈りとは、私たちの心を神の御心に重ね合わせることである			
3月2日	日用の糧を与えたまえ	問82	ウ小104、ハイデ125
		マタイ6: 9-13	主の祈り
いつでもどんなことでも、主なる神に祈り求めて歩む			
9日	我らの罪を赦したまえ	問83	ウ小105、ハイデ126
		マタイ6: 9-13	主の祈り
十字架の主イエス・キリストを仰いで、罪の赦しに生きる			
16日	悪より救い出したまえ	問84	ウ小106、ハイデ127
		マタイ6: 9-13	主の祈り
神の子としての祝福に生きる (、キリストの恵みに堅く立つよう励ます)			
23日	頌栄	問85	ウ小107、ハイデ128
		歴代上29: 10-13	主の祈り
祈りとは、神の勝利を確信することである			
30日	アーメン	問85	ウ小107、ハイデ129
		コリント二1: 18-22	コリント二1: 20
私たちの祈りは主イエスの真実に支えられていることを学ぶ			

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

この箇所は、聖餐の礼典制定の言葉が記されているところから、聖餐の恵みを味わいたいものです。

(1) 祝福

パンを取り、感謝と祝福をして振る舞うことは、ユダヤ社会において友人との会食の始めに普通に行われたことでした。通常、その家の家長がパンを割り、全ての参加者のために感謝の祈りをささげたのです。その通常行われていたことが、主イエスによって、主の十字架の贖いの御業と結びつけられて、新しい意味をもつことになりました。

(2) これはわたしの体である

この言葉は、パンを割きながら主がおっしゃられたものです。このところで「わたしの体」とは、キリスト御自身の体を表しています。しかし、ただ単にキリストの肉体を表しているだけでなく、キリストの全人格を包括している言葉です。

ルカ福音書の並行箇所を見ると、「あなたがたのために与える体である」と言われています。このところでこのようにおっしゃることによって、「あなたがた」と言われている私たち罪人のために、キリストが御自身を割いてくださることを明らかにしておられます。つまり、罪人のために、主イエス御自身が死に引き渡されることが示されているのです。

(3) 杯—多くの人のために流される血—

さらに、杯を祝福して弟子たちに与え、みな共にその杯から飲みました。その杯は「多くの人のために流されるわたし（主イエス）の血である」と言われています。

このパンと杯によって、主イエスが肉の体と血を持つまことの人間として、全ての人のために死に引き渡されたことが明らかにされます。つまり、完全な人間として、人間の代表として十字架の死に引き渡されるという主イエスの死の代償的性格

をあらわし、まことの過越の犠牲としての主イエスの死を指し示しています。また、多くの人のためにと言われているのは、主イエスの代償の、また、犠牲の死がすべての者に及ぶものであることを指し示しています。

(4) 新しい契約

新しい契約は、過ぎ越の小羊としてのキリストの血と体にあずかることによって、新しい契約共同体を造り出します。この契約はエレミヤが「イスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る」と告げた、新しい契約であり、その契約が開始されたことがこの主イエスの言葉によって確証されるのです。このことによって、主イエスの死が私たちのためのものであり、この主イエスの血と肉にあずかるとき、私たちが神様の契約の民の中に入れられることが示されるのです。

(5) 神の国で新たに飲むその日まで

「神の国で新たに飲むその日まで」との言葉によって、すでに主イエスには十字架の後の復活と昇天、さらには再臨と終末の栄光の御国を見通されています。主イエスに肉と血にあずかる者は、終わりの日に、栄光の御国で主と共にこの晩餐に再びあずかることが約束されるのです。

(6) 聖餐の礼典で表されること

ここで、こうして聖餐の礼典が制定されているのですが、この聖餐の礼典で指し示されているのは、罪人の贖いのための代償としての主イエスの死である。しかし、それは単に主イエスの死を表しているだけでなく、主イエスにあずかり主イエスにつながることによって、神様の契約の民とされる約束が語られ、最後の時に栄光の御国に入れられる約束が告げられているのである。つまり、ここで制定されている聖餐の礼典は、主イエスによる神の救いの御業を告げ知らせる「見える御言葉」であり、偉大な沈黙による宣教の言葉なのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問74,75
 ウェストミンスター小教理問答 問96,97
 ハイデルベルク信仰問答 問75～82

子どもカテキズム

問74 聖餐とは何ですか。

答 イエスさまの言われた通りに、パンとぶどうジュースを用いて、十字架で裂かれたキリストのお体と流された血を覚え、信じる者と共におられるキリストを覚え、再び来られるキリストを覚えるための礼典です。これによって、イエスさまとの交わりが深められます。

ウェストミンスター小教理問答

問96 主の晩餐とは何であるか。

答 主の晩餐とは、キリストの御定めに従って、パンとぶどう酒を与えること、また受けることによって、キリストの死が示され、そしてふさわしい陪餐者が、身体的、肉的にでなく、信仰により、自身の霊的栄養と恵みに成長することのために、キリストの体と血と、そしてそのすべての祝福にあずかるものとされる礼典である。

問97 主の晩餐をふさわしく受けるために、何が求められているか。

答 主の晩餐にふさわしくあずかろうとする者に求められていることは、ふさわしくないままで来て、その飲み食いによって、自分にさばきを招かないように、主の御体をわきまえる知識、キリストをかてとする信仰、悔い改め、愛、新しい服従について、自分を吟味することである。

聖餐は、洗礼とともに、主イエス・キリストご自身がお定めになった聖なる礼典です。聖礼典の役割が、御言葉によって生み出された信仰を証印し、強化することであることを思い起こしましょう。

聖餐の礼典を、「再臨の日まで」「主の死を記念して」守り行うことの理由について、改革派教会の式文は三つの点を挙げています。

一、今この目をもってパンとぶどう酒を見るように、私たちの罪のために十字架の上で死なれた贖い主を、信仰の目をもって見るため。

二、主を信じる私たちがパンとぶどう酒を受けるとき、贖いのすべての恵みを示され保証されるため。

三、復活の主の再臨の日に、永遠の御国の交わりに入れられることを待ち望むため。

式文は続けて、それゆえ聖餐を受ける者には、神の前での自己吟味と、悔い改めと信仰の表明が必要であると明記します。

聖餐を受けることによって、地にある私たちは霊肉ともに今は天におられるイエス・キリストの御体に結合されます。聖霊が天と地のへだたりを克服して、私たちがキリストに結びつけてくださるのです。こうして私たちは、復活の主の命の恵みにあずかります。聖餐の食卓において起こることは、このような命の秘義であり、永遠の御国の祝宴の先取りです。

それゆえに、信仰のない者が聖餐を受けることは、「自分にさばきを招く」ことですから、厳しく戒められなければなりません。成人洗礼を受けていない者や、幼児洗礼を受けていても信仰告白をしていない者は、聖餐にあずかることはできません。しかしそのような人々はまた、一日も早く聖餐の恵みを受ける日を迎えるようにと招かれています。日曜学校の礼拝でも、子どもたちに聖餐への招きを語ることは大切なことであると考えます。

テキスト マルコによる福音書14章22節～26節
カテキズム 子どもカテキズム 問74,75

「聖餐」

〔単元のねらい〕

主の2003年、新しい年の最初の日曜学校礼拝式です。今年も、御教会の日曜学校の尊いお勤りが、祝福されたものとなりますように心よりお祈り申し上げます。

さて、地域の子どもたちは、ほとんど聖餐の礼典を見たことがないであろう。そのような子らが中心の日曜学校では、むしろいつものように説教において、主イエス・キリストの救いの御業を物語ることで大切である。聖餐の礼典そのものの意義について深く教える必要はないであろう。しかしもしも、ほとんどが契約の子であれば、本日の単元は決定的に重要である。契約の子らを聖餐の食卓へと招く営みこそ、我々の日曜学校の大きな眼目なのである。本誌は、絶えず礼拝中心の日曜学校を主張しているが、本日の分級において、そのかけがえのなさを最大限に発揮するときとしたい。子らに、幼児洗礼の契約の恵みを教え、主イエスが聖餐の交わりへと招いておられることを、熱く説きたい。聖餐への憧れを幼心に刻みたい。摂理によって、第一主日にこの単元が与えられている。子らに聖餐の「祝い」をよく見るように促したい。その時、教師自ら、どのように喜びと感謝、悔い改めと献身とをもって、この聖礼典を祝っているかが、問われる。教会が聖餐の交わりによって形成されることと、キリストとの結合のリアリティーを聖餐において信じることなしに、子らを聖餐の食卓へ招く力は弱くならざるを得ない。聖餐への飢え渴きをもって準備したい。

新しい年が始まりました。一年の最初に真の神さまを礼拝できることはなんと幸いなことでしょうか。今年も天のお父さま、イエスさまを礼拝する事を第一に行きましよう。

さて、イエスさまは、いよいよ明日がその日になることを知っておられました。どんな日でしょうか。それは、イエスさまがこのことのために天からやって来られ、人間となられた目的を果たすための日です。つまり、お弟子さんたちのために、そして僕たち私たちのために、十字架で殺されなければならないその日です。イエスさまは、そのことをご存知でしたから、お弟子さんたちと食べる最後の晩御飯となることをご存知でした。けれども、お弟子さんたちはその夕食の意味を知りません。最初はいつもと、同じように楽しい食卓でした。イエスさまは、パンを取って、神さまを賛美するお祈りをして、そのパンを二つに裂いてお弟子さんたちに配られました。それだけなら、いつもの晩御飯と同じです。けれども、イエスさまは、パンを裂いて配りながら、おっしゃいました。

「取りなさい。これはわたしの体である」。また、ぶどう酒の杯を取って、同じようにお祈りをして、彼らに配られました。そして、またそこでもこのようにおっしゃいました。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」。イエスさまは、配ったパンとぶどう酒をイエスさま御自身のお体と血なのですと仰ったのです。

とても不思議な言葉ですね。けれども、この時のお弟子さんたちには分かりませんでした。僕たち私たちは知っていますね。この後で、イエスさまがどんな目に遭われたのか。イエスさまは十字架でどのようなお苦しみを受けられたのですか。イエスさまは、生きたまま十字架にはりつけられました。釘で手と足は刺し貫かれました。もちろん、血が流れました。そればかりか、兵士によって、脇腹を槍で刺し貫かれました。

もちろん、イエスさまはご自分がどのようにして死ななければならないかをご存知でした。だから、前の晩に前もってお弟子さんたちに教えられたのです。そればかりではなく、何故、十字架で

死ななければならないのかということ、十字架の意味についても教えられました。「わたしは十字架につきます。それは、あなたたちがその罪を赦され、神さまの子どもとされ、永遠の命を与えられるためにどうしても必要なのです」。あなたの罪の身代わりになって、わたしは神さまから罪を犯した者が受けなければならない罰を受けるのです。今、目の前にあるこのパンが裂かれたように、私の体も傷つき、裂かれます。この赤いぶどう酒は私の血を表しています。この血は私の命です。その命を全部あなたの罪の罰を受けるために、注いでしまいます。だから、罪を赦されたい、神さまの子どもにさせていただきたい、永遠の命を与えられたいと願っているなら、もうあなたは自分の力でなにかをする必要はありません。第一、そんなことはできません。あなたがすることは、ただこのわたしを信じることだけです」。

その夕食の時には、お弟子さんたちには、イエスさまが仰ったその意味が分かりませんでした。けれども、イエスさまが復活された後で、はっきりと分かりました。それから、教会は、このイエスさまの最後の晩餐、晩御飯の時のことを忘れたことは一度もありません。イエス・キリストの教会があるところでは必ず、礼拝式のなかで、このイエスさまが命じられたことを行なっています。それを聖餐と言います。

聖餐は、洗礼を受けて、自分の口でイエスさま

を主と告白した人だけが、食べて、お祝いすることができます。だから先生は、この聖餐をお祝いすることができます。先生は、聖餐のときに、パンを食べぶどうジュース（ぶどう酒）を飲んで、イエスさまが先生と一緒にいてくださり、イエスさまと先生がまったく一つにされていることをますます信じるようにしていただいています。イエスさまと先生は交わりを持っているのだなとますます信じるようになります。イエスさまと一つとされているのは、先生だけではありません。一緒に聖餐をお祝いしている教会の人たちともイエスさまと繋がっているのですから、教会の人たちも、兄弟姉妹と考えることができます。そのように見る目が与えられています。

皆も、イエスさまを信じているでしょう。信じている僕たち私たちは、イエスさまと一つに結び合わされています。イエスさまを信じている人は誰でも、心の中にイエスさまを宿しています。けれども、時々忘れてしまう事もありますね。誰だって、パンとジュースを飲んだら、お腹の中に入れて行ってるなって分かりますね。信じて聖餐をお祝いする時には、イエスさまがそれくらい確かに宿っていてくださることが分かります。だから、皆にも一日も早く、聖餐を先生たちと一緒にお祝いできるようになって欲しいとお祈りしています。イエスさまと僕たち私たちとは近い関係にあるのです。心から、感謝しましょう。

今週の暗唱聖句

わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。

ヨハネによる福音書6章35節

〈ねらい〉

イエス様が示された聖餐の意味と恵みを学ぶ。

〈展開例〉

みんなは教会の礼拝の中で、おとなの人たちが、パンとぶどう酒をいただいているのをみたことがあるかな？ あれは「聖餐式」といって、教会で行なわれるとても大切なことです。

この世で最初の聖餐式は、イエス様が十字架にかかる前の晩のことでした。イエス様は、いつもの様にお弟子さんたちと夕ご飯を食べていましたが、その時にお弟子さんたちに言いました。「このパンはわたしの体です。このぶどう酒はわたしの血です。」

お弟子さんたちはさっぱりその意味が分かりませんでした。でも、今私たちはその意味を知っています。「聖餐式」でパンとぶどう酒をいただく

たびに、十字架で死なれたイエス様を思い出すように、イエス様はこう言われたのです。イエス様は神の子で、全然悪いことをしていないのに、私たちのために十字架にかかって死なれました。そのおかげで私たちの罪が赦され、神様の子もとさせていただくことができました。聖餐式でパンとぶどう酒をいただくと、イエス様がとても近くにいてくださるような気持ちになります。みんなも、いつか「聖餐式」に参加できるように、先生や教会の人々がお祈りしていますよ。

〈いのり〉

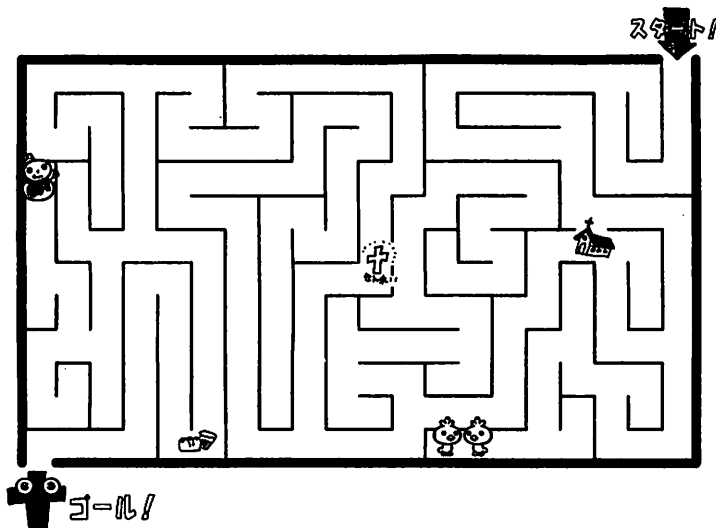
天のお父様、私たちのためにイエス様が死んでくださり、罪が赦されましたことをありがとうございます。これからもずっと神様を信じ続ける子どもとしてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

「聖餐にあずかれるまで……迷路で遊ぼう！」

めいろをめけて、せいさんの恵みにたどりつこう！

教会、せんれい、パンとぶどうしゅを運んでせいさんのお恵みまでたどりつけるかな？



〈目標〉

主の死を記念する聖餐に招かれている子どもたちに、その意味を教えることにより、主の聖餐を仰ぎ望んで、成長できるように導きたい。

〈礼拝説教を振り返る〉

イエスさまが、天からそのことのために来てくださった日とは、どんな日だったのかな。わたしたちを救うために十字架で死んでくださった日のことですね。

その前の日、お弟子さんたちといっしょに食べられた食事は、何と何だったのかな。パンとぶどうジュースだったね。それは何をあらわしていたのかな。イエスさまのからだと血をあらわしていたんだね。イエスさまはそれをわたしたちに配ってくださったんだ。「みんなにあげるよ！」と言ってね。

そして、イエスさまが、十字架にかかって死なれた時、みんな、イエスさまがご自分のいのちをくださったんだということがわかったんだ。聖餐

は、それを思い出して、イエスさまへの感謝と信仰を言いあらわすときなんだ。

〈祈りましょう〉

めぐみの神さま

イエスさまを与えてくださり

ありがとうございます。

イエスさまが配ってくださった

パンとぶどうジュース

それは、イエスさまのいのちです。

わたしたちはそれによって

救われることができます。

神さま、わたしたちが

それを信じられるように

大きくなったら

聖餐のめぐみが受けられるように

イエスさまといっしょに

よろこべますようにしてください。

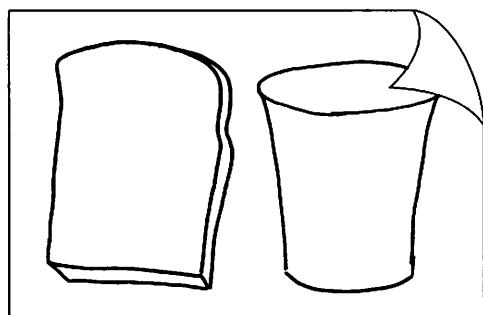
イエスさまのお名前によっておいのりします。

アーメン。

〈やってみよう〉

パンとさかずきのカードをつくろう

①紙に「パン」と「さかずき」の絵をかこう。



（好きな形に書きましょう。）

③パンとさかずきの絵の下に

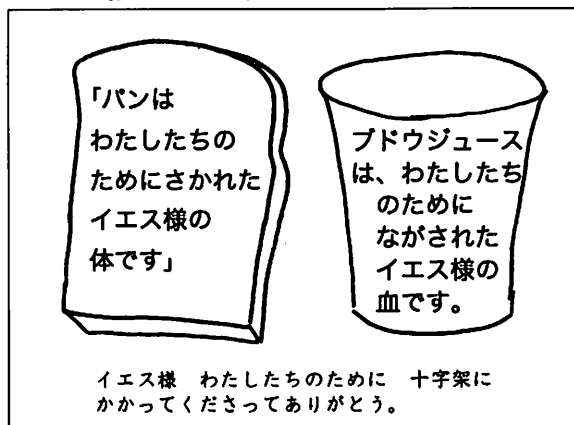
「イエス様 わたしたちのために十字架にかかってくださってありがとうございます」と書きましょう。

②パンとさかずきの絵のところに

「パンはわたしたちのために
さかれた イエス様の体です。」

「ブドウジュースはわたしたちのために
ながされた イエス様の血です。」

と書きましょう。



〈暗唱聖句〉 ヨハネ 6：35

〈学びのポイント〉

- (1) パンは傷つき引き裂かれたイエス様の体
- (2) ぶどう酒は流されたイエス様の血
- (3) それは、私たちの罪の罰を引き受けてくださったから

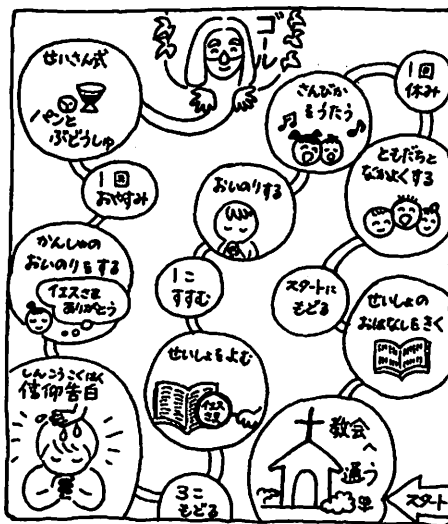
〈説教のおさらい〉

私たちは教して欲しい、神の子にして欲しい、永遠の命を与えられたい。でも自分の力ではできません。私たちを愛してくださったイエス様を信じ、一日も早く口で「イエス様は主である」と皆の前で言い表すことができるよう祈っています。そして、日曜学校のみみんなも一緒に聖さんのパンとぶどう液をいただけるようになりますように。

〈やってみよう〉

「イエスさまへの道」すごろく

・用意するもの サイコロ、人数分のコマ



〈目標〉 聖餐の祝福を覚える

〈展開例〉

【メッセージ】 ①すべての悪いことは、人が神さまの方を向いていないところから起こります。キリストの十字架の業は、そのような人々の心を神様の方へ向けさせるために果たされたのです。②みなさんの心は神様の方へ向いているのでしょうか。教会に来ることは神様の方へいくぶん心が向いている証拠でしょう。しかしみなさんはまだ決心はしていません。③聖餐式は決心をした人（神様と教会の前で、神様を信じますと誓った人）だけがあずかることができます。④聖餐式にあずかるたびに私たちはイエスさまの死を示され、罪が赦された喜びが増し加えられ、罪と戦う力をいただくことができます。

【おすすめ方】

①について：罪観を問う。罪のリストカードをつ

くり一人一枚ずつひく。ひいたカードに書いてある罪について、思うこと、思い出すことなどを自由に発言し合う。自分のうちに罪を見出すことができるか。そしてそれらの罪と戦うことができるよう励まそう。教師自身積極的に罪を言い表そう。

②について：神観を問う。みなさんは神様の前で、寝転びながらお祈りすることができますか。皆にとってやさしい神さまか、厳しい神様か、いばっている神様か。

③について：教師は何歳の時洗礼を受け、神さまに従うことを誓ったのかを話す。そして弱い自分が神さまによって赦され、信仰が保たれてきたことを証する。

④について：一枚（塊）のパンとジュースを分け合って食べながら、この単純素朴な分かち合いの行為の大切さと、それが礼典に用いられる時の計り知れない恵みを語ろう。



話し合おう

恵みの手段が御言葉と礼典と祈りで、礼典の二つ洗礼と聖餐の後者を学ぶことを確認。（一ヶ月ぶりなので）

「聖餐について知っていることを何でも話して」と発問し、どの程度知っているか、どの程度関心があるかを聞き取る。漢字で書けるか、「餐」という言葉の意味などを聞いてもいい。全く知らない子には「聖餐」という言葉からどんなことを連想するか自由に話してもらう。また、よく知っている子から知らない子へ説明させると両者の理解が分かる。



聖書の読み取り（マタイ26:26～30）

パン→わたしたちの罪を赦すために十字架で裂かれたイエスさまの肉杯（ぶどうの実から作ったもの）→罪を赦すために流されたイエスさまの血。最後の晩さんで共

に食卓を囲んだように、父の国で共に新たに飲む日が来る。聖餐は視覚と味覚で分かる天国の前味。



問74, 75の理解

聖餐は普通の食事ではなく特別な食事。その特別さ（神性さ）をわかまえることが求められる。どのように特別かを言葉だけでなく心から感謝して言えるなら、それは信仰告白。未受洗者は洗礼を受けて聖餐に共に与ろう。未陪餐会員の中学生は個人差があるけれども信仰告白してもいいかも知れない。牧師先生に相談して信仰告白して聖餐に与ろう。教会がうけてはいけないと決めた（戒規中の）人については、どんな罪でも赦す権威をもっておられるイエスさまを信じているから、その人が悔い改めて教会に帰ってくることを信じて祈ることができる。聖餐はその場にはいない人も含めた聖なる主の晩餐。素晴らしい恵みの一時に感謝して参加しよう。

月 日 「聖餐」

中学科

名前

聖書：
問

讚美：

☆聖餐

毎日聖書を読もう

日	月
日 コリ 1 11:1-22	月 コリ 1 11:23-34
火 コリ 1 12:1-11	水 コリ 1 12:12-31
金 コリ 1 14:1-19	土 コリ 1 14:20-40
木 コリ 1 13:1-13	

☆聖餐にあずかる祝福・聖餐式に参加する祝福

暗唱聖句

(ヨハネ6:35)

テキスト

サムエル記上3章1節～10節

この箇所は、少年サムエルの召命が記される箇所です。この箇所は、絵画などに描かれたりしていることでも有名です。

(1) 少年サムエル

このところで「少年サムエル」という表現が用いられています。「少年」と訳されている語は他の訳では「わらべ」とか「幼子」とも訳される言葉です。この語は、年齢的なものを表すより、サムエルの未熟さを表していると考えられます。

(2) 神殿で寝ていた

サムエルが寝ていた場所は恐らく聖所であったであろうと考えられています。どのような理由でサムエルがそこで寝ていたのかは記されていません。しかし、神聖な場所、聖なる場所である、神殿とりわけ聖所は預言者が召命を受けるのにふさわしい場所であったでありましょう。神の幻が聖所の中で見せられたり、聖なる場所で見せられたという記述が、聖書の中にはしばしば記されています。神の幻が与えられるのに適した場所であったのです。そのような所に少年サムエルは寝ていたのです。

(3) 神のともし火は消えておらず

神のともし火は神様の御臨在を象徴するものとして、終夜を通して燃やされていました。それが消えていなかったということは、この出来事が夜明け前であったことを表しています。

しかし、もう一方で、「まだ神のともし火が消えておらず」ということは、乱れきった祭司エリの息子たちの行状があり、エリの家に対する、また、エリの息子たちと同様にイスラエルの民たちが乱れていたにもかかわらず、イスラエルに対する神のともし火がまだ消えてはいないということでもありましょう。つまり、主なる神は、なお

イスラエルをお見捨てにならず、神殿に御臨在くださいました。そのような神の御姿が象徴的に表されているとも言われています。

(4) サムエルへの呼びかけとエリ

神殿で眠っていたサムエルに神からの呼びかけがあったことが記されています。そこで、少年サムエルは、その呼びかけがどこから聞こえてくるのか理解できず、エリが呼んでいるものと勘違いをしてしまいます。そして、エリのもとへと走っていくのです。そこで、エリも、彼自身は呼んでいないという事実がはっきりしていたのですが、しかし、どなたが呼んでいらっしゃるのか理解できませんでした。それは、彼が単に老齢であったためではなく、彼自身が神様に対して鈍くなっていたためであったということです。エリは三度目にしようやく、それが神からの呼びかけであることに気づくのです。

(5) 主よ、お話しください。僕は聞いております

主の呼びかけであることが知らされ、答えるべき言葉が与えられたサムエルに対して、再び神がサムエルを呼ばれます。このところで、「主は来てそこに立たれた」とあります。それまでの三回は主がサムエルを呼ばれたと記されるのみでした。しかし、今回は、「主が立たれた」というのです。これは主の御臨在の生き生きとした感覚を表しているものであり、サムエルがこのとき明らかに主の御臨在を感じたことの証しであるのでしょう。

その御臨在くださる神に、サムエルは、「主よ、お話しください。僕は聞いております」と答えます。サムエルは明らかに神と出会い、神様の御臨在を感じ、主の御言葉に耳を傾けるのです。こうして、御臨在くださる主を確信し、主の御言葉に耳を傾けることから、主に対する祈りが生まれてくるのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問76
ウエストミンスター小教理問答 問98
ハイデルベルク信仰問答 問116,117

子どもカテキズム

問76 お祈りとは何ですか。

答 神さまにお話しすることです。そのためには、まず神さまからの御言葉に聴くことが必要です。信じることは祈ることです。

〈祈りは御言葉に聴くことから始まる〉

祈りは御言葉、聖礼典とともに、「イエス・キリストが贖いの恵みを私たちに伝達される外的な、そして普通的手段」(ウエストミンスター小教理問答問88)です。

祈りは神との対話です。神は生ける神であられ、私たちは神との生ける、人格的な交わりに生かされています。そこに神への祈りが生まれます。そして、祈りは御言葉に聴くことから始まります。つまり、私たちが神に呼びかけることが先にあるのではなく、神が御言葉をもって私たちにに向けて語りかけてくださったことが先なのです。神は、私たち人間にご自身を隠したもうお方ではなく、「御言葉においてみずからを我々におあらわしになった」(ハイデルベルク信仰問答問117)のです。これこそが祈りの根拠です。まず神が御言葉をもって私たちに語りかけてくださいました。その御言葉を聴き、御言葉に導かれるところに祈りが生まれるのです。そして、祈りの確かさの基盤もそこにこそあるのです。

〈どんなことでも祈る〉

祈りは、まず感謝の応答のかたちをとってあらわれるでしょう。なぜなら、神は御言葉によって主イエス・キリストの贖いのみわざによる罪の赦しと永遠の命の恵みを私たちに伝えたもうからです。

しかし、神は私たちに、どのようなことであっても率直に祈り求めるべきことをも教えてくださっています。祈りのいとなみは私たちの生活の全領域に及びます。主の祈りの六つの祈願を見ても、私たちはそれが生活のあらゆる局面にわたっていることに気づくはずで

す。神は私たちの魂の主であられるのみならず、体の主でもあられます。従って私たちは祈るべきことを私たちの側で制限すべきではなく、あらゆることを祈り求めるべきです。主イエス・キリストにあって私たちのいつくしみ深い父となってく

※1月19日はカテキズム研究はありません。

テキスト サムエル記上 3章1節～10節
カテキズム 子どもカテキズム 問76

「呼びかけに応えて祈る」

[単元のねらい]

子らを一人で祈れるように導くこと、祈りを体得させること。これこそ、私どもの終わりなき目標である。さらに正確に言えば、キリスト者の成長の目標そのものである。そうであれば、今号の主の祈りを中心にするカリキュラムは、その日曜学校の目標そのものを扱うことと言える。我々の子どもカテキズムは、祈りの言葉を与えるための言葉となることを目指して編まれた。もともと、教理の言葉とはそのような言葉なのである。カテキズム教育が正しく施される時、そこに「響き合い」がもたらされるとは、本誌創刊号所収の論文にある通りであり、筆者も何度か語ってきた。教える者と学ぶ者が、御言葉によって触れ合い、御言葉と触れ合う。そこに喜びの響き、天上からの響きに動かされる交わりが生まれる。そのような神の御心と私どもの心との響き合いは、祈りの手段なしにもたらされることはない。主イエス・キリストの福音が、祈りなしに伝わることを考えることは許されない。そうであれば、日曜学校教師こそ、絶えず祈る人でありたい。子らのために、教師会の仲間のために。そして、諸教会、伝道所の日曜学校のためにも……。

今日は、旧約聖書のサムエル記上を読みました。神さまの言葉を語る預言者になったサムエルさんの子どもの時のお話でした。

サムエルには、お母さんのハンナそしてお父さんのエルカナがいました。ハンナには子どもがずっと生まれませんでした。ハンナさんは、真の神さまを心から信じていました。信じているからこそ、悲しくて悲しくてたまらなかったのです。「神さまは何故、この私に赤ちゃんをくださらないのか。神さまは、私の悲しみや苦しみを忘れてしまっておられるのか」。このように心の中でつぶやいていましたが、それだけではありませんでした。ハンナさんは、その悲しみを神さまの素直に申し上げたのです。つまり、お祈りしたのです。「神さま、何でもおできになる全能の神さま、わたしに男の子を授けてください。そうすれば、その子を一生神さまにおささげします」。

神さまは、このハンナのお祈りをずっと聴いておられたのです。そして、遂に神さまが一番良いと御考えになった時が来ました。そうです、お祈りどおりに、男の子の赤ちゃんが生まれました。ハンナさんは、赤ちゃんが生まれたのは、神さまがお祈りに応えてくださったからだと信じていま

した。ですから、約束どおり、赤ちゃんを神さまのお働きをするように、神さまにおささげしました。こうして、サムエルさんは、まだ幼かった頃から、お父さんとお母さんのもとを離れて、神さまのお仕事をするために、祭司のエリさんのもとで、勉強するようになったのです。

さて、もう少年になっていたサムエルが、神殿の中の一番聖い場所に寝ていたある日のことです。神さまは、「サムエルよ」と呼ばれました。サムエルは、パッと跳ね起きて、「ここにいます」と返事をして、祭司エリの部屋に走って行きました。エリ先生が呼んだのだと思ったのです。エリは言いました。「なんだい、こんな夜中に、わたしは呼んではないぞ、戻ってお休みなさい」。エリは、サムエルが夢でも見て、寝ぼけていると思ったのです。神さまは、もう一度、「サムエル」と呼ばれました。今度も、サムエルはパッと跳ね起きて、「ここにいます」と返事をして、祭司エリの部屋に走って行きました。エリは言いました。「わたしは呼んではないぞ、私の子どもよ、安心して戻ってお休みなさい」。けれども、もう一度、同じ事が起こったのです。ついにこの時、祭

司エリは気がつきました。「ああこれは、神さまがこの子を呼んでおられるに違いない」。エリは、サムエルにこう教えました。「もし、今度また呼びかけられたなら、いいか、こう言いなさい。『主よ、お話ください。僕は聞いております』」。すると神さまはもう一度、「サムエル」と呼ばれました。サムエルさんは言いました。「主よ、お話ください。僕は聞いております」。そして、神さまは御自身の御計画をサムエルに教えられたのです。神さまは、ご自分の御心を、御言葉をもって、サムエルに教えられたのです。こうして、サムエルは、神さまの預言者、神さまの言葉を人々に告げるために働く人となって行きました。

さて、少年サムエルがお祈りを始めたのは、神さまの方から、「サムエルよ」と呼んでくださったからでした。そしてエリ先生に、お祈りの仕方を教わりました。僕たち私たちも同じようにお祈りを始めることができます。今、先生は皆にお祈りの仕方を教えます。まず、「天のお父さま」って呼びかけてください。それは、「主よ、お話ください。僕は聞いております」ということと同じです。僕たち私たちは、神さまから、名前を呼ばれています。あなたが自己紹介する前から、神さまはあなたの名前を呼んでおられます。あなたが誰で、どこで生まれて、どんなことが好きか嫌い、昨日したことのすべてをご存知です。ただ名

前を呼ぶだけではなく、神さまは、あなたを「私の愛する子、イエス・キリストを信じているから私の大切な子」このように呼んでおられるのです。だから、あなたは堂々と「天のお父さま」と呼んで良いし、お呼びしなければなりません。

今日の子どもカテキズムに、お祈りは、「神さまとの会話です」と書いてあります。会話とは、話し合いです。神さまとの会話は、最初に神さまからの語りかけを聴いて始まるのです。神さまは、この礼拝で、聖書を通し、先生の説教を通して神さまの御言葉をあなたに届けてくださいます。語りかけてくださいます。だから、あなたも「天のお父さま、あなたの御言葉を聴きます。お話ください」という祈りをもって、説教を聴いてください。神さまは、家に帰ってからあなたを、「私の愛する子」って呼んでおられます。あなたは神さまに罪を赦されて、子どもにされているのです。嬉しくありませんか。嬉しいなと思ったら、今先生と一緒に祈りしましょう。なんてお祈りすれば良いのでしょうか。「天のお父さま！」です。先生の後について、皆で声に出してお祈りしましょう。「天のお父さま。僕のことを、いつも私の愛する子と呼んでいてくださって感謝いたします。わたしも、天のお父さま、と口に出して毎日お祈りできるように助けてください。イエスキリストのお名前によって、アーメン」。

今週の暗唱聖句

サムエルは答えた。「どうぞお話しください。僕は聞いております」。

サムエル記上 3章10節後半

〈ねらい〉

お祈りは、神様との親しい会話であることを学ぶ。

〈展開例〉

みんな、いつも教会でお祈りしますね。お家でも、ご飯を食べる前とか夜寝る前に、お父さんやお母さんと一緒にお祈りしていますか？

ところで、お祈りをする時に最初になんて言いますか？神様に呼びかけますね。その時に、「天のお父様」と言うことがあります。そうです。神様は先生やみんなにとってのお父様なんです。どうしてかって言うと、まず最初に神様が私たちの

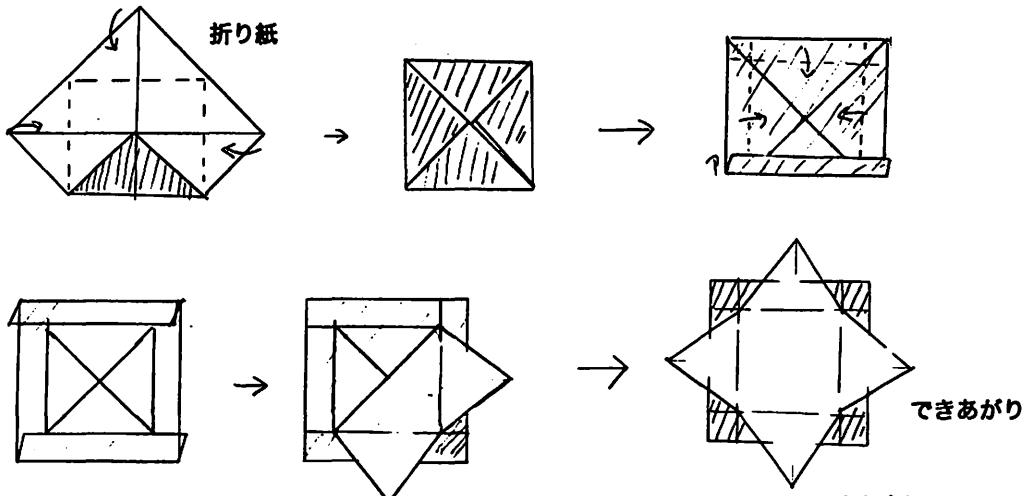
ことを、「わたしの愛する子どもたち」と呼んでくださるからなんです。ですから、みなさんは神様にお祈りするときに、お父さんにお話しする様にお話しすることができますよ。いっぱいお祈りすると「天のお父様」はとっても喜んでくれます。

〈いのり〉

天のお父様、私たちをこれからもずっと神様の子どもとしてください。いっぱいお話させてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

「かべかけを作ろう！」



まん中に
イラストを切ってはる



〈目標〉

子どもながらの信仰の成長にも祈りが重要であることを覚え、まずは主の御言葉を、落ち着いてしっかりと聴き、受け留めることから始められるように導きたい。

〈礼拝説教を振り返る〉

ハンナさんは、神殿で何を祈りしていたのかな。「赤ちゃんを与えてください」と言ってお願ひしていたんだね。そのお祈りは、神さまに聴かれたのかな、願ひごとはかなえられたのかな。神さまはちゃんと聴いて、男の赤ちゃんを与えてくださったんだね。よかったね。その男の子の名前は、「サムエル」と名付けられたんだ。

サムエルさんが少年になって、神殿に寝ていたとき、何が聞こえてきたのかな。「サムエル」と呼ぶ声が聞こえたんだね。それでどうしたのかな。

最後にサムエルはどうしたのかな。「主よ、お話しください。僕は聞いております」と神さまに

答えたんだよ。神さまはサムエルに話しかけてくださいました。わたしたちも神さまに「どうぞおはなしてください」と言って、すなおに聞けるようになりたいですね。

〈祈りましょう〉

めぐみの神さま

わたしたちをいつも見ておられ

守ってくださることをかんしゃします。

すべてを知っておられる神さまわたしたちに話しかけてください。

わたしたちは神さまのみことばをすなおに聞くようにします。

そして神さまといつもおはなしができるようにしてください。

神さまのみことばを心にとどめ

みことばを守れるようにしてください。

イエスさまのお名前によっておいのりします。

アーメン。

〈やってみよう〉

「みんなであうたおう」

参考：友よ歌おうより

三つの約束 改作 (山内)

おいのりはね(フムフム) まいにちするんだぜ OK
いつもイエスさま きいててくれるから

出典＝『友よ歌おう』(いのちのことば社)

1. おいのりはね (フムフム)

毎日するんだぜ (OK!)

いつもイエスさま

きいててくれるから

☆

2. みことばはね (フムフム)

あんしょうするんだぜ (OK!)

どんなときでも

みむねがわかるから

3. きょうかいはね (フムフム)

まいしゅうくるんだぜ (OK!)

元気なしんこう

やしなうためだから

☆

OK? やくそくできたね! じゃあ、一緒にうたおう

4. ほくたちはね

兄弟姉妹だけ

おんじしんこうで

むすばれてるんだもん。

〈暗唱聖句〉 サムエル記上 3:10b

〈学びのポイント〉

- (1) 神さまは最初から私たちのことをすべて知っておられる
- (2) 神さまの呼びかけに耳をかたむけよう
- (3) お祈りは神さまの呼びかけに応えること

〈説教のおさらい〉

ハンナは長い間悩み苦しみました。しかし、神さまの呼びかけに耳をかたむけて、ほんとうのお祈りができました。「生まれた赤ちゃんを一生神さまにささげます」と。

サムエルさんも何度も呼ばれて、「主よ、お話をください、しもべは聞いております」と祈ることができました。

聖書は私たちに呼びかけておられる神さまのことばです。耳をすまして聞きましょう。

〈やってみよう〉 聖書を開きましょう

サムエル記上 3:1~10

- ① 「サムエル」と呼んだのは誰？
《エリ・お父さん・神さま》
- ② 呼ばれてサムエルが走っていったところは？
《台所・エリのところ・トイレ》
- ③ 「サムエル」と何回呼ばれましたか？
《1回・2回・3回》
- ④ 神さまに呼ばれたときサムエルは何と答ましたか？
- ⑤ お祈りする私たちのことを神さまは？
《少しだけご存じ・すべてご存じ・何も知らない》
- ⑥ 神さまの御言葉を聞くにはどうしたらいいでしょう？
《日曜日に教会に行く・TVをみる・本を読む・聖書を読む・お祈りをする・礼拝のお話をきく・友だちとあそぶ》

〈目標〉 祈りの心を知る

〈展開例〉

【メッセージ】①サムエルは神の声を聞きました。今は聖書を通して神様のよびかけを聴くことができます。実際に声が聞こえるわけではありません。聖書の言葉が私たちの心に響いてくるのです。聖書の言葉は神様の言葉だからです。②そして聖書の言葉に心動かされて出てくる喜び、感謝、おどろき、おそれ、願いなどが祈りの心なのです。【すすめ方】①について：今日の暗唱聖句を覚えてみよう。そして実際に「どうぞお話をください。僕は聞いております」と皆で祈って、聖書の特定の聖句を読んでみよう。たとえば創世記第1章1節を読む。神様は「私は天と地を創造した」と自己紹介しておられる。またヨハネ3:16を読む。神様はいかに私たちを愛しておられるかを示して

おられる。教師は御言葉の意味を説き明かしながら、今神様はあなたに語っておられることを、一人一人に強調しよう。

②について：このように御言葉に聞いても、神様に対する喜び、感謝などが心に湧き起こらないのが普通かもしれない。理由は神様に対してあるものが自分に欠けているからである。そのあるものについてみんなで考えよう。こたえは「愛」である。神様への愛。それが無いから祈れない。もともと愛は自分の内にはないこと、愛は神様からいただくものであることをおさえよう。「愛」とは何だろう。このことについても考えてみよう。「愛」とはいつも一緒にいたいと思うこととも言えるかもしれない。いつも神様と一緒にいて、喜びにあふれたい、力と勇気をいただいて、何事にも恐れず、力強く毎日を歩みたい、このような祈りをもって分級を終えよう。



祈りを学ぶ

恵みの伝達の外的な普通的手段が御言葉と礼典と祈りで、これから三月末まで祈りについて学ぶことを伝える。

「外的な手段」であることを特に確認。祈りはしばしば独り言、つぶやき、内的思考、感情の発露と混同されがち。しかし祈りは神との関係、対話、全人格的行為、また自分だけでなく隣人との関係性を結ぶ端緒。これらのことを、生活に密着した祈りの経験の中から学んでいくことを伝える。



聖書の読み取り

ルカ11：1～4。

祈りはイエスさまから教えていただく。



お祈りカレンダーを作る

①月別カレンダー 書き込み式の大きなカレンダーを中学科の部屋に用意。卒業、卒業生を送る会、期末テスト、入試、業者テスト、誕生日、その他記念日や祈って欲しい事柄に関係する日を書き込む。一応1月～3月までを想定しているが、生徒が書き込めれば4月以降も書き込んでよい。

②週間カレンダー 生徒用プリントの右の表に、毎日の祈りの課題を書き込む。①のカレンダーと連動させるとよい。毎日違うことを書くのが難ければ、「//」のマークでもかまわない。ただし、自分(たち)のことでなく、世界に目を向けるとたくさんの祈りの課題がある。今週から3月末までこのカレンダーを続けるので、祈りの課題を探してくることを宿題にできる。

月 日 「祈りとは何か(1)」 中学科

名前

聖書：

問

讃美：

☆恵みの伝達の外的な普通的手段

日	聖書箇所	祈りの課題
12 日	ルカ5： 1～16	
13 月	ルカ5： 17～26	
14 火	ルカ5： 27～6：5	
15 水	ルカ6： 6～26	
16 木	ルカ6： 27～36	
17 金	ルカ6： 37～49	
18 土	ルカ7： 1～10	

☆祈りの課題

テキスト

使徒言行録12章1節～19節

この箇所は、神の不思議な導きによって、ペトロが牢獄から助け出された出来事が記されている箇所です。

(1) ヘロデ王による暴挙

この箇所の1節～5節前半までのところに、ヘロデがキリストの教会に対する迫害を行ったことが示されています。彼がこの箇所に示されていますような暴挙に出た理由は、ヘロデ王がもともと混血であり、保守的なユダヤ人に受け入れられなかったところにあるようです。それ故、ユダヤ人、とりわけユダヤの指導者たちに取り入ろうとして、教会に対する迫害を行うことになりました。ヨハネの兄弟ヤコブがそのために殺されたと、記されています。彼は使徒たちの中の最初の殉教者であったのですが、どのような理由で彼が最初の殉教者となったかについてはわかってはいません。

このヤコブに続いてペトロが捕らえられました。このペトロに関しては、過ぎ越し祭のあとで、処刑するために人々に引き渡すつもりであったと、記されています。このペトロのために、ヘロデは、四人一組の兵士四組に引き渡して番をさせたというほど、嚴重に、決して逃げ出すことなどできないように監視をさせました。

(2) 天使による救出

さて、こうしてヤコブの処刑とペトロの逮捕という出来事が起こり、おそらく初代教会の人々は、多少なりとも弱気になっていたのではないのでしょうか。彼らは、もちろん神の導きを確信していたと思われませんが、しかし、指導者の死や逮捕という出来事は、やはり人間的に弱くなってもおかしくない出来事であったはずであります。

そのような恐れや不安が起こり得るような状況の中で、神の天使によるペトロの救出の出来事が起こるのです。この出来事が起こったのは、まさにヘロデがペトロを引き出し、殺そうとしていた前の晩でありました。そのような、もう後がない状況の中で天使による神の助けが与えられたのです。光が牢の中を照らし、天使が指図し、鎖が外

され、ペトロは嚴重に監視された牢から助け出されました。

それは、全く不思議なことであり、ペトロ自身もその出来事を現実のこととして理解することができないほどの出来事でありました。ペトロ自身がそれを現実のこととして理解できず、幻と思ったのですから、ヨハネ・マルコの家にはいた者たちが信じられないのも無理はありません。

彼らは、もちろん、つい今まで過ぎ越しの祭りを祝い、神の解放の力を祝っていたはずですが、そうであるにもかかわらず、彼らにはペトロが救われたことが信じられず、それを伝えた女中を気が変になってると思うのです。ここには、彼らの信仰的な弱さが表れています。彼らは、一方では、ペトロの助けを主なる神に祈り求めたのですが、もう一方で、その神のみわざが分からないという未熟さをさらけ出すことになりました。

(3) 背後の祈り

このような信じがたい出来事が起こった背後には祈りがありました。「教会では熱心な祈りが神にささげられていた」、「そこには大勢の人が集まって祈っていた」と記されているように、教会員による熱心な祈りによって支えられていたのです。

彼らは、ペトロの命が守られるように、また、解放されるように祈っていたのでありましょう。しかし、彼らは時がたつにつれて、その祈りに確信を持ってなくなっていたのかもしれませんが。そのために、ペトロの解放をすぐに信じることができなかったのではないかと思われまます。しかし、そのような不信仰とも思えるような、弱いキリスト者たちの祈りが神によって聞き届けられたのです。

神様は、たとえどんなに自分が弱い不信仰なキリスト者であると感じている者の祈りであっても、また、どのような内容の祈りでも、素直に祈り願う者の祈りを聞いてくださるのです。そして、神が最善の、また最良の答えを必ず与えてくださるのです。

テキスト 使徒言行録12章1節～19節
カテキズム 子どもカテキズム 問76

「ゆだねて祈る」

〔単元のねらい〕

先週に引き続いて、聖書の物語から祈りとは何かを学ぶ。繰り返すが、子らを「一人で」、「自分の言葉」で祈れることへと導くことが本単元の狙いであり、日曜学校の目標である。しかしそこでこそわきまえたいのは、「公同の祈り」である主日礼拝式こそがその基礎であり、源泉となることである。礼拝説教を聴いているその行為自体が既に、神の御業としての祈り、いわば「大きな祈り」の行為のなかの一コマなのである。説教において神の言葉を聴くことなしに真の祈りと言葉は生まれない。つまり、神の民の公的な祈りこそが、個人の祈りとその生活を生み出し、励ますのである。説教者は、自分の日曜学校礼拝式の説教がまさに神の言葉の説教であることを自覚し、信じて語らなければならない。神と子どもたちそして礼拝者相互の交わり（響き合い）の基礎は子ども礼拝式にある。これなしに正しい「交わり」は実現しないが、この交わりは、さらに膝を突き合わせて共に祈りあう交わりをも生みださずにはいられない。教師と子らが共に祈り合う分級の交わり（響き合い）を求めて祈ろう。

イエスさまが天に戻られて、そこから聖霊をお弟子さんたちに注がれてから、地上にはイエスキリストの体としての教会ができました。最初の教会の指導者となったのは、12人のお弟子さんたちでした。その中でも、ペトロさんは中心の指導者となりました。お弟子さんたちは、イエスさまの福音、イエスさまが僕たち私たちに何をしてくださったのかを語り、誰にでも勇気をもって、悔い改めてイエスさまを信じなさいと勧めていました。多くの人たちがイエスさまを信じて教会に加わりました。

けれども、同時にユダヤ人からも王さまからも迫害を受けていました。ヨハネの兄弟のヤコブは殺されてしまいました。そればかりか、ついに、ペトロも16人の兵士たちに捕まえられて、牢屋に放り込まれてしまいました。そして、ヘロデ王は、後で、ペトロさんを人々の前で、死刑にすることに決めていたのです。教会では、ペトロさんが救い出されるように、熱心な祈りがささげられました。

さて、僕たち私たちがもしも牢屋の中に一人放り込まれてしまったら、どんな気持ちがするのでしょうか。ペトロさんは、どんなに怖くてドキドキしていたでしょう。ところが、どうでしょう。

ペトロさんは、なんと、二本の鎖で繋がれて、しかも両脇には二人の兵士に見張られて明日は殺されるっていうのに、「ぐうぐう」眠っています。昔は、「イエスさまなんか知らないよ」と言って、イエスさまのように捕まえられることが怖くて仕方なかった、ペトロさんは、今、ぐっすり眠ることができているのです。それは、聖霊なる神さまが、牢屋の中にも、イエスさまと一緒にいてくださるのだという信仰を与えてくださったからです。だから平安だったのです。生きる事も死ぬ事もどちらでも、イエスさまのためになるのだったら喜びだったからです。忘れてならない事は、そのために、教会も熱心にお祈りしていた事です。

さあ、そんな彼のところに天使が来ました。天使は、「グー、スー」と気持ちよく眠っているペトロさんのわき腹をつつきました。「起きて起きて、ペトロさん。急いで起きてください」。それはそれは、眠かったでしょうが、天使が言われるままに、急いで服を着て、靴を履いて、天使の後をついて行きます。するとどうでしょう。嚴重に見張られて、逃げ出すことなど考えられない牢屋の門が次から次へと勝手に開いて行きます。そして、遂に、外に出てしまいました。そして、ある通りを進んで行くと、急に天使の姿が見えなくな

りました。その時です。「ああ、そうか、神さまが、私を助け出すために天使を遣わしてくださったのだ」。ペトロさんは初めて、今自分が、牢屋から脱出していることに気づいたのです。

彼はこう考えました。「教会の兄弟姉妹たちは、心配して、お祈りしてくれているはずだ。もう真夜中だけれど、きっとあの家に行けば、仲間たちに会えるはずだ」。そこは、マルコとよばれていたヨハネのお母さんマリアの家です。

その家の女のお手伝いさんにロデさんという人がいました。ロデさんは、家の門を叩く音を聞きました。「教会の兄弟姉妹たちかな、いやもしかすると、迫害する人たちかな」。ロデは、門を叩いている人に言いました。「夜分にどなた様でしょうか」。すると返事はこうです。「やあ、ロデ。私です。ペトロです」。ロデは、もうびっくりしました。「ペトロ先生は牢屋のはず、ああでも、助け出されたのだ。そう分かったとたん、門を開くことも忘れ、お祈りしている皆のところに行って、「ペトロ先生が来ました！」と喜びの声を挙げました。すると、どうでしょう。お祈りしていた人たちは言いました。「ロデさん、そんな、ばかな。寝ぼけているのかい」と相手にしなかったのです。不思議ですね。一生懸命、ペトロが助かるようにお祈りして、お祈りが聴かれたのに、信じられなかったのです。しかし、ペトロさ

んは、そのように信じなかった人たちの目の前に立ったのです。

お祈りは、必ず聴かれるのです。夜中に「助かるように」と熱心にお祈りしていた人たちでも、「こんなお祈りをしてきつただめだろうなあ」というような、褒められないお祈りだったのです。けれども、神さまの栄光の御計画なら、聖霊なる神さまによって祈らせていただいたお祈りなら、必ず、お祈りはかなうのです。

さて、今日のカテキズムの中にこうあります。「信じることは祈ることです」。どんなことでも、祈ったら良いのです。神さまの栄光が現れるためのお祈りなら、どんなお祈りでも聴かれるのです。心に思う何でも、素直にお願いしてください。こんなことは無理だな、なんて思わないで、神さまのためになることだったら、どんどん、お祈りしてください。何が、神さまのお役に立つお祈りなのか、分からなかったら、分からないので教えてくださいとお祈りするのは、お祈りすることは、難しい事ではありません。神さまとお話することです。心に思うことを素直に神さまに向かって、「天のお父さま」と呼びかけてお話しするのは、最後に「イエスさまのお名前によって、アーメン」と唱えるのです。その時には、あなたのお祈りは間違いなく天のお父さまに届いています。

今週の暗唱聖句

どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。

フィリピの信徒への手紙4章6節

〈ねらい〉

神様は、私たちのお祈りを必ず聞いてくださることを学ぶ。

〈展開例〉

神様はすごいですよ。みんなのお祈りを全部聞いてくださるんですよ。世界中の人がみんな一緒にお祈りしても、そのお祈りを全部しっかりと聞いてくれます。それだけじゃないですよ。声に出してお祈りできなくても、みんなの心の中も全部わかっておられますから、上手にお祈りできなくても大丈夫！ みんなのお祈りしたいことは全部聞いてくださいます。

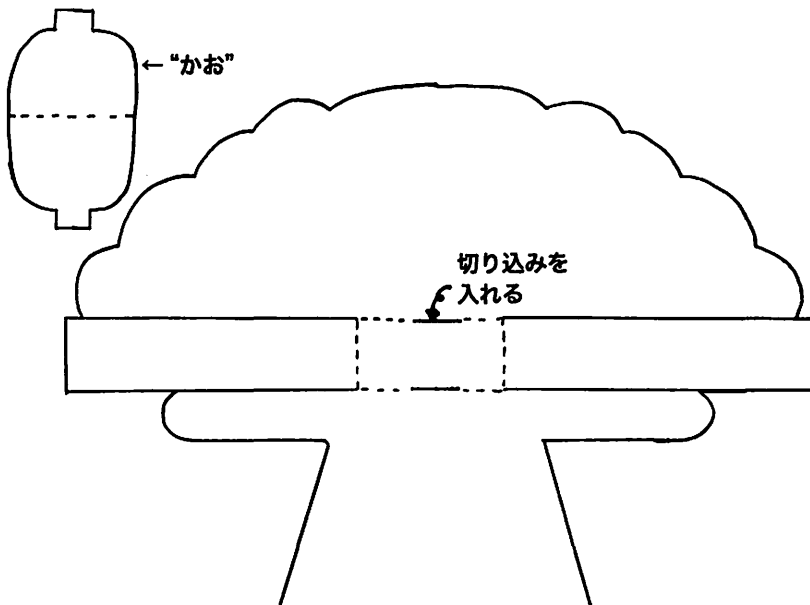
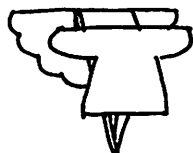
もちろん、みんなのお祈りがそのまま本当になるわけではありません。「今日はおすしが食べたいな」とお祈りしても、そのとおりになるとは限りません。でも、みんなにとって本当の意味で一番いいようにして下さいます。みんなも信じてお祈りしましょう！

〈いのり〉

天のお父様、私たちのお祈りを全部聞いてくださりありがとうございます。これからもいっぱいお祈りします。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉「天使のユラユラ人形」

1. 線にそって切る。
2. 点線を山おりにする。
3. “かお”を切って、ロや目、髪の毛等を書いて、身体にさし込む。
4. ユラユラゆらしてできあがり



〈目標〉

御言葉に聴いて、どんなことでも神さまのお話しができ、祈り求めることを通して、神さまを信じ、依り頼むことができるように導きたい。

くださることを今のみんなは信じましょう。信じることと祈ることとは一つです。どんなことでも素直に神さまにお祈りして、神さまを信頼できる子どもになりたいですね。

〈礼拝説教を振り返る〉

ペトロが牢屋に入れられていた時、教会では何をしていたのかな。みんなで神さまに対し熱心な祈りをささげていたんだね。ペトロさんは死刑にされる前の日、牢屋の中で怖がっていたのかな。ぐっすり眠っていたんだね。どうしてなのかな。イエスさまと一緒にいてくださるという信仰が与えられていたので、ちっとも怖くなく、むしろ平安で、喜んでいたんだよ。

主が天使を遣わしてペトロさんを牢屋から救い出してくださいました。そのペトロさんが教会のみんなの所へやってきました。みんなは信じてくれたかな。あまりの驚きの出来事に信じることができませんでした。でも熱心に祈るようにと導いてくださった神さまは、その祈りには必ず応えて

〈祈りましょう〉

めぐみの神さま

わたしたちのいのりを聞いてくださることをかんしゃします。

わたしたちは神さまを信じていますから、どんなときにも、どんなことでもおいのりします。

みこころにかなうことでしたらそのとおりに実現してください。

その実現されたことを見て神さまのみこころを知ります。

教会や世界のおともだちのために熱心にいのれるようにしてください。

イエスさまのお名前によっておいのりします。

アーメン。

〈やってみよう〉

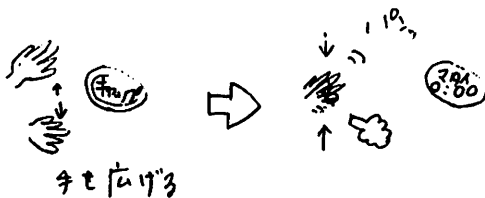
「牛乳キャップをめくって聖書を読もう！」

○用意するもの

- ・牛乳びんのキャップ（洗って乾かしたもの）数枚 ← 生徒の数で考えて下さい。
- ・聖書。

○あそび方

- ・牛乳びんのキャップのうらにあらかじめ聖書の箇所を選んで書いておく。
- ・できるだけ平らな所に、キャップを表向きに並べてキャップの近くに両手を持っていき、いきおいよくバンッと手をたたきます。
- ・上手にたたくとキャップが裏返しになるので聖書箇所が分かります。
- ・裏返しになった人から聖書箇所を開いて読みます。人数が多ければ競争しても良いでしょう。



- 先週学んだように、祈るにはまず、神様のみこばに耳をかたむけてきくことが大切です。聖書とお友だちになりましょう。

〈暗唱聖句〉 フィリピ4：6

〈学びのポイント〉

- (1) 祈りは信仰により、信仰とは祈ること
- (2) 祈りは必ず神さまが聞いてくださっている
- (3) どんなことでも祈ってみよう

〈説教のおさらい〉

教会の歩みは、はじめから祈りの歩みでした。

ペトロ先生が捕らえられたとき、仲間は心をひとつにして祈りました。祈りは神さまの救いを生み出します。

お祈りしたことは全部神さまが聞いてくださっています。そして必ずかなうのです。心配せず、信じて祈りましょう。

〈やってみよう〉 聖書を開きましょう

①使徒12：1～19

- ・ヘロデ王に捕らえられたペテロのために教会の人は何をしましたでしょう。
熱心に〔 〕
- ・ペテロが牢屋から救い出されたのはなぜですか？
主が〔 〕を違わしたから。

②フィリピ4：6

- ・次の聖句を完成させましょう
〔 〕につけ〔 〕をこめて
〔 〕と〔 〕を〔 〕ささげ
〔 〕を〔 〕に打ち明けなさい。

〈目標〉 ともに祈る

〈展開例〉

【メッセージ】①ペトロの教会の仲間たちは、ペトロが助かるように一生懸命祈りました。その祈りは夜まで続きました。ペトロは聖書を教えてくれる大切な人でした。もしペトロが死んだらもう礼拝を守ることができなくなり、教会がばらばらになるかもしれなかったのです。②それにしても、彼らはいったいどのように祈っていたのでしょうか。何時間もペトロを助けてくださいと同じ言葉をひたすら繰り返していたのでしょうか。いいえ、きっと聖書を読み、神様をほめたたえ、讚美し、そしてペトロの助け、教会の守り、神の栄光のあらわれなどを祈っていたことでしょう。③大切なことは、大勢の人が集まって心をつたにして祈っていたということです。そのようにしてクリスチャンの信仰は強くされるのです。

【すすめ方】①について：昔日本でも、イエスさまを信じる人が逮捕されるという事件があったし、今も中国ではキリスト者が何人も処刑されているとのことである。その実例を示し、ペトロの出来事は昔の話ではないことを示そう。②、③について：祈りとはただこちらの一方的な願いをがむしゃらに神に押し付けることではない。この点、「何でも祈ったらよい」という教え方は誤解を与えることがあるので注意が必要。祈りの心は神様への愛である。今私の教会の牧師が逮捕されたら、牧師の命ばかりか、その家族や教会の行く末が心配になるだろうし、神への信頼に動揺が生じることだろう。そこで大切なのは、教会で共に祈り、励まし合うことである。教会の任務は危機の時こそ礼拝を守り、祈りを絶やさず、信徒一人一人の神への愛を保つことである。たとえ牧師が死去してもキリストの教会は続く。①で紹介した迫害は結局キリスト者を根絶やしにすることはできなかったのである。



話し合おう

「お祈りって何？」と発問。「神様とお話する」と答えるだろう。「神様をお願いする」も出たら、「お願いするだけ？」と聞けば、「感謝する」も出るだろう。もし「お話する」しか出なければ、「どんなことをお話しするの？」と聞くと、やはり「お願い」「感謝」は出ると思う。もっと具体的に「食事の前に何てお祈りする？」「夜寝る前に何てお祈りする？」と聞いてみてもいい。「罪のさげ」がなかなか出なかったら、「悪いコトしたときは？」と聞いてみよう。「だれのお名前によって祈るの？」(キリストの御名)、「だれに助けていただいて祈るの？」(聖霊なる神様)、これだけ生徒と会話すればウ大教理の問178がクリア。



聖書を読もう

ヨハネ16:23~24。
詩編32:5~7。



お祈りカレンダーを作ろう(2)

「祈りの課題を探してくる」という宿題はできたか聞く。たいていはすっかり忘れてるので咎めないこと。(たまに律儀に考えてくる子もいるので感動だけど)何かない？とその場で考えさせる。

月別カレンダーに、祈って欲しい事柄に関係する日を書き加える。

世界に目を向けた祈りの課題がたくさん見つかったら、順番に祈れるようにカレンダーに書き込む。

月 日 「祈りとは何か(2)」 中学科

名前

聖書：

問

讚美：

☆祈りとは何か？

☆どなたのお名前によって祈るの？

☆どなたの助けで祈るの？

日	聖書箇所	祈りの課題
19日	ルカ7:11~17	
20月	ルカ7:18~35	
21火	ルカ7:36~50	
22水	ルカ8:1~8	
23木	ルカ8:9~15	
24金	ルカ9:1~9	
25土	ルカ9:10~17	

1月26日～3月16日 「祈りのお手本—主の祈り—」 聖書研究

テキスト ルカによる福音書11章1～4節
 マタイによる福音書6章9～13節

1月26日から3月16日まで、「主の祈り」について学びます。聖書研究では、主の祈りの全体をこの一回でまとめて取り扱います。

(1) 祈り

「主の祈り」は、ルカによると、「イエスがある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人が祈りについて教えてくださいと請うたのでした。ですから、何よりもまず、主イエスが祈っておられることを覚えなければ、主の祈りも形式的なものに墮してしまうでしょう。ルカ22章32節、「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だからあなたは……」、参照。

また、マタイでは、偽善者たちの誤った祈りの姿勢を指摘された上で、主の祈りを教えておられます。「隠れたことを見ておられるあなたの父」への祈りとなること、また、「彼らのまね」ではなく、「あなたがたに必要なものをご存じ」という信頼をもって祈ることの大切さを覚えなければいけません。

(2) 主の祈り

「ヨハネが弟子たちに教えたように」と言われるからには、洗礼者ヨハネが弟子たちに教えていた祈禱文が知られていたのでしょう。当時のラビたちも、それぞれ祈禱文を編む慣習があったようです。主の祈りは、その意味で、主イエスにつらなるキリスト者独特の祈りと言えるでしょう。

(3) 祈りの内容

「父よ (アッパ)」とは、一般に子どもが父親を呼ぶアラム語の幼児語だと言われています。十戒にある「主の名をみだりにとなえてはならない」という御言葉から「主」をあらわすヘブル語の聖四字を厳格に扱ってきたイスラエルの歴史から考えると、「主」に向かって「父よ」と呼びかけることができるというのは、たいへんな驚きです。神の独り子主イエスによって、「神」は私たちの「父」となってくれました。そこには、神と人との親しさと交わり、深い信頼が回復されて

います。

「御名があがめられますように」。名は体を表しますから、独り子主イエスによってあらわされた神ご自身のことを指すのでしょう。「あがめる」とは「聖別」の意味ですから、神を神として聖別すること、独り子によって私たちを救ってくださった神を礼拝するのにふさわしい畏敬をもって神を仰ぐことが祈られています。

「御国」とは神の御支配を指しますから、御名が崇められることによって到来する神の御国到来が祈られています。ヨハネ黙示録21章22～24節を参照。

「わたしたちに必要な糧を毎日」の毎日とは、「今日」とか「一日分」という意味を表し、日常の連続のことではなくて、主を仰いで祈っているまさに「この日」のことを言いたいのでしょう。23章43節の、「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と十字架上のイエスが言われた「今日」のことで、主イエスと共にいるという終末的な御国到来の日のことを指しています。その意味で「必要な糧」というのもただ単なる食事のことではなくて、「神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである」という「命のパン」のことを指していると考えられます(ヨハネ6章32～35節を参照)。

こうして、主イエスによって到来した終末的な御国の祈りは、必然的に罪の赦しを導き出します。自己の罪の赦しを願い求め、「赦し」に生きることを祈ります。神から引き離そうとする「誘惑」から守られることも必要になります。

明らかに、主の祈りは、主イエスによって終末的な御国がすでに到来していることが前提となっています。主の祈りの祈禱文は、「これから来るように」、「実現するように」という意味の願いではなくて、すでに到来しているからこそ、願い求める祈りなのです。主イエスによって神は私たちの「父」となられたと言いたいのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問77
ウエストミンスター小教理問答 問99
ハイデルベルク信仰問答 問118,119

子どもカテキズム

問77 御言葉の中にあるお祈りのお手本は、何ですか。

答 イエスさまが「こう祈りなさい」とお命じくださった、主イエスの祈りです。「主の祈り」を祈るとき、イエスさまが共におられることが分かります。なぜなら、イエスさまのお祈りをなぞることだからです。私たちがイエスさまと一緒に結んでくださる祈りです。イエスさまと結ばれた神さまの子どもの私たちの祈りを、天のお父さまは待っておられます。私たちは、毎日、イエスさまのお名前によって、天のお父さまにお祈りします。

〈祈りの模範〉

私たちに、神にどのように祈るべきかを主イエスご自身から教えていただく必要がありました。そうでなければ、私たちの祈りはみ心にならなかったものとはならなかったはずだからです。カルヴァンは言います。「もし、私たちが自分の気まぐれに従っているなら、私たちの祈りは、非常にひどくくだらないものになるでしょう。私たちは非常に無知ですから、求めてよいことを判断できないのです。さらに、私たちのすべての願いは、大変でたらめですから、その願いのままにまかせてはならないのです」(ジュネーブ教会信仰問答問253)

主の祈りは、私たちのすべての祈りの模範であり、祈りのすべての要素がこの短い祈りの中に凝縮されています。私たちのどのような祈りも、主の祈りには及びません。主の祈りは、主イエスご

自身の命がこめられた祈りです。主の祈りを祈るとき、主イエスは私たちとともにおられ、私たちは主イエスとともに祈ります。主の祈りによって私たちは主イエスの命にあずかり、主イエスとひとつに合わせられるのです。

〈主の祈りの内容〉

主の祈りは呼びかけ、六つの祈願、そして神の御名をほめたたえる頌栄からなっています。六つの祈願のうちはじめの三つは神の栄光に、他の三つは私たちの受けるべき祝福にかかわります。しかし、私たちが主イエスを通して願い求める祝福はすべて神のみ心にかなうものであるゆえに、六つの祈願のすべてが神の栄光に結びついていると言えるのです。

テキスト ルカによる福音書11章1節～4節
カテキズム 子どもカテキズム 問77

「祈りのお手本」

〔単元のねらい〕

「主の祈り」は特別の祈りである。人となられた御子、主イエス・キリストが地上で祈られた、主イエスの祈りだからである。この祈りの中に罪の赦しを求める祈りがある。それをもって、罪なき御子であるイエスがこの祈りを祈られることはありえないとする者もいる。しかし、そうではない。むしろ、私ども罪人の代表となって、罪の刑罰を受けられた方が、私どもに代わって（代表して）祈られた祈りがこの祈りなのである。それ故に、私どもはこの第五祈願を、自分の祈りとして祈ることが許される（3月9日分を参照）。主の祈りはこのように、私どもの祈りのお手本であるばかりか、祈りの言葉を唱える業がそのまま主イエス・キリスト御自身をなぞる、つまり、一体化させられる、祈りの手段のまさに極点となる「祈りのことば」であり、祈りなのである。我々の課題は、さらに主の祈りを唱えさせることによって、主イエス・キリストと一つにされる恵み、主イエス・キリストとの交わりに招き、さらにこの祈りの言葉を手がかりにして、自分の祈りの言葉をつむぎ出させるように導くことにほかならない。

ある日のことです。いつものようにイエスさまはお祈りしておられました。いつもお弟子さんたちはお祈りするイエスさまのお姿を見ていました。そこで、お弟子さんたちは、イエスさまにこのような質問をしました。「主よ、あの洗礼者ヨハネがその弟子たちに祈りを教えられたように、イエスさま、私たちにもあなたのお祈りを教えてください。イエスさまのお祈りは、私たちが知っているお祈りとは違うように思うのです」。ユダヤ人のお弟子さんたちは、もう赤ちゃんの時から、お祈りの言葉を教えられています。だから、お祈りすることには慣れていますが、お弟子さんたちには、「どうも、イエスさまのお祈りはこれまでのお祈りと違う」と思えたのです。そこで、イエスさまが教えてください、このように祈りなさいと命令して下さったお祈りがあります。それが、主の祈りです。これから皆で、主の祈りをそらんじられるように、唱えて行きましょう。

お祈りは、神様との会話です。お話することです。僕たち私たちが、誰かと話すときには、相手はすぐ目の前にいるでしょう。電話の場合は声だけです。お祈りは電話とは違います。つまり、神様は天におられますが、お祈りするときには、

そばにいてくださることが分かります。イエスさまがその場所に一緒にいてくださることが分かります。お祈りは、聖霊なる神さまによって、イエスさまのお名前でお祈りし、天のお父さまとお話しすることです。イエスさまは天におられますが、イエス・キリストの御霊の働きで、僕たち私たちがイエスさまと一つに結びあわれ、つながっているのです。神さまのことは、お祈りしたら分かるのです。イエスさまは、僕たち私たちがいつも一緒にいてくださることを教えてください、主の祈りを与えてくださいました。このお祈りを信じてお祈りすれば、イエスさまと一緒にいてくださることが分かります。

先生は、教会の人たちと一緒に集ってお祈りするときには、まるで2000年前にお弟子さんたちに教えてください、あのイエスさまがその場にいてくださる雰囲気は漂うように思えるのです。教会の礼拝式では、昔から主の祈りが祈られ続けてきました。もちろん、このようにお祈りしなさいと命じられたからなのですけれど、それだけでなく、昔の人たちも、そして先生の時代の教会も、主の祈りをお祈りするところには必ずイエスさまと一緒にいてくださることを、ずっと体験してき

たからなのだと思います。先生は、ある教会に行ったとき、礼拝式だけではなく、日曜日のお食事の時にも、午後の集会の時にも、その集会の終りの時にも、主の祈りを皆が唱えていて、ちょっとびっくりしたことがあります。でも、それは、一人ひとりがイエスさまと一つにされて、それによって、イエスさまと一つとされた神の家族としての親しい交わりを心から味わって、喜んでいるのだなと思いました。

だったら、僕たち私たちも、礼拝だけでなく、いろんな時にお祈りしたら良いと思います。一人ぼっちの時、なんてお祈りするのが良いのか困ってしまった時、そんなときにも、主の祈りをお祈りすれば良いのです。あなたの隣にイエスさまがおられことが分かります。それだけではなく、先生と一緒に、こんなことを想像しながらお祈りしてみてください。イエスさまを信じている人は、世界中に数え切れないほどいます。だから、主の祈りは、世界中で一日に、数え切れないくらい唱えられているはずです。一日に、何万回、何十万回、何百万回もお祈りしているわけです。だから、このお祈りを祈れば、名前も知らないお友だち、地球の裏側に住んでいるお友だちとも手をつないでいるような気がしてきますよ。

皆は、学校で、ひらがなを習ったでしょう。ノートに灰色の字で薄く「あ」という文字が書いて

あって、その「あ」という字の上を、鉛筆でなぞったでしょう。そうすると、上手な「あ」という文字が黒く浮き出るでしょう。もしも、そのように上からなぞるお手本がなければ、最初から上手には書けないでしょう。イエスさまは、「主の祈り」を教えてください、お祈りするように命じられました。それは、イエスさまと一緒に祈ることです。先生と皆は日曜学校で、よくこういうお祈りをしますね。先生が最初に、短くお祈りして、みんなは後にくっついてお祈りするのです。主の祈りはちょうどそのようなお祈りです。イエスさまが、最初に、「天にまします我らの父よ」とお呼びします。僕たち私たちは、そのイエスさまの真似をして、「天にまします我らの父よ」とお祈りします。その時には、イエスさまと一緒に祈ります。その時には、イエスさまと一緒に祈りしています。すごい恵みですね。だから、この僕たち私たちがこのお祈りをささげれば、まるで100点満点のお祈り、二重丸、花丸をいただけるお祈りとなるのです。

さあ、天のお父さまは、あなたの名前を呼んでおられます。「イエスさまを信じた神の子、私の子」と呼んでおられます。そして、僕たち私たちがお祈りすることを、待っていてくださいます。それなら、イエスさまと一緒に、皆と一緒に主の祈りを唱えましょう。

今週の暗唱聖句

祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい」。

ルカによる福音書11章1節後半～2節前半

〈ねらい〉

主の祈りは、主イエスが、私たちに示された「祈りの手本」であることを学び、覚えて祈ることができるように導く。

〈展開例〉

みんなは、「主の祈り」を知っていますか？いつも教会でみんなでお祈りしている祈りですよ。この「主の祈り」は、お祈りの手本として、イエス様がお祈りされ、そして私たちに教えてくださったお祈りです。ですから2000年もの間、世界の色々な国で色々な人がこの主の祈りを祈っています。そして今、ボクたち私たちもこのお祈りを祈ります。

このお祈りは、短いですが、祈らなきゃいけないことが全部詰まった100点満点のお祈りです。みんなはまだ字が読めないけど、大きなお友だちや先生と一緒に何度も何度もお祈りするうちに、いつの間にか全部お祈りできるようになります。

今日からしばらく、この「主の祈り」についてみんなで学びます。頑張りましょう！

〈いのり〉

天のお父様、「主の祈り」を与えてくださってありがとうございます。早く「主の祈り」が覚えられるようにしてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

主の祈りのカードを作ろう！

きれいに色をぬって、台紙に貼って、主の祈りを暗唱できるようにしましょう。

※工作の図は140ページをご覧ください。

〈目標〉

主の祈りが、すべての祈りの模範であり、すべての祈りが込められており、主と一つになるものだと覚え、子どもにも主の祈りを毎日祈ることができるように教え導きたい。

〈礼拝説教を振り返る〉

お弟子さんたちがイエスさまにお願いしたことはどんなことだったかな。「祈りを教えてください」ということだったね。わたしたちもこれから「主の祈り」を覚えましょう。祈りは、聖霊によって神さまに語りかけることで、主の祈りはそのお手本なんだね。お祈りすると、イエスさまと一つに結び合わされるのだよ。また主の祈りは、昔から世界中の人が祈ってきたんだ。私たちも一つ心になって祈れるんだ。

どう祈ればよいかわからない時、この主の祈りをそのままなぞって祈ればいいんだよ。心を込めて何回でも。そうするとイエスさまがいっしょになって導いてくださり、祈れるようになるんだ。

さあ、先生の後についていっしょにお祈りしてみましょう。イエスさまは、わたしたちがお祈りして、語りかけて来るのを待っておられるのです。

〈祈りましょう〉

天におられるめぐみの神さま

わたしたちに祈りを教えてください。

聖霊によって祈りを導いてください。

お手本として教えられた主の祈りを心をこめてお祈りします。

天のお父さまとおはなしができますように

みこころがわかりますように

わたしたちに必要なだけをお与えください。

お父さまに喜ばれる歩みができますように

わたしたちの悪い思いと行いをおゆるしてください。

お友だちとなかよくし、イエスさまのことを伝えられますように

イエスさまのお名前によってお祈りします。

アーメン。

〈やってみよう〉

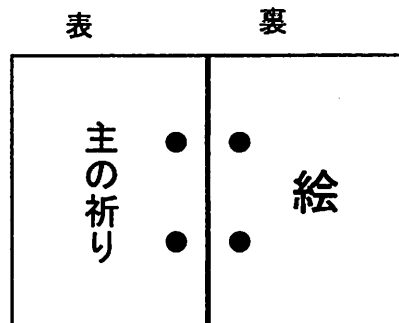
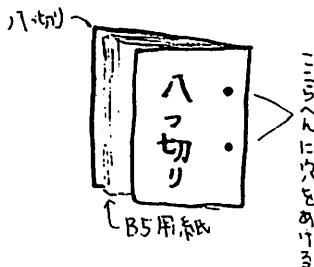
今週から3月30日まで
「主の祈り」の本を作ります

「今日やること」

- ・八つ切り画用紙を半分に折り、その中にB5用紙9枚をはさんでパンチで穴を空けます。
- ・表紙、裏表紙に字と絵を描きます。

〈用意するもの〉

- ・八つ切り画用紙一枚×人数分
- ・B5用紙9枚×人数分
- ・ひもかりボン
- ・穴あけパンチ（2つ穴）
- ・クレヨン、クレパス（色鉛筆）



今日はおこしませい。
じゃあまた来週ね☆

1月26日 「祈りのお手本—主の祈り—」 小学科中級 分級展開例

〈暗唱聖句〉 ルカ11：1b～2a

〈やってみよう〉 聖書を開きましょう

マタイ6：9～13

〈学びのポイント〉

- (1) 主の祈りはイエス様に教えていただいたお祈り
- (2) 主の祈りをささげ、私たちはイエス様とひとつにされる

○主の祈りカードをつくろう。

- ① 色画用紙など、少しきれいな紙を用意し、図のように、5等分にびょうぶ折りする。
- ② 1ページごとに主の祈りを1節ごと書いていく（主の祈りをアーメンもふくめて10節にくぎる）。・

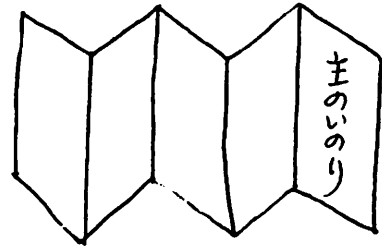
〈説教のおさらい〉

主の祈りをおぼえましょう。主の祈りによって、イエス様は私たちの中に一緒におられます。

唱えながら耳をすませてください。

心をこめて祈りましょう。

決してほかのことを考えながら唱えないでください。イエス様も一緒にお祈りしてくださっているのですから。



1月26日 「祈りのお手本—主の祈り—」 小学科上級 分級展開例

〈目標〉 イエスさまと共に祈る

〈展開例〉

【メッセージ】①私たちは神様から教えていただかなければほんとうのお祈りをする事ができません。イエスさまはそのような私たちのために「主の祈り」を教えてくださいました。ですから「主の祈り」はお祈りのお手本なのです。②イエスさまはお祈りするときいつも、「父よ」と神様のことをよんでおられました。主の祈りも「父よ」という呼びかけではじまっています。イエスさまはいつもご自分が祈っておられたお祈りを教えてくださいました。主の祈りを祈る時は、イエスさまと同じ祈りができるんだと思ってください。主の祈りを祈るたびに、私たちはイエスさまへの愛が深まり、ますます信じる心が強くされる

のです。

【すずめ方】①について：まず覚えよう。主の祈りを暗唱しよう。②について：「父よ」というよびかけについて。みんなはお父さんをどう呼んでいるかな。お父さん、パパ、父ちゃん、ダディ……いろいろだと思います。教会では神様のことを「天の父なる……」と呼びます。なぜでしょうか。子どもカテキズム問31を開いてみましょう。私たちはイエスさまの十字架の贖いによって、罪が赦され、正しい者と認められ、神の子とされたのです。このことを信じ、神様を愛する決心をした人は皆神の子です。みなさんは天の神様をどのように呼ぶのでしょうか。「父なる神様」でも「天のお父様」でも「父よ」でも、その人が一番こうお呼びしたい言い方で祈っていいのです。ちなみに先生は神様のことを○○と呼んでいます。



書いてみよう

学習の意欲付けと実態把握をかねて、主の祈りを書かせてみよう。

- ①何も見ないで思い出して書く。
- ②できるだけ漢字を使って書く（当てずっぽう可。分からなかったら全部平仮名可）。
- ③句読点「、」「。」をつける。
- ④段落分けをする。

という約束を最初にしてから書かせて、(ア)覚えているか、(イ)思い出すのに時間がかかるかどうか、(ウ)句読点のうち方、段落わけなど、文のまとまりが分かっているか、(エ)漢字の使い方など意味が分かっているか、(オ)助詞など細かい言葉の間違ひはないか、などを密かに注意深くチェック（観察）する。

①が難しいなら、最後まで言わせてみて(ア)(イ)(オ)等を観察した後、教師が一言ずつ言ったものを書き取らせ(ウ)(エ)(オ)等を観察する。



答え合わせ

「皆」「三国」「日曜の家庭」「心見（こころみ）」、「我らに」「我らが」

「我らの」という助詞の混乱などはたいへんありがちな間違いであることを伝える。

毎日毎週唱えて分かっているつもりだったけど知らないことがあった、呪文みたいで何のことも分からなかったけど書いてみて少しは分った、というような感想を持たせることが出来れば大成功。

クラスの雰囲気によって、テストのようにシーンと静かに行ってもよいし、相談しながらワイワイ書いてもいい。書くところを見られるのが嫌そうなら隠して書かせる。ワープロが使える環境なら、打たせると「点に増し鱗」など、すごい変換をして面白くなる。

月 日 「主の祈り」 中学科

名前

聖書：

問

讚美：

☆主の祈り

☆感想

日	聖書箇所	祈りの課題
26日	ルカ8：40～56	
27月	ルカ9：1～9	
28火	ルカ9：10～17	
29水	ルカ9：18～27	
30木	ルカ9：28～36	
31金	ルカ9：37～45	
1土	ルカ9：46～50	

カテキズム	子どもカテキズム 問78
	ウエストミンスター小教理問答 問100
	ハイデルベルク信仰問答 問120,121

子どもカテキズム

問78 「天にまします我らの父よ」の呼びかけは、私たちに何を教えてくださいか。

答 イエスさまが成し遂げてくださった十字架と復活の恵みによって、私たちが罪赦されて神さまから子どもと呼ばれる者となった喜び、聖霊なる神さまが私たちの内にお住まいくださる喜びを繰り返して思い起こさせてくださいます。「私たちの天のお父さま」とお呼びするとき、私は一人ぼっちではなく、神さまの家族の一人であることに気づきます。ですから、自分のことだけを祈ることはできません。

〈我らの父〉

私たちはイエス・キリストの御名によってはじめて、神を親しく「我らの父」と呼ぶことを許されます。私たち罪人は本来聖にして義なる神に近づき得ないはずの者でしたが、主イエス・キリストの十字架の贖いによって神は私たちを赦し、ご自身の子としてくださいました。この恵みによって私たちは主イエス・キリストにあって、主イエス・キリストとともに、神を「アバ父」と呼んで、大胆に御座に近づくことを許されたのです。

父なる神は、神の子らとされた私たちに限りない愛といつくしみとを示してくださり、進んで私たちに助けてくださいます。その父の愛と恵みの御力に信頼して、私たちはいついかなる時にも神をアバ父と呼ぶのです。

私たちは主イエス・キリストなしには、神を「父」と呼ぶことはできません。「我らの父よ」と

の呼びかけは、神が主イエス・キリストを通して私たちに近づいてくださった恵みに対する感謝の応答なのです。

さらに、この呼びかけは複数における呼びかけ（「我らの」）です。私たちは、神がキリストにある恵みの賜物を分け与えてくださるすべての人々とともに、またすべての人々のために祈るのです。主の祈りは隣人への責任において祈られるべき祈りでもあるのです。

〈天にまします〉

そのように近き方となってくださった神は、けれども依然として私たち被造物と区別さるべきお方です。神は天にいまし、私たちは地にある事実を心にとめて、自分たちの意志や好みに神を従わせる誘惑をしりぞけ、「いっさいの支配者にして主にいますお方の栄えある尊厳を、謙遜にあがめる」（ジュネーブ教会信仰問答問265）べきです。

テキスト マタイによる福音書6章9節～13節
 カテキズム 子どもカテキズム 問78

「天の父よ」

[単元のねらい]

本カテキズムは喜びがモチーフとなっている。神の子とされた救いの喜びであり、神を喜ぶ喜びである。その喜びを求めることは、絶えず主イエス・キリストを求めることであり、私どもを主イエスへといざなう。主イエス・キリストの人格と御業抜きに、キリストとの交わりなしに、喜びに生きることはありえないからである。そして、キリストとの結合、すなわち救いとは、実に真の神を「天の父よ」と呼ぶ関係に招き入れられることにはかならない。そうであれば、まさに主イエス・キリストが私どものために戦い、勝利し、霊の祝福を獲得してくださったのは、私どもに「主の祈り」を祈る特権を与えるためであったと言える。「天にまします我らの父よ」との呼びかけは、主イエス・キリスト御自身のお命がかかった、福音の恵みの総体の重みがある言葉である。主の祈りの学びは、子らにこの救いの喜びを求めさせ、味わわせるための学びであり、この呼びかけはまさに、祈りの喜びの根源となるのである。

あなたは誰ですか。誰かにいきなり言われたら、びっくりしますね。その時は、きっと、「僕は〇〇です。お父さんは〇〇です」。そんな風にこたえるでしょう。それなら、こんな風に言われたら僕たち私たちはどんな風にこたえますか。「あなたは神さまの子どもですか」。「僕は神さまの子どもです。わたしは神さまの子どもです」。そう言えるお友だちは手を挙げてください。今、手を挙げられたお友だちは、どれほど、神さまに喜ばれていることでしょうか。

それなら、手を挙げなかったお友だちはどうして挙げなかったのでしょうか。イエスさまが僕たち私たちのために、人間となってくださったのは、何のためですか。イエスさまは神さまの独り子です。独り子なる神さまと言います。それなら、神さまの子どもはイエスさまだけですよね。どうして、僕たち私たちが神さまの子どもになれるのでしょうか。それは、御子なる神さまイエスさまが、人間となってくださって、十字架についてくださることによって、僕たち私たちの罪を償ってくださったからです。誰でも、主イエス・キリストを信じるなら、その人は神さまの子とされるのです。信じるだけです。だから、イエスさまを信じているお友だちは、皆、手を挙げてください。もう一度、最初の質問をします。神さまの子どもにして

いただいたお友だちは手を挙げてください。

これまでのお話の中で、神さまは、あなたの名前を呼んでおられる、と聞いてきましたね。だから、お祈りは、神さまに返事をするのでした。「私たちの天のお父さま」「天にまします我らの父よ」という神さまへの呼びかけは、神さまが僕たち私たちを「わたしの子どもたちよ」と呼びかけてくださるからできるのです。もしも、僕たち私たちが、道端を歩いている知らないおじさんに「お父さん！」って呼びかけることなんてできないでしょう。そんなことしたら、本当のお父さんにすごく怒られるはずですよ。お父さんの子どもでなければ、呼べないのです。

それなら、どうして、天と地をお造りになって、これを保ち、支配しておられる聖く義しい神さまを、神さまから怒りを受けなければならない罪人の僕たち私たちが、「天のお父さま」と呼べるかは、分かるでしょう。それは、神の御子のイエスさまが、僕たち私たちを救うために働いてくださったからです。だから、「天のお父さま」ってお呼びするときには、いつでも、イエスさまのことを忘れることはできません。「イエスさま、心から感謝致します」という思いを持たないで、決して「天のお父さま」って呼べないのです。

イエスさまは、僕たち私たちが「私たちの天のお父さま」「天にまします我らの父よ」と神さまを呼べるようにするために十字架についてくださったのです。だから、あなたが、「天のお父さま」ってお呼びする時には、イエスさまは大喜びしてくださり、主イエス・キリストの父なる神さまも大喜びしてくださるのです。先生も、天のお父さまとお呼びするときに、心のなかに、喜びが湧いてきます。それは心の中に宿っておられる聖霊なる神さまが喜んでおられるからです。父と子と聖霊なる神さまが、僕たち私たちが神さまの子となって、神さまの子らしく、天のお父様って呼ぶのを待っておられます。喜んでくださいます。だから、心を込めて、感謝を込めて、愛を込めて、「私たちの天のお父さま」「天にまします我らの父よ」とお呼びしましょう。お祈りは、「天のお父さま」ってお呼びするだけで、立派なお祈りです。毎日お祈りしてください。イエスさまを思って、神さまに向かって、「私たちの天のお父さま」とお呼びするだけでよいのです。主の祈りの言葉を思い出してお祈りすれば素晴らしいです。「天のお父さま」ってお呼びしてから、心の中にいろいろな言葉が出てきたら、それを素直に申し上げれば、それは素晴らしいお祈りです。どんなに、神さまは喜んでくださるでしょうか。とにかく、声に出して、今日、家に帰って、お祈りしてみてください。きっと、先生が今お話したことが本当だってわかるはずですよ。

最後に、お祈りは、自分のことだけ、自分のためだけのお祈りをするわけには行きません。なぜなら、「我らの」つまり「私たちの」ってお呼びするからです。「私たちの天のお父さま」だからです。「家では誰もイエスさまを信じていないから、お祈りできないな」。そんな風に考えているお友だちも、勇気を出してお祈りしてください。声に出してお祈りできない場合もあるかもしれませんが、でも、心の中で、「天のお父さま」って呼べば、もちろん聴いていただけます。そして、自分だけが祈りしているのではなくて、皆がお祈りしていることを忘れないでくださいね。そして、日曜学校のお友だちのために、先生たちのために、まだイエスさまを知らないお父さん、お母さん、学校の友だちのために、お祈りしてください。そのような、誰かのために祈りしてあげることを「執り成し」のお祈りと言います。

最後の最後に、イエスさまは、今、天で何をしておられるのでしょうか。それは、僕たち私たちのための執り成しのお祈りです。イエスさまは、いつも、世界中の神さまの子どもたちのために、まだ子どもとされていない人たちのためにも、執り成しのお祈りをしておられます。だから、イエスさまの真似をして、僕たち私たちも、誰かのために、お祈りしたいですね。先生にも、お祈りしていることを教えてください。一緒にお祈りしましょう。

今週の暗唱聖句

天にまします我らの父よ。

「主の祈り」より

〈ねらい〉

私たちは神様の子どもです。「天のお父様」とお呼びしてお祈りできるよう学ぶ。

〈展開例〉

みんなはお父さんとお話するのが好きですか？ お父さんもみんながいろんなことを話してくれるのがとってもうれしいと思います。お父さんがニコニコしてお話を聞いてくれるとみんなもうれしいですね。お父さんはみんなのことが大好きで、みんなもお父さんが大好きだからです。

私たちはお父さんとお母さんの子どもですが、

神様の子どもでもあります。神様は、もっともっとみんなのことが大好きです。神様は、イエスさまを信じているみんなを神様の子どもとしてくださっています。ですから、「天のお父様」とお呼びして、「天のお父様」にもいっぱいお話ししましょう。神様はとっても喜んでくださいます。

〈いのり〉

天のお父様、いつも私たちのそばにいてください。そしていっぱいお話を聞いてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

大好きな人のためにお祈りしよう

★用意するもの…色画用紙
クレヨン、ペンなど

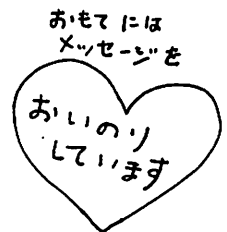
自分のためではなく、執り成しのお祈りをしてみよう。

- ♡まだ教会に来たことのないお友達のために。
- ♡風邪をひいているお友達のために。
- ♡お母さんやお父さんに感謝をこめて。などなど

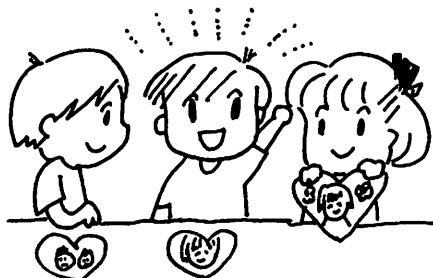
①色画用紙を2ツ折にし
ハートの形に切る。



②内側に大好きな人やお祈りしたい人の絵をかく。



③出来たら、「誰をかいたの?」「どんなことをお祈りするの?」と質問し、発表してもらう。



〈目標〉

「天の父よ」と呼ぶことのできる幸いを伝え、そのように呼ぶことのできることを喜びとする。「天の父よ」と祈ることのできる喜びを子どもたちと分かち合う。

〈礼拝説教を振り返る〉

主の祈りは「天にまします我らの父よ」と最初に、神さまに呼びかけます。なぜ、私たちは神さまのことを、「父なる神さま」と呼びかけることができるのでしょうか？

イエス様は私たちのために人間となってくださって、十字架にかかってくださって、みんなの罪を償ってくださったんだよね。その主イエス様を信じることで、みんなはイエス様につながれて、神さまの子どもとされて、天のお父様と呼ぶことができるようになるのです。

みんなが天の父よと呼ぶことができるのは、イ

エス様がみんなに与えてくださった特別な権利なのです。だから、みんなが天の父なる神さまとってお祈りできることは、みんなにとっても、神さまにとってもとても嬉しいことなのです。

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま

神さまがイエス様を私たちのために、私たちに与えてくださったことを感謝します。

イエス様を信じることによって、神さまを私たちがお父様と呼ぶことができることを感謝します。

イエス様を信じて、神さまを私のお父様と呼ぶことができるように導いてください。

神さまをお父様とお呼びして、いつも神さまにお祈りをできるようにしてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。

アーメン。

〈やってみよう〉

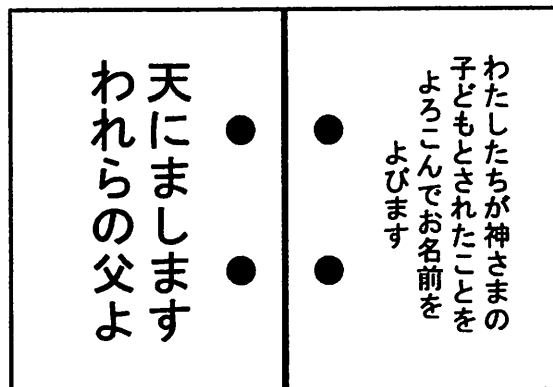
1月26日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。
- ・時間があまったら好きな絵を描いたり、シールなどを貼ったりして楽しいものにしましょう。

表

裏



今日はここでおしまい。
じゃあまた来週ね☆

〈暗唱聖句〉 主の祈り

〈学びのポイント〉

- (1) イエス様が「天の父よ」と呼ぶめぐみをくださった
- (2) 心を込め、感謝を込め、愛を込め「父よ」と呼ぶ
- (3) 「わたしの父よ」ではなく「われらの父よ」であること

〈説教のおさらい〉

私たちを愛し、御子イエス様によって私たちが子としてくださった神さま。

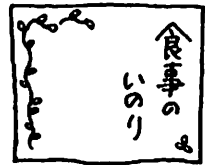
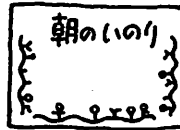
ほんとうにうれしいですね。私を神さまの子にするため、イエスさまは十字架につかれました。神は私一人だけではなく、イエス様を信じる人みんなの「お父さん」です。だから心からよろこんで、感謝してこう言います。

「天にいらっしゃる私たちのお父さん」と。

〈やってみよう〉

お祈りカードをつくろう。

- ・あらかじめお祈りの題を書いてカードを何種類か用意する。
- ・子どもたちに配り、配られたお祈りを自分の言葉で書かせカードをつくる。



いろいろなお祈りを
考えてみましょう。

〈目標〉 父なる神の家族である教会の祈りに導く

〈展開例〉【メッセージ】①「天」とは私たちが生きている間は決して見ることがゆるされないところです。そこに神様はおられます。天は厳かにして清らかなところ、罪がなく愛に満たされているところで、命が永遠に続くところです。そこにおられる聖なるお方を私たちは「父」と呼び、お祈りすることが許されているのです。なんとすばらしいことでしょう。②神の子とされた人は教会に集まってきます。神の子の集まりですから、教会は神の家族です。だから私たちは自分だけでなく、神の家族のことを思いながら、「我らの神」と呼ぶのです。

【すすめ方】

①について：犯罪はどのように夜によく起きるのだろうか。暴走族がたむろするのはなぜ夜が多いのだ

ろう。なぜ夜の公園はあぶないのだろうか。それは悪人は光を嫌うからである。同じように、「天」は本来罪人である人間にとって恐ろしいところである。なぜなら天の聖なる光によって自分の罪があらわにされるからである。悪人はどんどん悪いことを続け光の方へ来ない。悪人は自分では自由に生きていると思っているが、実は神が彼の心を閉ざし「天」に心が向かないようにされているのである。これこそ神のおそろしいさばきである。私たちは「天」に導かれており、まことの光を知っている。②について：神の家族は私たちだけの教会ではない。今を生きる全世界の教会に集う人を含むばかりか、過去まことの神を信じて生きた人々や、これから神様を信じて生きていく将来の人々を含む。このように神の家族は無限の広がりがある。また聖書に登場する人物のうち誰に会いたいだろうか。子どもたちに聞いてみよう。



呼びかけ (祈りの対象)

「わたしたちは誰に祈るの？」と最初に質問。神様に祈るのかイエス様に祈るのかよく分からない子もいるかも知れない。主の祈りの冒頭は呼びかけの言葉。祈りの対象は「天にまします我らの父よ」。

この一言に対して、どれだけ質問を出すことができるか生徒にチャレンジさせる。「天にまします」ってどういう意味？「我らの父」ってだれ？我らってだれら？なぜ「父」なの？「天」ってどこ？神様は偏在のはずなのになぜ「天にまします」なの？等々の質問が出ることを期待。(例が全部出ることを期待しているのではない) 出た質問をみんなで考えてみよう。

「アッパ」は、「パパ」のアラム語。舌の回らない幼児が父を呼ぶ言葉。十字架の贖いにより、神の独り子イエスさまがお呼びするように、わたしたちも「アッパ父よ」と呼びかけることが許された。



どなたに、どのような態度で

天地とその中の全てのものを創造し、統べ治めておられる(天にまします)神を、キリストにおいてアッパ父よと呼ぶ。わたしたちに全ての良いものを備えてくださる方へ、幼子のような信頼と尊敬を持って呼びかける。生徒たちは家庭でまた中学科で、他の人と共に他の人のために祈ることを実践してきていると思うが、「我らの父よ」と呼びかけることから、共に祈り合うこと、とりなしの祈りをするのをイエスさまが望まれていることを伝える。



聖書の読み取り

マルコ14:36、ローマ8:1~17、ガラテヤ3:26~4:7。

月 日「主の祈り 呼びかけ」 中学科

名前

聖書：
問

讚美：

☆どなたに祈るのか

☆どんな態度で祈るのか

日	聖書箇所	祈りの課題
2日	ルカ9:51~62	
3月	ルカ10:1~12	
4火	ルカ10:13~20	
5水	ルカ10:21~24	
6木	ルカ10:25~37	
7金	ルカ10:38~42	
8土	ルカ11:1~13	

カテキズム 子どもカテキズム 問79
 ウェストミンスター小教理問答 問101
 ハイデルベルク信仰問答 問122

子どもカテキズム

問79 「御名をあげさせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 私たちの神さまのすばらしさが、私たちから、そしてすべての人からもほめたたえられ、すべてのものがただ神さまの栄光をあらわすために用いられるようにしてください、ということです。

〈御名を〉

神の御名は神ご自身の本質そのものを意味します。文字通り、名は体を表すのです。また、神の御名は、神の行為と不可分です。神はその御名のために意志し、ふるまわれます。神の御名を覚えることと、神のみわざを覚えることとはひとつのことなのです。

神はモーセを通してご自身を「わたしはあるという者だ」と名乗られました（出エジプト記3章14節）が、この御名の啓示は、神がイスラエルの民をエジプトの国、奴隷の家から救出し、約束の地に導き入れるとの恵みのふるまいの告知（同3章16節以下）とひとつのものだったのです。

同様に、主イエス・キリストのご降誕のおりには、「その名はインマヌエル（神は我々と共におられる）と呼ばれる」と告げ知らされ（マタイによる福音書1章23節）、さらに主イエスはご自身の救いのみわざの成就を「わたしは彼らに御名を知らせました」（ヨハネによる福音書17章26節）との御言葉によって言い表されたのです。

〈あげさせたまえ〉

「あげる」とは聖別するということです。つまり、私たちが神の御名を聖とすること、神をまことに神として生きることを願い求める祈りが、主の祈りの第一祈願です。

神はご自身が聖なるお方ですが、同時にご自身が永遠の契約においてお選びになった民たちをも聖とさせていただきます。すなわち第一祈願は、私たち自身の聖化を祈り求める祈りであると言えます。聖霊の働きを願い求める祈りであると言ってもよいでしょう。

神が聖なるお方であると言われる時には、神の超越性、永遠性、主権性、唯一性が意味されています。これらのご性質を正しく知り、ほめたたえることができるようにと私たちは祈ります。

そして、私たちは救われてなお神の御名よりも自分自身の名をあげることを好むひとりひとりであることを思うなら、この祈りは御言葉を聴き、御言葉によって悔い改めへと導かれることなしには祈り得ない祈りであることがわかるのです。

テキスト マタイによる福音書6章9節～13節
カテキズム 子どもカテキズム 問79

「御名をたたえる祈り」

[単元のねらい]

第一祈願を学ぶ。先週学んだように、神への呼びかけそのものが、キリスト者の救いそのものとなる。いわば救いとは主の祈りを祈れるようになることであると言いうる。そして、そこでも明らかになるのは、改革教会の教えが強調する、救いとは、ただ神の栄光のために生きることへの自由に生きることである。それは、子どもカテキズム問1で明らかにされた人生の目的そのものである。何のために生きるのか、それは、「神さまの栄光をあらわすためです」。そして、主の祈りがいの一番に指し示す「祈りに生きる道」は、神の御名をあげめる祈り、神の栄光を求める生き方であることを、深く覚えたい。

主の祈りは、キリスト者の祈りである。そうであれば、自覚的信仰を確立していない子らに単に主の祈りを唱えさせてよしとすることはできない。もちろん、我々は、暗唱することを否定しているわけではない。むしろ、信仰教育は暗唱から始まると考えている。十戒の学びにおいてもそうであったように、ここでも、救いの恵み、キリストの紹介が説教の変わらざる主題となる。主イエス・キリストを鮮やかに指し示す説教を。

今日は主の祈りの言葉、その第一番目の言葉を学びます。先生は、子どもの頃、教会に行った事がありませんでした。ですから、まことの神さまを礼拝したり、お祈りしたこともありませんでした。その頃、お祈りというのは、何か困った時に、カミとかホトケとかに向かって、願い事をする事だと考えていました。そして、お祈りなんかするのは、自分で一生懸命頑張らないで、頼んだりすることで、良くないことくらいに考えていました。けれども、今は全く違います。お祈りする人ほど、強い人はいませんし、努力して頑張っている人だと思えます。

イエスさまの教えてくださった、一番最初のお祈りの言葉、それは、「願わくは御名をあげめさせたまえ」です。「神さまのお名前を、賛美させてください。讃えさせてください」という意味です。これは、お願いごとではありませんね。神さまを愛する言葉。神さまを礼拝する言葉です。僕たち私たちは、今、礼拝をささげています。それは、神さまに「あれをください。これをください。ああしてください。こうしてください」とお願いをしに来ているのではありませんね。僕たち私たちをお造りくださり、愛してくださる真の神さま

を、僕たち私たちも愛し、敬い、大切に考えているから、礼拝をささげているのです。それが、僕たち私たちの礼拝です。素晴らしいことです。

「御名」とは何でしょうか。それは、イエスさまのお名前と考えても良いのです。このイエスさまの御名がすべての人から大切にされることを、誰が一番求めているのでしょうか。それは、天のお父さまです。イエスさま御自身です。イエスさまは、神殿で商売をしている人たちを追い払いましたね。真の正しい礼拝をささげていないことは、神さまがもっとも悲しまれ、憤られる罪です。だから、イエスさまは、地上に真の礼拝をささげる神さまの民を選び分けられるために、人間となって来てくださり、十字架についてくださったのです。

イエスさまは、このような約束をしてくださりました。「二人三人、私の名によって集るところには、私もいる」。まことの礼拝式は、イエスさまのお名前によって集る礼拝式のことです。イエスさまのお名前を信じていない人の祈りも礼拝も、まったく意味がありません。イエスさまはそこにはおられません。逆に、イエスさまのお名前に

よって集まり、イエスさまのお名前を信じている僕たち私たちのこの礼拝式には、イエスさまが共にいてくださるのです。だから、この主の祈りを心からお祈りしている教会には、間違いなく、イエスさまと一緒にいてくださいます。イエスさまは、地上で命をかけて、御自身のお名前を聖くされました。イエスという名前の意味は「救い」です。イエスさまはそのお名前どおり、十字架にかかって僕たち私たちを救ってくださいました。父なる神様の御心を何一つもおろそかにすることなく、守り通されました。神の栄光を求められたのです。まさに、この第一の祈りも、イエスさまこそが、誰よりも誰よりも真剣に求められたことでした。そして、それを果たされました。本当に、父なる神さまの栄光は、御子イエス・キリストによって、完全にあらわされたのです。

僕たち私たちは、イエスさまと一緒に、心からお祈りできます。「神さまがほめたたえられますように。神さまの栄光があらわされますように」。それは、イエスさまに救われていない人たちが決して求めない願いです。でも、僕たち私たちは、イエスさまが大勢の人々から「すばらしいなあ、すてきななあ。すごいなあ」と言われると嬉しいでしょう。求めています。だから、間違いなくあなたは神さまの子どもです。

神さまの栄光は、どうすればあなたを通してあ

らわされるでしょうか。イエスさまを信じ続けること。神さまの子とされたことを喜んで生きること。神さまを礼拝することです。神を愛し、隣人を愛して生きる事です。子どもカテキズムの最初、問1から問4までを思い出してください。救われた僕たち私たちは、お祈りすることによって、聖霊なる神さまに励まされて、力を与えられています。だから、それができます。できるようにされています。このお祈りを祈っていると、礼拝を休まないようにがんばれるようになります。皆で、このイエスさまと一緒に、このお祈りを祈りましょう。礼拝をささげる僕たち私たちこそ、イエスさま御名前をほめたたえているのです。

けれども、失敗する事もたびたびです。むしろ自分のしたことが神さまの御名前を低くする、汚してしまうことの方がはるかに多いのです。けれども、そんな時、もうお祈りをあきらめたり、止めたりしてしまいますか。いいえ、大丈夫です。僕たち私たちが、ごめんなさいと悔い改めるとき、何度でも何度でも、新しく始める事ができます。それを、天のお父さまは喜んでくださいます。友だちから、「すっごいね」と言われるようなことをしたかどうかより、どんなに失敗しても、素直に「神さまごめんなさい。赦してください」と悔い改めてやり直せるお友だちこそ、神さまの御名をあげているお友だちです。

今週の暗唱聖句

御名をあげさせたまえ。

「主の祈り」より

〈ねらい〉

お祈りは、「願いごと」をかなえてもらうことではないことを学ぶ

〈展開例〉

ピーマンが嫌いなお友だちがお祈りしました。
マコト君＝「神様、ボクは嫌いなピーマンを頑張って食べました。だからご褒美にサッカーボールを買ってもらえるようにしてください。」
メグミさん＝「神様、嫌いなピーマンが食べられました。少し苦かったけれど美味しかったです。今まで食べなくてごめんなさい。神様のくださるいろいろな食事で元気な体になしてください。」

さあ、二人のお祈りはどうかな？ 二人とも頑張って嫌いなピーマンを食べたね。そして二人ともお祈りの中でお願いがあったね。でもどこか違うよ。分かるかな？

……お願いの違いについて学ぶ。

〈いのり〉

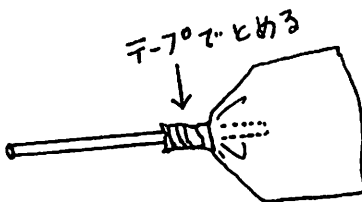
天のお父様、悪いことをしたときは「ごめんなさい」、うれしいときには「ありがとうございます」、とお祈りできるようにしてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

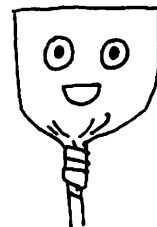
神様のお名前を元気に呼びましょう

★用意するもの…紙コップ、ビニールぶくろ、ストロー、マジックペン、テープ

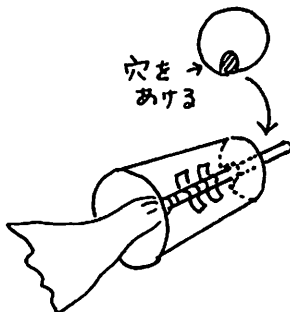
①ビニールぶくろをストローの先にテープで止める。



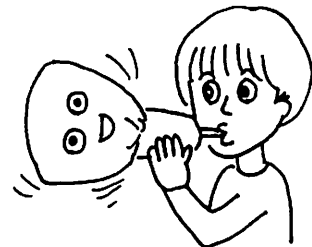
②ビニールぶくろに顔をかき ※①②の順序が反対でも良いです。



③紙コップの底に穴を開け、ストローをさしこみ、ストローを紙コップにテープでつける。



④ビニールぶくろを紙コップに入れて、吹いてみよう！ 元気に神様を呼ぶように！



〈目標〉

私たちキリスト者の生きる目的は神さまの御栄光を表すことである。神さまの御名をあげめる祈り、神さまの御栄光を求める生き方であることを共に覚える。

神さまの御名をあげるといことは、神さまの子どもとされたことを喜び、神さまを喜んで礼拝することです。この礼拝を守れるように、このお祈りを神さまにささげましょう。

〈礼拝説教を振り返る〉

私たちはお祈りをするときいろいろなことを願うよりも、何よりも最初にすべきことがあります。それは、神さまを賛美することです。これは神さまを愛して、神さまを礼拝する言葉です。それが「御名をあげめさせたまえ」というお祈りです。

この「御名」というのはイエス様のお名前のことです。このイエス様の御名が呼ばれることを求めておられるのは、天のお父様です。イエス様のお名前が、みんなから大切にされることは神さまが一番喜ばれることです。御名があげめられることによって、神さまの御栄光が表されるのです。

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま
 イエス様のお名前を賛美します。
 イエス様を信じることができるようになってくださったことを感謝します。
 イエス様の救いによって、神さまを礼拝することができるようにして下さったことを感謝します。
 私たちがいつも正しく神さまを礼拝することができるようにしてください。
 毎週、正しく神さまを礼拝するために、教会に来ることができるように導いてください。
 イエス様のお名前によってお祈りします。
 アーメン。

〈やってみよう〉

2月2日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。

表

裏

● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●
-------------------	-------------------

み名をあげ
め
させたまえ

神さまのすばらしさを
ほめたたえて、
他の人にも伝えることが
できるようにしてください。

今日はここでおしまい。
じゃあまた来週ね!(^^)!

〈暗唱聖句〉 主の祈り

〈学びのポイント〉

- (1) 救いとは、主の祈りを祈れるようになること
- (2) 「御名をあげさせたまえ」は人生の目当て

〈説教のおさらい〉

神さまによるこばれる礼拝とは何でしょう。イエス様の御名を心から大切にすることですね。

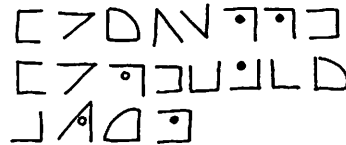
神さまは、正しい礼拝をする人を今も招いておられます。招かれた私たちのなかにイエス様はともにおられます。だから私たちは礼拝をはなれませぬ。イエス様といっしょにいたいからです。

〈やってみよう〉

・「御名をあげさせたまえ」ということはどういうことでしょうか。次の暗号をといてください。

〈暗号表〉

あ	い	う	こ	さ	し	そ	と	な
え	お	か	す	せ	そ	に	ぬ	ね
き	く	け	た	ら	う	あ	は	む
め	も	ふ	れ	ろ	や	わ	を	ん
む	み	へ	る	り	や			
か	よ	ほ	り	ら	よ			



さあ とけたかな？

〈目標〉 御名をあげる

〈展開例〉

【メッセージ】①私たちは自分をあげるのが大好きです。「あげる」とは聖なるものとして他のものから区別することです。私たちはやっぱり自分が一番大事で、他の人から区別しています。自分の悪いところはなかなか見えず、時に自分はいつも正しいとさえ思うことがあります。ですから神様をあげると言われてもあまりその気にはならないものです。ところが自分は決して一番ではありません。人間は皆罪人です。神様の前ではだれも自分が一番などとは言えないのです。②一番にすべきは自分ではなく神様です。神様は、ご自分の子であるイエスさまの命とひきかえに人間の罪を赦してくださいました。この愛より大きいものはありません。だからこそ私たちは畏れと感謝をもって神様をあげるのです。

【すすめ方】①について：画用紙に何色かの色紙を、白い画用紙に貼ったものを掲示し、希望、夢、やる気、頑張り、親切などを色にたとえると何色になるかみんなで考えてみよう。私たちの心が白い画用紙にようであったら、すべての色はきれいになります。でも私たちの心はこのようではありません。なぜなら罪があるからです（黒の油性マジックで染みをつける）。罪はちょうどこの黒い染みのように、私たちの力では絶対にとれません。しかもこのきれいな色で表される希望や頑張りなどの心が輝くのをじゃまをするのです。私たちの心はこのように罪で汚れていてみじめで、とても自分が一番などとはいえないのです。②について：おなじみ「イエスさまが一番」（『友よ歌おう』、いのちのこば社）を歌おう。なぜイエスさまが一番なのか。それはイエスさまの愛が一番だからです。私たちが寂しい時、悲しい時、一番慰めてくださるお方はイエスさまなのです。



第一の願い

「第一の願いは何？」と質問。先週同様「願わくは御名を崇めさせ給え」という一言に対して、どれだけ生徒が質問を出すことができるかチャレンジさせる。

「願わくは」「御名」「あげさせたまえ」ってどういう意味？「御名」ってだれの名？「あげめる」ってどうすること？なぜ「させたまえ」って使役なの？（使役なんて言葉、中学生は知るはずないけど。なお聖書では「御名があげられますように」）等々の質問が出ることを期待。

出た質問をみんなで考えてみよう。

る神をたたえるのです』。被造物すべてが御名をあげめる、そのためにイエスさまが地上にきてくださった。十字架の贖いを成し遂げてくださった。そのことを知らされているわたしたちクリスチャンの第一の願いは「御名をあげさせたまえ」。



人の主な目的

第一の願いはわたしたちの人生の目的と同じ。「食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すために」（コリー10:31）。毎日の生活をこの祈りを持って送っているか、話し合おう。



聖書の読み取り

ヒリビ2:1~11。『天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父であ

月 日「主の祈り 第一の願い」中学科

名前

聖書：

問

讚美：

☆どなたをあげめるの？

☆だれがあげめるの？

☆わたしたちの人生の目的

日	聖書箇所	祈りの課題
9日	ルカ11: 14~26	
10月	ルカ11: 27~36	
11火	ルカ11: 37~54	
12水	ルカ12: 1~12	
13木	ルカ12: 13~21	
14金	ルカ12: 22~30	
15土	ルカ12: 31~35	

カテキズム	子どもカテキズム 問80
	ウエストミンスター小教理問答 問102
	ハイデルベルク信仰問答 問123

子どもカテキズム

問80 「御国を来たせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 神さまの恵みの支配が教会の中で確立され、教会を通して広げられ、ついにはイエスさまが再び来て完成してください、ということです。

〈御国を〉

神の国とは、地理的空間的な領域というよりも、生ける神の恵みの支配が起こっている現実そのものを言い表した言葉です。神のご臨在と、御手による救いのみわざが生起しているなら、そこは神の国です。神の国はこの世の国とは異なります。私たちは神の国を待ち望む信仰に生きているひとりひとりであり、それゆえ、この世の国が究極的なものであるとは信じません。だからこそ神の国の到来と実現を祈り求めるのです。

聖書は、神の国が来るためには、主イエス・キリストとともに十字架に死んで古い自分を葬られ、主イエス・キリストとともに新しい命によみがえらなければならないと述べています。主イエスはニコデモとの対話の中で、「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」とおおせになりました(ヨハネによる福音書3章3節)。キリストを信じる者たちは、この世のただ中に身を置きつつ、神の国とこの世の国とが異質のものであることを証しして歩むのです。

〈来たせたまえ〉

神の国には、「すでに」と「いまだ」のふたつの側面があります。

まず、神の国はこの世のただ中に「すでに」来ています。イエス・キリストが世に来られたことによって、神の国はある意味では実現しました。神の国の祝福は、主イエス・キリストの十字架と復活のみわざによって、すでに鮮やかに示され、私たちも主イエス・キリストの命の恵みに今すでに生かされています。そして、教会はこの世にあって神の国を先取りしている場所であり、主の日の礼拝は終末の御国の祝福の前味です。

しかし、神の国は「いまだ」完成には至っていません。終わりの日の主イエスの再臨と新天新地の到来の祝福は、なお祈り求められるべきものです。私たちは、神がまことに神として君臨したもうその日の到来を切実に待ち望む祈りに生きるのです。

テキスト マタイによる福音書6章9節～13節
 カテキズム 子どもカテキズム 問80

「御国を求める祈り」

〔単元のねらい〕

「御名があがめられるようにと祈る者は、必然的に御国が来ますようにと祈る」と、カルヴァンは言った。神の国とは、神の恵みの支配とその領域のことであり、主イエスの到来によって始まり、再臨によって完成される。始められた神の国が拡大することは、御名があがめられる業の中心である。主イエスの宣教の第一声であり、宣教内容の要約は、「神の国は近づいた、悔い改めて福音を信じなさい」である。それ故に、復活の主イエスの宣教の主題もまた、神の国についてであった。もはや、主イエス・キリストの救いを受けた者が、この祈りを祈るべきことは当然と言わねばならない。世々の教会は、「教会の祈り」として「アーメン、主イエスよ、来てください」と祈り続けた。そして、この祈りを生きた者たちは、伝道へと心駆り立てられた。この祈りはまた、主イエスがニコデモを「神の国を見る」ことへ、すなわち救いへと導かれたように、伝道すること、またこの世の主権者への抵抗の姿勢と力をもたらし祈りでもある。この祈りの豊かさを一度の説教で語ることはほとんど不可能と言わざるを得ない。説教者は、自分の存在をかけて、自分自身がこの祈りによって、与えられている喜び、幸い、慰めを生き生きと語れるように祈り求めよう。

ある日のこと、イエスさまのところへ、とても優れた聖書の先生でユダヤ人の指導であった、ニコデモという、年をとって人々が訪ねてきたことがあります。この人は、イエスさまのことを心から尊敬していたのです。イエスさまは、ニコデモにこうおっしゃいました。「ニコデモさん、人は新しく生まれなければ神の国を見る事はできません」。イエスさまは、ニコデモさんに、どうしても、神の国に入って欲しかったからです。神の国、というのは神さまが神さまらしく働いてくださり、人々も神さまを神さまらしく、あがめている場所のことです。イエスさまが一番最初に説教をされた言葉は、こういうものでした。「時は満ちた、神の国は近づいた、悔い改めて福音を信じなさい」。それはこういう意味です。「あなたがたの目の前に、私がいるでしょう。だから、神の国は今、ここに来ました。わたしを信じるなら、神の国の中に入れます。どうぞ、悔い改めて私を信じなさい」。イエスさまは、行く先々で「神の国は来ました。今のうちに信じなさい。信じる事ができない時が来る前に。早く、私を信じなさい。信じて、神さまの子とされなさい。神の国に入れ

ていただきなさい」。そして、最後に十字架につけられて、僕たち私たちの罪を贖い、復活して、天国の門をすべての信じる人に開いてくださったのです。神の国を僕たち私たちの間に実現してくださったのです。ですから、「御国を来たせたまえ」、つまり、「神さまの国が来ますように」と、誰よりも誰よりも熱心に真剣にお祈りされたのは、そればかりか御自身の命を捨ててまでお求めになられたのは、イエスさまです。このお祈りはまさにイエスさまのお祈りなのです。

復活して天に昇られたイエスさまから聖霊を注がれて誕生した僕たち私たちの教会も、今、一生懸命、心を込めて、愛をもって、人々にこう呼びかけ続けています。「誰でも、イエスさまを信じるなら、神さまの子とされます。天国に入る人になります。天国に入れる人は、洗礼を受けて教会員となりなさい。教会は、天国の門です」。「イエスさまを信じなさい、神の国に入りなさい」と伝え、招いているのです。

でも、そのような教会は、たとえどんなにがんばって伝道しても、イエスさまに服従しても、た

だそれだけでは、この世界全部が、神の国にはならない事をイエスさまによって教えていただいています。「エーッ、それなら、いつ、この世界は、完全な神の国、天国になるの」と考えてしまうかもしれませんね。それは、イエスさまが再び僕たち私たちのこの地上に来てくださる再臨の日です。イエスさまは、こう僕たち私たちに約束してくださいました。「わたしはすぐに戻ってきます」、「必ず戻って、地上で始まった神の国を完成します。新しい天と新しい地を造って、天のお父さまの国、神の国を与えてあげます」。だから、教会は、今までもう2000年の間ずっと「アーメン、主イエスさま、来てください」とお祈りを欠かした事はありません。「イエスさまのお約束は、アーメンです。確かです。嘘をついたり、忘れることはありません。心から、待っています。早く来てください」。こう祈っているのです。

イエスさまは、僕たち私たちに「御国を来たらせたまえ」とお祈りするよう命じてくださいました。それは、イエスさまの約束を信じさせるためです。心からわくわくして待たせるためなのです。イエスさまがもう一度地上に来てくださることを待っている人は、「御国を来たらせたまえ」とお祈りするはずです。そうして、このお祈りをお祈りする人は、心を高くイエスさまと天のお父様のおられる天に向かわせられます。伝道する人にされてしまいます。偶像の神々を拝まない人にさせられます。イエスさまが主の主、王さまの王さま、神の神であることを認めないおっかない人に

だって負けない、心の強い人にされます。何よりも、イエスさまの教会が大好きになります。イエスさまの教会をイエスさまがいつでも中心にいてくださることがよく分かるような教会にするよう、奉仕する人にさせられてしまいます。世界中で、戦争や、災害、貧しさで苦しみ、悩み、涙を流している人のために、お祈りする人にさせられてしまいます。

このお祈りをお祈りする僕たち私たちが、自分が、神の国に入れられていることを感謝することができます。喜べるのです。そして、絶対、この世界にイエスさまがもう一度来てくださって、涙も悲しみもない、「完全な」神の国を来たらせてくださることを信じるようになります。このお祈りを心からお祈りしているあなたは、間違いなく、もうイエスさまを信じています。イエスさまと一緒にいてくださいます。つまり、完全ではありませんが、神さまの国に入っているのです。そして、完全な神の国に、絶対に入れられるようになるのです。それだけでなく、僕たち私たちが住んでいる、この争いや、うそや、にくしみ、悲しみがある場所を小さな神の国のように祝福していただけます。なぜなら「イエスさま、一緒にいてください」という意味もあるのですし、本当に一緒にいてくださるのです。今週も、主の祈りを先生と一緒に毎日お祈りしましょう。

今週の暗唱聖句

御国を来たらせたまえ。

「主の祈り」より

〈ねらい〉

イエス様が再び来てくださり、神の御国を完成させてくださることを心から待ち望むことができるよう学ぶ。

〈展開例〉

みんなが今住んでいる国は日本という国なんですけど、じつは「神様の国」という所があります。

どこが違うんだろう？ って思うよね。外国の人が住んでいるのかな？ そうだね、外国の人もあるよ！ 神様の国はね。神様を信じる人だけが行ける国なんだよ。いつも神様が一緒にい

て、みんなが楽しくてうれしい気持ちになる国です。

神様の国はまだ完全にはできていないんだけど、イエス様がもう一度天から地上に降りてくださるときにできるんだよ。待ち遠しいね。

だからボクたち私たちは言います。「イエス様早く来てください」。

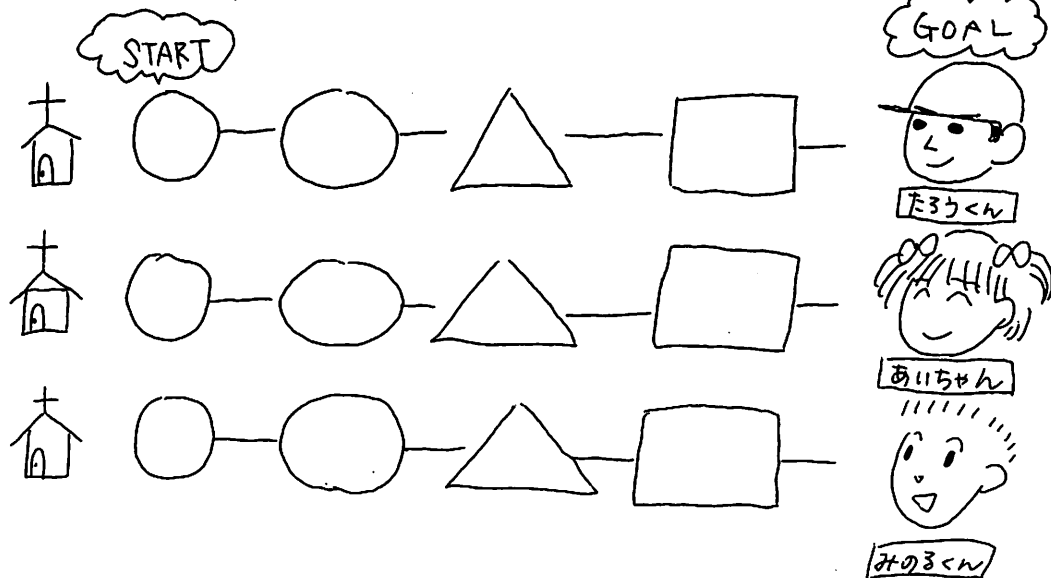
〈いのり〉

天のお父様、「神の国」が来ることを心から待っています。「イエス様早く来てください。」

イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈ゲーム〉

「御国をきたらせたまえゲーム」



- ①まずジャンケンをして1番になった子は「イエス様早く来て下さい」といいます。するとイエス様が再び地上に来てくださる時に完成する神の国＝上の絵でいう教会の絵が子供たちのほうへ1マス近付きます。
- ②またジャンケンをして勝った子が「イエス様早く来て下さい」というと教会が1マス近付きます。
- ③一番はやく教会が自分の所にきてくれた子の勝ちです。

☆ポイント

子供たちが自分で「イエス様早く来て下さい」と言う事が大切です。必ずその言葉を言ってからコマを進めるようにしてネ。

〈目標〉

主の再臨によって神の国は完成する。そのときまで、主が再び来てくださることを求めて、子どもたちと共に祈ることを目指す。

いするのです。このお願いも、イエス様がもう一度来られることを待ち望むお祈りなのです。

イエス様がもう一度来てくださるように、いつも熱心にお祈りしましょう。

〈礼拝説教を振り返る〉

「御国を来たらせたまえ」という願いは、教会ができた2000年前から、ずっとお祈りしてきたことです。これは神さまの国が完成するようにというお願いです。この神さまの国にイエス様を信じる私たちは間違いなく入れるのです。

この神さまの国が完成するのはイエス様がもう一度この世に来てくださるときです。そのときが早く来るようにお祈りするのです。イエス様、来てくださいと私たちはお祈りして、お願いするのです。それと同時に私たちは、イエス様がもう一度来てくださるそのときまで、この地上でイエス様の御栄光が表される支配がなされるようにお願

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま

イエス様を信じることで、神さまの国に行くことができるようにして下さったことを感謝します。この世で神さまの御栄光が表されて、神さまの御支配が示されますように。

イエス様、もう一度来てくださって神さまの国を完成させてください。

神さまの国に私たちが入るときまで、神さまの子として歩くことができるように導いてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。

アーメン。

〈やってみよう〉

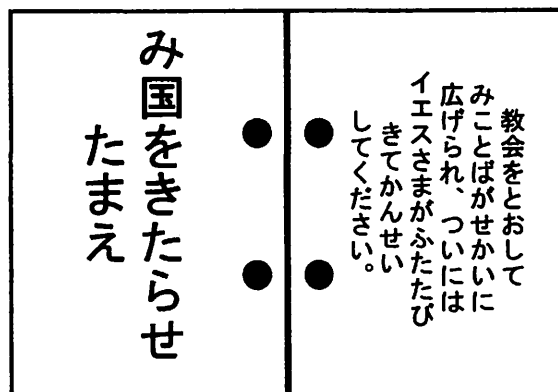
2月9日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。

表

裏



今日はここでおしまい。じゃあまた来週ね(^_-)

〈暗唱聖句〉 主の祈り

〈学びのポイント〉

- (1) 「御国を来たせたまえ」は、信仰の中心。
- (2) 教会こそ、この祈りを心から祈ることができる。
- (3) 私のいる場所を小さな神の国のように祝福してください。

〈説教のおさらい〉

「御国を来たせたまえ」を熱心に祈ったのはイエス様。そして、神の御国を完成させるため、イエス様はもう一度、来てくださる。

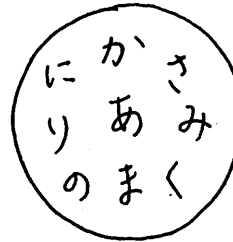
この祈りを祈りながら、私たちは、イエス様を待っている。そして、悪魔が完全にほろぼされる完全な国、みんなが神さまのことを讃え、喜ぶ国を待ち望みます。だから感謝して「御国を来たせたまえ」と祈るのです。

〈やってみよう〉

聖書を開きましょう

ヨハネ3：3～5

「人は新たに生まれなければ〔 〕
を見ることはできない」
「だれでも水と霊によって生まれなければ
〔 〕に入ることはできない」



〔 〕に入ることば
をこの中のもじからえら
んで組み合わせてみま
しょう。

こたえ…かみのくに

〈目標〉 神のご支配を祈り求める

〈展開例〉

【メッセージ】子どもカテキズムの答に「神様のご支配」とあります。私たちは生まれつき支配されるのが嫌です。私たちは自分は自分で支配したい、思うとおりに生きたいと思っています。しかし第二のお祈りは、「私たちもこの世界もすべて神様が支配してください」と祈るのです。どうしてでしょうか。それは私たちには罪があるので、自分で自分を支配しようとする自分中心になり、欲ばりの嫌な人間になってしまうからです。私たちは神様に支配されないと間違った生き方をしてしまうのです。神様のご支配は愛による支配です。私たちに優しく慰め、忍耐強く支え、心を新しく変えてくださるのです。どうかみなさんも神様に支配されてください。

【すすめ方】導入として、今お金がありあまるほ

どあったら何をしたいか。子どもたちも先生も考えて発表し合ってみよう。それぞれの考えに、子どもたちの夢や希望やおかれている境遇などが反映していて興味深いかもかもしれない。次にたとえ話をしよう。学校の帰り、細い道路の真ん中で小さな男の子が倒れておお泣きしていた。頭から血を流している。かたわらには自転車が倒れており、50m先に車が止まっていて、ドライバーの女の人がおろおろしていた、とする。どうやら交通事故らしい。周りには誰もいない。みなさんはどうするか。→ここでは勇気を問題にしている。いくらお金があっても何の役にも立たない時がある。お金があれば色々なものが買え、色々なことができるかもしれない。しかし人生において必要なのは、むしろお金で買えないものであることに気づかせたい。それは勇気であり、忍耐であり、優しい気遣いである。神様に支配される時はじめてそれらのものが与えられるのである。



第二の願い

「第二の願いは何？」と質問。先週同様「御国を来らせたまえ」という一言に対して、どれだけ生徒が質問を出すことができるか。しかし今週は「御国」「来らせたまえ」ってどういう意味？ くらいしか出ないかもしれない。「神の国（天国）が来ますように」であることも自明かもしれない。そこで、そこからさらに質問を出させる。「神の国」「天国」って何、あるいはどこ？「神の国（天国）が来る」ってどういうこと？ 天国は来るものでなく自分が行くものだと思っている生徒もいるかも。

出た質問をみんなで考えてみよう。



聖書の読み取り

ペトロニ3：12～13、ローマ16：20。神の支配は神の力によって来る。

敵（サタン）はわたしたちに足の下で打ち砕かれる。



希望と戦闘の祈り

◇御国は「もう」来ている……キリストの十字架と復活により実現された。キリストは罪・悪魔・死を打ち破り勝利された。◇御国は「まだ」来ていない……この世には（わたしの心にも）罪の力・悪魔の力・死に力が激しく働いている。終わりの日に全ての敵は滅ばされ、神の支配が確立する。◇「もう」と「まだ」の間で……キリストの身体である教会においてクリスチャンは御国の恵み喜び幸いを知らされた者。聖餐によってその前味を味わうことが許されている。御言葉の解き明かしを受け御堂なる神様に豊かに宿っていただき髪（カミ）の支配に従う。御国の闘いに参与し勝利の闘いを生きる。

月 日「主の祈り 第二の願い」中学科

名前

聖書：

問

讃美：

☆御国は「もう」来ている

☆御国は「まだ」来ていない

☆「もう」と「まだ」の間で

日	聖書箇所	祈りの課題
16日	ルカ12：41～53	
17月	ルカ12：54～59	
18火	ルカ13：1～9	
19水	ルカ13：10～21	
20木	ルカ13：22～30	
21金	ルカ13：31～35	
22土	ルカ14：1～6	

カテキズム	子どもカテキズム 問81
	ウェストミンスター小教理問答 問103
	ハイデルベルク信仰問答 問124

子どもカテキズム

問81 「御心の天になるごとく地にもなさせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 私たちが、そしてすべての人も、自分中心のわがままな心を捨てて、神さまの御心に聴き従う者とならせてください、私たちがなすべきわざを喜んですることができるようにしてください、ということです。

〈神の民の実現を祈り求める〉

主の祈りの第二の祈願で、「御国を来たせたまえ」と祈りました。神の国の実現を求める祈りです。神の国とは、この世の国とは異なっており、神の恵みの支配をあらわしています。主イエス・キリストがまことの王として治めてくださるということです。そのところには、治められる民、神の民があります。神の恵みの支配、主イエス・キリストの御支配は、神の民が主イエス・キリストに服従し、神の御心に従順に聴き従うところにおいて実現します。その意味で、第二の祈願と第三の祈願は一对の祈りです。主なる神に聴き従う神の民の実現を祈り求めるのです。

このことは、主イエス・キリストが来られたことによって「すでに」実現していることであり、地上には、神の御心を喜び、御心に喜んで聴き従う民が起こされています。主に聴き従う群れである、キリストの体なる教会です。私たちは、かしらなる主イエス・キリストに治められ、神の御心を行う器とされています。しかし、神の民といえどもなお罪人であり、完成を祈り求めなければなりません。神の国は「いまだ」未完成なのであり、ですから、私たちは、「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈ります。

〈神の御心……聖書と説教〉

この祈りを祈る者は、聖霊に導かれて、神の御心を行う者とされます。神の御心は、聖書において啓示され、また今は教会の説教において明らかにされています。私たちは、聖書の御言葉と説教を神の御言葉として受けとめ、そこに明らかにされている神の御心に聴き従います。聖書の御言葉、

また説教の言葉は、語られて終わりではありませんでした。それが聴く私たちの心に届き、私たちにおいてその御言葉が実現するという、私たちが神の御心に聴き従うということ、そのことにおいて完成します。

〈聴き従うということ……主イエスの祈り〉

「御心をなさせたまえ」とは、神の御心に聴き従うことの信仰の表明でもあります。私たちは、自らの思い、わがままや自己中心の思いを捨てて、自らの心を神の御心に重ね合わせます。神の御心をこちらに引き寄せるではありません。自分の心を神の側に、御言葉に重ね合わせて、それを私たちの志とするのです。信仰において私たちは、神の御心を行うことを決断します。主なる神がその決断を祝福し、聖霊による力が与えられ、神が私たちの思いと行いを導いてくださいます。

主イエス・キリストは、十字架の苦難に際して、「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください」（ルカ22:42）と祈られました。そうして、十字架におもむかれ、贖いの御業を成し遂げてくださいました。「御心をなさせたまえ」とは、主イエスの祈りにほかなりません。主イエスは、この祈りを祈られて、御父に従う従順を貫かれ、罪と死に勝利されました。私たちが「御心をなさせたまえ」と祈るときには、この主イエス・キリストが共にいてくださり、主イエス・キリストと一つにされます。主イエス・キリストのゆえに、私たちは、御心を行う者とならせられることを確信し、また勝利が与えられることを確信して、「御心をなさせたまえ」と祈るのです。

テキスト マタイによる福音書6章9節～13節
カテキズム 子どもカテキズム 問81

「御心を求める祈り」

[単元のねらい]

信仰の生活は祈りの生活であり、その祈りの内容の中心は、御名をあげ、御国を求め、御心を求めるものである。つまり、「信じることは祈ることであり、祈ることは従うことです」というつながりを持つ。しかし、生まれながらの人間は、神の御心に生きるより、自分の計画に生きようとする。聖霊の導き、支配、満たしなくして、御心を求めて、これに従うことはできない。だから、この祈りには「死のにおい」がする。「古き自我」の「死」である。しかし、そこでこそ明らかになるのは、この死のにおいの発生の源は、主イエス・キリスト御自身にあることである。それが、ゲツセマネと十字架の御業である。この祈りの主人公こそ、ここでも主イエス・キリストであられることを明らかにしたい。このお方の御業に支えられてこそ、我々の信仰生活、つまり、献身生活が可能となるのである。

主イエス・キリストは、霊的に無能力な我々を知ってくださる故に、この御自身の祈りへと招き、導いてくださる。第一、第二祈願を真実に祈る者は、この祈りを祈る者とされる。ここでも、この祈りは主イエス・キリストの祈りであることを鮮やかに示したい。ゲツセマネの祈りが我々の救い、我々の信仰生活、祈禱生活の根拠となっているのである。教師自身の祈りの生活、祈りも結局、神のお働きが神御自身の力で進められることをねがうと同時に、自分自身を神に明け渡す祈りをささげることが中心となっているに違いない。信仰の道は、自分を明け渡す、献身の道である。子らと共に、祈りの成長を求めていきたい。

イエスさまは、毎日毎日、一人で、そしてお弟子さんたちとお祈りしておられました。イエスさまの生活、イエスさまの伝道のお働きに、お祈りは欠かせないことでした。けれども、あの夜のお祈りは、特別のお祈りとして、お弟子さんたちに忘れることができないお祈りとなりました。

それは、イエスさまが十字架につけられる前の夜のお祈りです。その日も、いつものようにオリブ山のゲツセマネというところで、お祈りをなされたのです。けれども、お弟子さんたちをも連れて、「誘惑に陥らないように祈りなさい」と命じて、イエスさまは、彼らから離れて、このようにお祈りされました。「父よ、御心なら、この杯をわたしから取り除けてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行なってください」。

気がついたお友だちはいますか。今日のカテキズムで学んだ、主の祈りの第三番目のお祈りと同じことばですね。つまり、何度も何度も言います

が、主の祈りは、イエスさまがお祈りしたお祈り、イエスさまのお祈りです。イエスさまは、このときだけ、こうお祈りなさったわけではありません。地上において、いつもいつも、「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」とお祈りして、しかも、そのお祈りを完全に実行なさったのです。ゲツセマネのお祈りのあと、イエスさまは力強く立ち上がって、十字架へとまっすぐにごんごんと進んで行かれたのです。

僕たち私たちは、何故、お祈りするのでしょうか。そのこたえはいくつもあるのです。お祈りしているときは、イエスさまと一つとされていることが分かります。だから、僕たち私たちはお祈りするのです。もちろん、お祈りしていないときも、イエスさまと僕たち私たちはつながっています。お祈りするときだけ神さまの子になっているのでは決してありません。イエスさまは、いつでも気づいていてもいなくても一方的に、僕たち私たちと

一緒にいてくださいます。ただし、僕たち私たちのほうで、イエスさまと一緒にいてくださること、イエスさまのことを良く思っているのはどんな時でしょうか。それは、間違いなくお祈りしているときではないですか。

日曜日に皆で集ってお祈りするのを、主日礼拝式といいます。僕たち私たちの日曜学校の礼拝式こそ、お祈りの中のお祈りです。お祈りの中心です。だから、今皆でささげているこのお祈りのときには、イエスさまのことをずっとずっと身近に感じられるはずですよ。そして、同じように、お家で一人でお祈りするときにも、イエスさまと一緒にいてくださることが分かります。だから、信じる人は必ずお祈りしたくなるし、できるのです。

でも、お祈りは、ただ、それだけではありません。神さまは僕たち私たちを通して、神様の栄光を表そうとおられます。そのためには、神さまの命じられること、望んでおられることを行なうこと、神さまの御心に従うことが必要です。つまり、お祈りすることは、「イエスさまに従います。神さまに喜ばれるようにしたいです」という心がないと、お祈りは続きません。そのために、イエスさまは、このお祈りを与えてくださったのです。

そこで、「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」とお祈りするとき、僕たち私たちは、「自分中心のわがままな心を捨てさせてください。喜んで、私のするべきことを行なうことができる

ように助けてください。何をすべきかを教えてください」とお祈りしているのです。このお祈りを心からお祈りしていれば、その人は必ず、どんな悪い力にも決して降参しない人、負けない人になれます。そして、神さまの栄光をその人らしくあらわすことができるようにならせていただけるのです。

でも、「そんな立派なお祈りなんて、わたしにはできない。自分のお願いを聞いて欲しいからお祈りするのであって、神さまに喜ばれるのは、このお祈りを聴いてもらったら……」。こう考えるお友だちもいるかもしれません。でも、誰でも同じように考えているのです。先生も同じです。でも、先生はイエスさまに教えられた通りこのお祈りをしています。何故でしょう。それは、このお祈りは、すでにイエスさまによって、成し遂げられているからです。だから、どれほど、僕たち私たちが失敗してもそれによって神さまの御心が実現しないわけではないのです。どれほど、自分勝手な心になっても、イエスさまのこのお祈りが僕たち私たちを支えてくれるのです。天のお父さまは、このお祈りをお祈りするとき、イエスさまを通して僕たち私たちを見ていてくださいます。だから、失敗を恐れず、イエスさまに喜ばれるように大胆に生きてみましょう。その時には、もしも少しでも悪いことができた時に自慢せず、イエスさまが導いてくださったと感謝できるようになります。

暗唱聖句

御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

「主の祈り」より

〈ねらい〉

私たちが、わがままで自分勝手にではなく、神の御心を聞きながら祈ることができるよう学ぶ。

〈展開例〉

みんなはお祈りできるかな？ どんなお祈りをしたことがある？

例えばね、テレビに出てくるヒーローアニメの悪のボスが、「ハハハハ……!! この世界の全てを私のものにしてくれー!!」とお祈りしたとします。何でもできる神様はそのお祈りをかなえてくれて、世界は悪のボスのものになってしまうのかな？ いいえ、決してそんなことはありません！

お祈りをするとき、これは神様がいいと思うことかな？ 喜ばれることかな？ と考えることが大切なのです。だから、自分のことしか考えていない勝手なお祈りをした悪のボスのお祈りは、決してかなえられることはありません。よかったね。みんなも神様が喜ばれることを考えてお祈りしようね。

〈いのり〉

天のお父様、ボクたち私たちがお祈りするとき、わがままな心を捨てて、神様の喜ぶことを考えることができるように助けてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

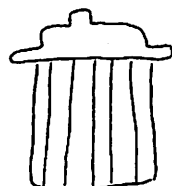
〈工作〉

宝箱とゴミ箱を作って御心にかなったお祈りを宝箱に、かなっていないお祈りをゴミ箱にすてみよう。

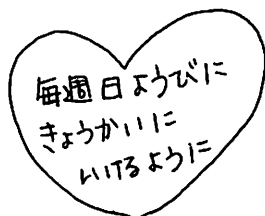
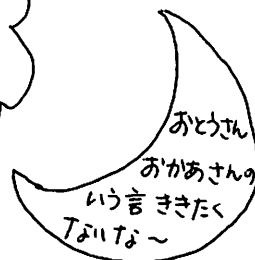
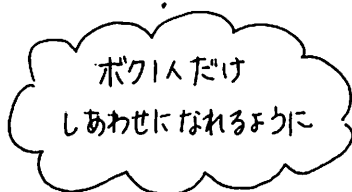


宝箱

あらかじめ教師の方が作っておくと良い。
ちょっと大きめに作ってポケット式に中に入れられるようにすると、さらに楽しいよ



ゴミ箱



など、アイデアでいろいろなパターンを作るといいネ。

〈目標〉

神さまの御心になることこそが祈りの中心となるように導き、教師・生徒共々にそのような祈りができることを目指す。

〈礼拝説教を振り返る〉

主の祈りは、イエス様のお祈りです。イエス様はどんなときも神さまにお祈りをなさっておられたのです。私たちも、イエス様と同じようにお祈りをします。それは、お祈りをすると、イエス様が一緒にいてくださることを感じるということです。

イエス様はお祈りをなさるときいつも「御心ならば」とお祈りしておられました。どんな願いをなさるときも「御心ならば」とお祈りなさっておられたのです。「御心ならば」との願いは、神さまの御心がお祈りの中心であり、神さまの御心の通りに全てが成ることこそが、自分の一番の願

いであるということなのです。みんなもいろいろお願いをと思うけど、どんなお願いも、自分の思い通りではなくて神さまの御心、神さまのお気持ちの通りの答えが与えられるように、お祈りをしましょう。

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま

私たちは自分の願っていることがその通りになえられるように願ってしまいます。

でも、イエス様が示してくださったように、神さまの御心を自分の一番の願いとすることができるようになってください。

そして、イエス様が教えてくださったように、御心が天になるごとく、地にもなさせたまえとお祈りすることができるようになってください。

イエス様のお名前によってお祈りします。

アーメン。

〈やってみよう〉

2月16日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。

表

裏

み心の天になるごとく、 地にもなさせたまえ	● ●	わたしたちのおもい よりも神さまのみ心の ままによることで したがうことが できますように。	● ●
--------------------------	-----	--	-----

今日はここでおしまい。
じゃあまた来週ね♪

〈暗唱聖句〉 主の祈り

〈学びのポイント〉

- (1) 「御心の天になるごとく」と祈る人は、イエスに従う
- (2) 私たちはそのために神さまの命令、望まれることを行う
- (3) 自分の力ではなく神さまの力に信頼する

〈説教のおさらい〉

イエス様自身、天のお父さまの御心に従えるよう、熱心に祈りました。

「自分中心のわがままな心を捨てさせてください。喜んで、私のすべきことを行うことができるように助けてください。何をすべきかを教えてください」という祈りです。

〈やってみよう〉 聖書を開きましょう

マタイ 26：36～39

マルコ 14：32～42

ルカ 22：39～46

○イエス様の祈られた言葉を上の3つの聖書の箇所から抜き出しましょう（ひらがなでね！）

マタイ しかし、わたしの願いどおりではなく○○○○○○○○。

マルコ しかし、わたしが願うことではなく○
○○○○○○○○○が行われますように。

ルカ しかし、わたしの願いではなく○○
○○○○○行ってください。

〈展開例〉

【メッセージ】 ①第三の祈りは、神様のご支配に
応えて、御心に聞き従うことができますようにと
いう祈りです。この祈りをするのに私たちに必要
なものは「勇気」です。「まだ罪に弱い私ですが、
これからは神様の助けによって、御心を行って
いきます！」と勇気をもって神様に向き直らない
限り、この祈りは本物にはなりません。②御心と
は何でしょう。それは聖書に書いてあるし、毎週
日曜日に日曜学校の先生がお話してくれます。
神様の御心は私たちが自己中心なわがままな心
を捨て、互いに愛し合うことです。私たちは罪人な
ので、なかなか人を愛することができませんから、
この祈りを祈り続けるのです。神様は真実な方
ですから、必ず私たちの心を新しく変えてくださ
るのです。

【すすめ方】 ①について：前回「勇気」について

考えたが、私たちがまず持たなければならない
「勇気」は、神のふところに思い切って飛び込む
「勇気」である。友だちから何と言われようとも、
両親から何と言われようとも、神様、イエスさま
に従っていこうという「勇気」を持つことから新
しい人生が始まるのである。この「勇気の門」を
くぐらない限り、私たちは洗礼を受けることが
できないし、聖餐式を守ることが許されないの
である。神を信じてはいても、おそらくこの「勇
気」を、まだ真剣に問うたことのない子どもた
ちに、まことの信仰の意味をはっきりとさせて
おこう。②について：愛について考えてみよう。
コリント第一13章にあるとおり愛にはさまざま
な要素がある。「愛」と「好き」とは違うこと
を、一番大いなる愛は主イエスの死によって示
されたことを、そして御心を行う者は永遠に
生き続けることを伝えよう（ヨハネ2：17）。



第三の願い

「第三の願いは何？」と質問。毎週のパターンで「御心の天になるごとく地にもなさせ給え」という一言に対して、どれだけ質問を出すことができるか生徒にチャレンジさせる。「御心」「天」「なる」「ごとく」「地」「なさせ給え」と分解することはそろそろ身につけているかも。(聖書では「御心が…行われますように」)天ではどのように御心が成る(行われる)のか? 地ではどうなのか? などの質問が生徒から出るとよい。

出た質問をみんなで考えてみよう。



神様のご意志が実現するために

墮落した世の中では御心が行われていないことも生徒はよく感じている。自分のこと、自分の周りのこと、世界のこと、歴史の中のこと、御心でないと思えることを挙げさせる。そのような世の中で、自分が何をなすべきか? どのように祈るのか?



聖書の読み取り

詩編103:19~22、148編。天の御使い天の軍勢が御心にかなうように行う様子、被造物が御言葉に従う様子を味わう。

月 日「主の祈り 第三の願い」中学科
名前

聖書:

問

讃美:

☆天ではどのように御心が成るのか

☆地では?

☆「わたしの生活」との関係は?

日	聖書箇所	祈りの課題
23日	ルカ14:7~14	
24月	ルカ14:15~24	
25火	ルカ14:25~35	
26水	ルカ15:1~10	
27木	ルカ15:11~32	
28金	ルカ16:1~13	
1土	ルカ16:14~18	

カテキズム 子どもカテキズム 問82
 ウェストミンスター小教理問答 問104
 ハイデルベルク信仰問答 問125

子どもカテキズム

問82 「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 神さまこそが、私たちのすべての必要を備えて、楽しませてくださるので、私たちの毎日の食べ物をご覧ください、神さまにのみ頼らせてください、ということです。

ウェストミンスター小教理問答

問104 第四の祈願において、わたしたちは、何を祈りますか。

答 (「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」という) 第四の祈願で、わたしたちは、神が無償で与えてくださる賜物の中から、自分たちがこの世の生活のために良い物の適量を受け、それらによる神の祝福を喜ぶよう祈ります。

〈すべてを神の御前に〉

主の祈りの前半は、おもに神との関係について祈りました。主の祈りの後半は、おもに私たち自身の必要を訴える祈りです。しかし、これらも、神との関係において理解されるべきです。私たちの必要のすべて、私たちの人生のすべてが主なる神との関係の中に置かれていること、神の御前に生きるということを教えられる祈りです。

〈贖い主・創造主なるお方に依り頼む〉

主なる神は、まず何よりも、私たちに霊の糧が必要であることを教えておられます。「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きる」(申命8:3)。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」(マタイ6:33)。この霊の糧として、御言葉と聖霊が与えられています。私たちは、まずこの霊的な糧を祈り求めます。

そして、主なる神は、私たちに肉の糧が必要であることをもご存じです。主なる神は、私たちの創造主、命の源なるお方なのであり、私たち以上に、私たちの必要をすべてご存じです。その主なる神が、必要を祈り求めなさいとおっしゃってくださいます。私たちは、どんな小さなことであってもすべて主なる神に依り頼み、主なる神に祈り求めます。神は、わたしたちの祈りに応え、私たちの願いに増してふさわしいものをもって、私たちを豊かに満たしてくださるのです。

〈すべてのよきものの源なるお方〉

日用の糧とは、私たちの日ごとの生活に必要なすべてです。宗教改革者ルターの小教理問答には、日用の糧の具体例として、食物、飲み物、着物はもちろん、家、田畑、家畜、財産、信仰のある子ども、よい政府、よい気候、平和、健康、教育、名誉、親友、真実な隣人などが挙げられています。これはルターの時代から見たものですが、信仰生活が守られ、支えられるための一切の必要が祈り求められていたことが分かります。

このようなすべてが、神からの賜物として与えられます。主なる神こそが、ただお一人、すべてのよきものの源泉であられることを確信して、神に依り頼みます。私たちの生活は、決して私たちの力によって成り立っているではありません。私たちは、私たちの生活も、人生も、もし主なる神の祝福がないならば、一切が無になってしまうということをわきまなければなりません。私たちは、額に汗して労働し、労苦して糧を得なければなりません、しかし、それとても与えてくださるのは主なる神です。

そうであるならば、主なる神に感謝し、神をほめたたえて生きて参りましょう。与えられたものを無駄にはなりません。神にささげて分かち合い、まわりの人々と手を取り合って生きていきましょう。与えられたものを喜び、楽しみ、豊かに生かして用いて参りましょう。

テキスト マタイによる福音書6章9節～13節
カテキズム 子どもカテキズム 問82

「日用の糧を求める祈り」

〔単元のねらい〕

第四祈願に入る。ここで、一気に主の祈りが身近に感じられる。ここで主イエスは、パンを求める祈り、主食を求める祈りを求められる。現代の子どもたち（我々も含め）は、三度三度の食事がとれることを当然視している。飢えに苦しむ経験をする者は、皆無とってよいであろう。また、食べる事が生き物の命を犠牲にして成り立っているという事実を覚えている者も、ほとんどいないのではないか。つまり、生きること（生存）そのものを宗教的次元においてとらえる感覚はいちじるしく失われている。そのような子らに、生きることそのものが、神に支えられてのみ可能であることを悟らせるのは、容易ではないが、この単元で取り扱うことができよう。しかし、何よりも、ここで子らに改革神学の「食べるにも飲むにも神の栄光をあらわす」こと、生活の全領域で主の恵みの支配を認める信仰理解、生きる営みのすべてを神の栄光をあらわす生活へと育てたい。また、信仰が観念的になるのではなく、神の愛が、一切れのパンにも明らかにされていることと、それを感知する信仰の豊かな感性をも磨きたい。あわせて問85にあるように、どんな小さなことでも、身近なことでも素直に神に祈り求めてよいし、求めべきことを伝えたい。

「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」という祈りの言葉の「日用」って何でしょうか。日曜日のことではありません。「毎日の・日ごとの」という意味です。「糧」というのは、食べるものということです。ごはんのことです。もともとのイエスさまの言葉は、「今日必要なパンを今日与えてください」という意味です。皆との約束は、お食事するときには必ずお祈りして食べるということです。「天のお父さま、お食事を感謝していただきます。イエスさまによって、アーメン」。こうお祈りするのに、早い人で5秒！ 遅い人でも10秒です。だから、必ずお祈りしてください。学校で一人でお祈りする時には、心の中で5秒のお祈りだったらできるはずですよ。ぜひ、お祈りしよう。

それなら、何故、ごはんを食べるとき、お祈りしなければならないのでしょうか。それは、僕たち私たちが、「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」とお祈りしているからです。「天のお父さまに食べるものをください」とお祈りしている僕たち私たちは、ごはんを食べる前に、テーブルに置かれている食べ物を見ます。よく見ます。する

と、ごはんが語ってくれるかもしれませんが。こんなふうなんです。「あなたのお祈りが神さまに聴かれて、ボクは、あなたの目の前にあるんだよ」。もちろん、ごはんはしゃべりません。でも、お祈りしている人なら、気づけるようになると思います。「神さまは、お祈りに答えて、わたしに必要な食べ物ときちんとしてくださっているのだ」。「感謝します」。こう思えてくるはずですよ。

イエスさまとお弟子さんたちは、ふつうのお仕事はしていませんでした。旅をしながら、神さまの国を宜べ伝えていたのです。だから、お金がたくさんあるわけでもないのです。むしろ貧しかったに違いありません。2000年前の昔は、コンビニも冷蔵庫もありませんから、いつも伝道旅行をしていたお弟子さんたちは、もしかするとハラハラドキドキしていたのかもしれませんが。「今日の私たち皆のごはんは、そろりかな。お腹いっぱい食べる食事は、準備できるかな」。そのために、もしかするとお弟子さんたちの中には、お金の心配ばかりしていた人もいたのかもしれませんが。けれども、イエスさまは、こうお祈りしておられました。「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」。我ら

というのは、私たちのことです。私たちというのは、イエスさまとお弟子さんたちのことです。イエスさま御自身が、お弟子さんのために、お金や誰かに頼るのではなくて、神さまに頼ったのです。天のお父さまは、私たちに必要なものをすべてご存知です。求めない先から、天のお父さまは僕たち私たちが欲しいもの、なくては困るものを知ってくださいます。「それなら、お祈りする必要なんかないのではないか」。そう考えるお友だちもいるかもしれません。でも、ご存知だからこそ、素直に天のお父さまにお祈りできるのです。そして、そうお祈りしている人は、いっぱいいっぱい感謝できる人になります。ああ、これも、あれも、神さまが与えてくださったのだと気がつく事ができるからです。

それなら、僕たち私たちは、食べ物だけではなくて、着るものについても、住む場所についても、学校のことについても、勉強についても、遊びについても、友だちについても、クラブのことで、何でもかんでも、天のお父さまに素直に「ああしてください、こうしてください」とお祈りしてよいはず。先生は、ずっと昔、まだイエスさまを信じただけの頃の事です。駅のトイレでティッシュペーパーを買おうと思って自動販売機にお金を入れました。ところが出てこなかったのです。「わあ、どうしよう」。その時、教会で教えてもらったことを思い出しました。「どんなことでも、お祈りしたらよいのです」。そして、「天のお父さま、助けてください」。お祈りした後も

う一度、ガチャガチャやったら、なんと紙が出てきたのです。先生は今は、あまりそのようなお祈りをしなくなったと、反省しています。でも、皆はどんな時でも、お祈りしてください。先生も今日から皆に負けなようにお祈りしたいと思えます。そして、神さまが本当に一緒にいてくださることに気がつける心をもっともっと神さまにつくっていただきたいと思えます。「神さまありがとうございます」と感謝できる僕たち私たちにしていただきましょう。「僕が自分でがんばってやったんだぞ」なんて言うのは、かっこ悪いですね。だって、本当は、神さまによって、与えられた恵み、賜物なのですから。「これはね、お祈りが聴かれたんだよ」。そんな風に言えるのは、とても素敵なことです。

最後に、僕たち私たちは、毎日、食べ物が与えられています。でも、世界には食べられなくて死んでいく子どもたちも少なくありません。そのような子どもたちのことを忘れて、食べることはできません。「我らの」中には、そんな国の子どもたちも入っているからです。皆で、お祈りしましょう。そんな人たちのためにも「御国が来ますように、御心がなりますように」とお祈りしないではられません。イエスさまは今天において、僕たち私たちのために、食べれない人たちのためにもお祈りしていただくことを信じて、イエスさまと一緒に、このお祈りを祈っていきましょう。

暗唱聖句

我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

「主の祈り」より

〈ねらい〉

神様は、私たちに必要な糧を与えてくださることを感謝し喜び、小さなことでも折り求めることができることを学ぶ。

おられます。「これは食べない」「これは嫌い」といって食べ物を残したりしていませんか？「何でも美味しく食べられますように」と毎日お祈りしてみましょう。一生懸命お祈りすると、神様は嫌いなものでもおいしく食べられるようにしてくださいます。

〈展開例〉

みんなは、今日の朝ごはんを食べましたか？それは誰がくださったのでしょうか。お父さんかな？お母さんかな？じつは神様が与えてくださるのです。私たちがお祈りの中で、「今日食べるものを与えてください」と祈っているからです。神様はみんなの体に必要なものをよく知って

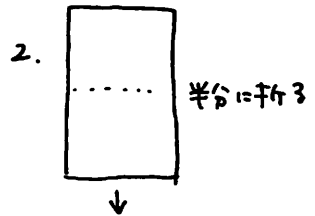
〈いのり〉

天のお父様、私たちの小さなお祈りも聞いてくださることを感謝します。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

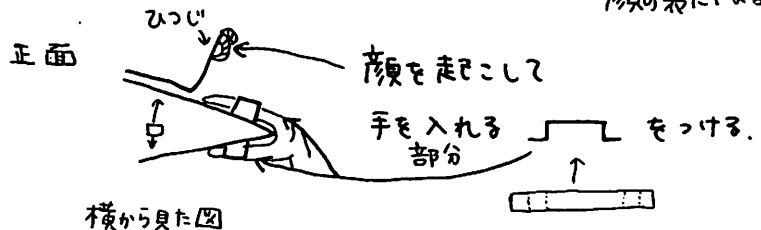
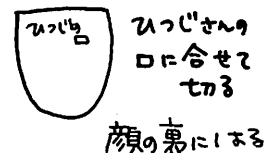
〈工作〉



1. ひっじさんの 顔をつくる



3. □の部分 を 顔に 合わせて
折り、テープで 固定。



〈目標〉

すべてのものを神さまが与えてくださっていることを覚え、自らの周りにある身近な小さなことにも神さまに感謝をささげることができるように導く。

りです。そして、同時に身の回りの必要な物を全て備えてくださってありがとうございますという感謝の祈りなのです。自分の周りのどんなに小さなことでも、全てを与えてくださる神さまに感謝していきましょう。

〈礼拝説教を振り返る〉

日用の糧とはいったい何だったでしょう？

日用というのは毎日のという意味でした。そして、糧というのはお食事のことです。お食事をすることは人間が生きるのに必要なことです。このお食事はだれが用意してくれるのでしょうか。みんなのお母さんが用意してくれます。でも、本当はこの食べ物を用意してくださるのは、お母さんではなくて神さまです。神さまがみんなのご飯や、着る物、そのほかみんなの周りにあるすべてのものを神さまが用意してくださっているのです。

「日用の糧を今日も与えたまえ」とのお祈りは、全て必要な物を備えてくださいというお願いの祈

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま

いつも、私たちが生活するのに必要なものを与えてくださってありがとうございます。

私たちは神さまからたくさんのものをいただいているのに、神さまにありがとうございますことを忘れてしまつてごめんなさい。どうか、どんなことにも神さまに感謝できる子どもにしてください。

今日も私たちが生活するために必要な物を与えてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。

アーメン。

〈やってみよう〉

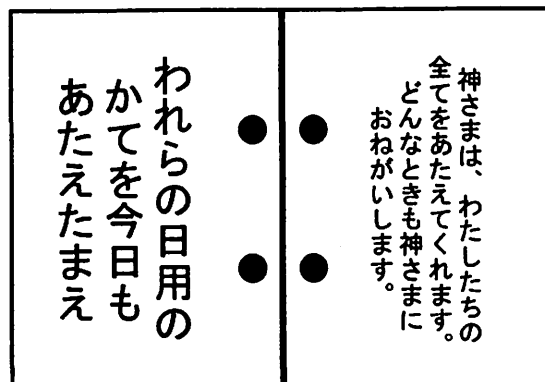
2月23日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。

表

裏



今日はここでおしまい。
じゃあまた来週ね！

〈暗唱聖句〉 主の祈り

〈学びのポイント〉

- (1) 「食べること」の大切さ
- (2) 食べることを通しても、神の栄光をあらわす
- (3) 身近なことを祈るように教えられている

〈説教のおさらい〉

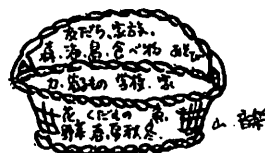
私たちは毎日食事をします。でもどこから食べ物や着る物が与えられるのでしょうか？ スーパーや、コンビニにたくさん並んでいる食べ物はどこからやってくるのでしょうか？

農家のお百姓さんが一生懸命お米や、野菜、果物を作っています。でも、このお米や、野菜も神さまが水や空気、太陽の光をととのえてくださらなければ何も育ちません。「すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう」という神さまの言葉がなければ何も与えられません。

この神さまを信頼して、食べ物だけでなく生活に必要な物すべてを祈り願います。

〈やってみよう〉

・神さまはわたしたちに毎日必要なものを与えてくださいます。かごの中の22のめぐみをマスの中から見つけてください。上下、左右、ななめのどちらからでも読めます。



よ	い	え	ひ	よ	な	よ	ん	な
え	ん	ど	う	こ	つ	か	か	よ
ひ	ふ	よ	み	ず	ん	さ	ん	ひ
ん	え	ゆ	い	た	べ	も	の	の
ら	か	ち	さ	ま	う	だ	も	と
え	そ	よ	や	も	ん	る	は	り
ひ	く	だ	も	の	き	な	ひ	え
そ	よ	ん	ひ	ん	あ	ひ	ん	よ
あ	ひ	と	ん	し	く	が	ん	お

〈目標〉 日ごとに必要な、よきものを願う

〈展開例〉

【メッセージ】 「日用の糧」とはなんでしょう。「糧」とは食べ物のことですが、「糧」とはまず「神様の言葉」を意味します。私たちは神様の言葉なしには、正しい道を、安らぎと喜びをもって生きることができないのです。神様の言葉は私たちの魂の食べ物なのです。だから毎日神様の言葉を、心から求めます。次に「糧」とは私たちの体に必要な食べ物のことをいいます。みなさんはお菓子が大好きだと思います。でもお菓子ばかり食べていると虫歯になったり、骨が弱くなったり、エネルギーが足りなくなったりします。私たちの体にはお肉や野菜やお魚などが必要なのです。それらの私たちに必要なすべての食べ物が与えられるよう祈るのです。これらの祈りをなぜ神様に祈

るのでしょう。その理由は、神様こそがすべての良き物を造るお方であるからです。神様がすべての良き物を造って、私たちにくださっているのです。【すすめ方】 山奥で修行をしているお坊さんを想像しましょう。彼は世を嫌い、ひたすら山を歩き、時には滝に打たれ、時には寺でひたすらお経を唱えます。食べ物はほとんどとらず、ほとんど眠らず、ひたすら自分の体をいじめています。彼にとって肉体などどうでもいいのです。苦しい修行をとおしてあらゆる欲望や罪の思いから自由になりたいと思っているのです。しかし神様は言われます。肉体も大事にしなさいと。なぜなら肉体も神様が創っていただいたもので本来良いものなのです。罪によって汚れている肉体も、神様の力によって新しく変えられるのです。だから私たちは心も体も大事にし、それらを養う日ごとの御言葉と食物をいつも願い続けるのです。



第四の願い

「第四の願いは何?」「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」「じゃ、質問出して、いくつ出るかなぁ」と、ここまではパターンになっただろうか。「日用の」「糧」「与えたまえ」はすぐ出てほしい。「我ら」「今日も」にも着目できるといい。

出た質問をみんなで考えてみよう。



聖書の読み取り

マタイ6:25~34。

願う前からわたしたちに必要なものをご存じな神さま(32、8節)に絶大な信頼をおくこと。



生きるために必要なもの全て

「日用の糧」は食べ物だけでなく毎日の生活に必要なもの全て。どんなものがあつたらあつたら、それをどのように手に入れているか話し合おう。

これらを与えてくださるのは神様だと本当に信頼しているか? お金や人との付き合いや自分の努力が、生きるために必要なものを得る手段だと思っていないか? 親の収入や将来の自分の収入、学歴、進路、学校の成績、友人との親和性などを、神様よりも、あるいは神様とは別に、「毎日の生活に必要なものを与えてくれるもの」として信頼していないか?

月 日「主の祈り 第四の願い」中学科

名前

聖書:

問

讃美:

☆「日用の糧」を思いつく限り挙げよう

日	聖書箇所	祈りの課題
2日	ルカ16:19~31	
3月	ルカ17:1~10	
4火	ルカ17:11~19	
5水	ルカ17:20~37	
6木	ルカ18:1~8	
7金	ルカ18:9~17	
8土	ルカ18:18~34	

☆どんなふうにご与えてくださるの?

カテキズム 子どもカテキズム 問83
 ウェストミンスター小教理問答 問105
 ハイデルベルク信仰問答 問126

子どもカテキズム

問83 「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 イエスさまの恵みによって罪赦されていることを繰り返し思い起こし、自分たちも隣人を赦すことができるようにされていることを心に刻みつけてください、ということです。

〈自らの罪と弱さを知り、赦しを祈る〉

キリスト教信仰の中心とも言うべき、罪の赦しを祈り求める祈りです。

主イエス・キリストは、その生涯を通して罪を犯されませんでした。しかし、この祈りを祈ってくださいました。それは、私たちに代わって祈り、私たちを執り成して祈ってくださったのです。すなわち、私たちは罪人であり、主なる神に対して負い目をもっています。神によって造られ、生かされているにもかかわらず、神と敵対し、神から離れているという負い目、罪です。キリストは、私たちのこの罪を御自分のものとされ、罪の赦しを求める祈りを祈られ、この祈りの実現のために十字架につけられてくださいました。罪の赦しを求める祈り、これは、キリストの贖いによって実現している祈り、すでにならなっている祈りです。私たちの負い目をキリストが代わって担ってください、キリストのこの恵みによって、私たちの罪が赦されました。キリストによって罪赦されて、私たちは神の子どもとされています。

しかし、私たちは、地上にあってなお罪を犯す罪人です。神の子どもとされて、しかしなお神を裏切り、真実に生きることでできない弱い存在です。この罪と弱さを知るのです。自らの無力を知るのです。そうであれば、私たちは、罪赦されてなお罪の赦しを求めて、主なる神に祈る者とされるのです。心をこめて罪の赦しを祈り願います。

〈共同体をつくる祈り〉

この祈りは、第五の祈りとして、主の祈りの後半に位置づけられています。それは、この祈りがただ神との関係についての祈りというだけではな

く、共同体をつくる祈り、私たちをこの地上にあって生き生きと生かす祈りだからです。すなわち、私たちの地上の歩みには、現実の問題として罪の赦しが必要です。罪の赦しがないならば、私たちは共同体をつくることができません。

私たちは、さまざまな失敗と過ち、欠けによって、日ごとに人を傷つけ、人間関係を歪めています。それらはただ人を傷つけるというだけではなく、自分をも裏切り傷つけることなのです。私たちは、日ごとに傷を負い、病を得ています。この傷がいやされ、病から快復されることが必要です。ですから、主なる神からの赦しが必要であり、隣人からの赦しも必要です。神から赦されるとは、隣人からも赦されるという現実をとまいません。

そうであるならば、私たちは、人の罪を赦し、人に新たに生きるようながし、励まされなければなりません。また、罪を犯したときには、相手に謝り、赦しを請わなければなりません。「罪を赦したまえ」と祈る者は、キリストのゆえに率直に誤り、赦しを求め、またキリストのゆえに寛容に赦し、励ます者とされます。罪の赦しを求める祈りは、この現実を生み出すのです。

罪の赦しの祈りに生きる者は、怒りや恨みから解き放たれます。そのような無駄なことにエネルギーを費やしません。怒りや恨みは罪に捕らえられた姿なのです。私たちは、罪から解き放たれ、怒りや恨みからも解き放たれて、互いの罪を赦し、新たな人間関係を築く者とされます。前向きに、積極的に、人間関係に希望をもって生きる者とされるのです。

テキスト マタイによる福音書6章9節～13節
カテキズム 子どもカテキズム 問83

「罪の赦しを求める祈り」

〔単元のねらい〕

第五祈願、ここでは、罪の赦しを祈り求める祈り、つまり神と我々の関係において根本的に重要で、必要不可欠な祈りをささげられることが命じられる。これは我々にとって、心の底から求める願いであることには異論がなく、つまずきもないであろう。しかし、「我々が赦すごとく」という言葉には、つまずきを感じるキリスト者もおられるのではないだろうか。何故なら、もっとも大切で必要な我々の罪の赦しの「恵み」が、我々が誰かを罪を犯す者を赦すことを「条件」にして与えられるかのように、解釈される可能性があるからである。カテキズムは、この祈りによって、自分自身が主イエスの贖罪の御業によって罪赦されている事実を絶えず呼び覚まされるということ、それだけに神の子、新しく創造された人間として、罪を赦すことができる者とされているということを明瞭に語っている。この説教においても、大切な主題は、この祈りが主イエス・キリストの祈りであるという真理を伝え、明瞭にすることである。御子が人間となって、十字架につけられることこそ、主イエスに罪を犯す者を主イエスが赦された行為にほかならない。実に主イエスは、十字架においてこの祈りを我々に代わって祈ってくださったのである。この御業によって、現実には人を教えずに破れ果てて苦しんでいる姿のままに、しかしだからこそこのように祈る事を許され、命じられるのである。この祈りを真実に完全にささげることができるのは、主イエス一人である。ここでこそ決定的に、主の祈りを祈っているときは、主イエス・キリストと共に祈っていることを悟ることができる。主の祈りが、主イエスをなぞる祈り、主イエス・キリストと結合させられる祈りであることをあざやかに悟られる。子どもたちにも、この恵みの真理としての祈りを祈らせ、主イエスとの交わりを深めさせたい。また、その恵みに支えられて、自分の罪、なかでも人を教せない罪と闘うことへと導き、励ましたい。

先週一週間、毎日お祈りできましたか。お食事のたびに、ごはんをおかずを見て、「わぁーおいしそう」と嬉しくなるだけではなく、お料理と一緒に神さまの愛も見て、「神さま感謝します」ってお祈りできましたか。お祈りを忘れてしまった人は、お食事を食べ忘れたことがありますか。ないでしょう。もしも僕たち私たちが、「今日は食べたくないからいらない」って言ったら、お母さんもお父さんも、「ダメ、少しでも食べなさい」って叱ってくれるでしょう。でも、お祈りしないからって言っても叱ってくれるお母さん、お父さんのいないお友たちもたくさんいますね。でも、お祈りをしてごはんを食べる事は、僕たち私たちの心の健康、信仰のためにとっても大切なことです。

さて、お祈りすることができるのは、どんな人

ですか。お祈りの最初の神様への呼びかけは、「天のお父さま」ですね。「天にまします我らの父よ」です。つまり、神さまの子どもにさせていただいた人だけが、お祈りすることができるのです。それなら、神さまの子としていただくために、どうすれば良いのでしょうか。カテキズム問2にあるように、主イエス・キリストを信じて救われることです。神さまの独り子のイエスさまを信じて、お祈りができるのです。それなら、イエスさまを信じるって、どんなことなのでしょう。神さまの前に自分を罪人として認めて、悔い改めて、僕たち私たちの身代わりとして十字架に死んでくださったイエスさまを信じることです。

今日のお祈りの言葉は、神様、「私たちの罪を赦してください」というお祈りです。これは、僕たち私たちが、イエスさまによって罪を赦された

ことをいつも忘れないために、こうお祈りしなさいと命じてくださったお祈りです。でも、皆のなかで、こういう風を考えるお友だちがいるかもしれません。「主の祈りは毎日お祈りするお祈りだけれど、毎日、私たちの罪を赦してください、ってお祈りしていないと神さまの子ではなくなってしまうのかなあ」。そうではありません。一度、イエスさまを信じて救われている僕たち私たちは、いつまでも神さまの子です。けれども、神さまの子の僕たち私たちは、神さまの子となった瞬間から、心の中にまったく罪や汚れを持たなくなったり、罪を犯さなくなるわけではありません。むしろイエスさまを信じているから、自分のことを「ああ、心が汚いな。罪の力に負けて、悪い心、意地悪な心、悪い行い、意地悪な行いをしてしまうな」とがっかりすることがあるはずですよ。それは、心が汚くなったものではありません。反対です。イエスさまが心に住んでくださるので、心が汚れていること、自分が罪人であることがますます分かってくるのです。でも、そんな時、「ああ、やっぱり自分は、日曜学校に通っている子どもとして、ダメだな、神さまはやっぱり、こんな僕じゃ、愛してくださらないな。神さまを礼拝するのはやめちゃおう」なんて思っただけは絶対いけません。それは、悪魔の誘惑です。赦されているから、悩むのです。

イエスさまは、このお祈りを祈らせることによって、おっしゃいます。「大丈夫、あなたの罪

は、わたしの十字架で完全に赦されています。あなたは、神さまの子です」。そして、さらにおっしゃいます。「罪を赦されたあなたは、同じように、あなたに罪を犯す人も赦せるはずでしょう。赦しなさい」。さあ、そうなるともまた困ってしまう。「そうイエスさまに言われても、学校の友だちの中には、嫌いで頭にくる友だち、赦せない友だちがいるんだもん」って思ってしまう、友だちもいるでしょう。でも、そのときこそ思い出してください。このお祈りは、イエスさまのお祈りなのです。イエスさまは、ご自分を十字架につけた人、ユダヤ人、ローマの兵隊達を十字架の上からご覧になって、こうお祈りされました。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのかわからないのです」。

イエスさまは、僕たち私たちが友と呼んでくださいます。イエスさまには罪がないのに、「私たちの罪を赦してください」と僕たち私たちが一緒にお願いして下さっているのです。正直に言うと、先生も含めて僕たち私たちが、まだ十分にお友だちの罪を赦してあげられていないのです。けれども、イエスさまが完全に赦しておられるので、この主の祈りをイエスさまと一緒に祈りすることはできるのです。僕たち私たちこそ、このように、毎日、お祈りしなければなりません。こうして、僕たち私たちが、毎日神さまの子とされていることを喜んで生きるのです。神さまに喜ばれるように生きるのです。

今週の暗唱聖句

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。

「主の祈り」より

〈ねらい〉

私たちの罪は、イエス様が十字架にかかってくださったことによって完全に赦されたことを学ぶ。

〈展開例〉

罪ってなんだか知っていますか？ 悪いことを考えたりしたりすることです。

イエス様が十字架につけられたことはみんな知ってるよね。十字架は悪いことをした人がつけられる罰なのに、何も悪いことをしていないイエス様も十字架につけられました。イエス様は、「みんなの罪を赦してください」と神様にお祈りしました。


みんなも、お友だちやお家の人に悪いことや意

地悪をしたり、言ったりしてしまうことがあるかもしれません。そのみんなの罪は、イエスさまの十字架によってすべて赦されているのです。なんと素晴らしいことでしょうか。感謝の気持ちでいっぱいになりますね。そして、神様がみんなの罪を赦してくださったように、もしお友だちがみんなに悪いことをしたり言ったりしたときも、赦してあげられるようにお祈りしましょう。

〈いのり〉

天のお父様、私たちの罪を赦してくださいありがとうございます。私たちも、意地悪をしたお友だちを赦すやさしい心でいられますように。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈ゲーム〉

文字さがし 

あ～ん ^{から} のひらがなをラ・タムに並べて

書いておく。その中から

(あ) (い) (の) (り) をさがして遊ぶほう。

〈目標〉

イエス様によって罪を赦された事実を覚え、罪を犯してしまう私たちの罪をイエス様にあつて赦してくださいと祈ることへと導く。

〈礼拝説教を振り返る〉

自分に意地悪する人のことを、好きですか？
嫌いですか？ 悪いことをする人を赦せますか？
自分に意地悪する人のことはたぶん嫌いだよね。
神さまは神さまに悪いことをした人を嫌われましたか？ 神さまは神さまに悪いことをした人を嫌うことなく、かえって、その罪を赦すためにイエス様を送ってくださって、イエス様を信じる人の罪を赦してくださいました。そうして、罪を赦していただいたのは、ここにいる一人一人です。みんなはイエス様に罪を赦された一人なのです。
私たちはお友だちのした悪いことを赦せないことが多いです。そんなときにも、イエス様が私た

ちと一緒に「私たちの罪を赦してください」とお祈りしてくださっているのです。お友だちのした悪いことを、なかなか赦せない私たちだけ、イエス様がみんなのその罪を赦してくださいます。私たちは、このようにして、神さまの子とされているのです。

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま
私たちは人の罪をなかなか赦すことができません。このような罪深い私たちの罪を赦してくださいありがとうございます。
どうか、罪を犯す私たちの罪を、これからもイエス様によって赦してください。そして、人の罪も赦すことができるようにしてください。
イエス様のお名前によってお祈りします。
アーメン。

〈やってみよう〉

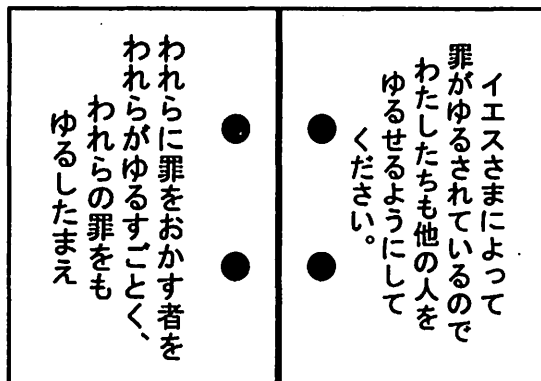
3月2日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。

表

裏



今日はここでおしまい。
じゃあまた来週ね(˘_˘)

〈暗唱聖句〉 主の祈り

〈学びのポイント〉

- (1) すでに一切の罪がゆるされていること
- (2) イエス様はわたしたちに先立ってこの祈りをささげてくださった
- (3) イエス様とともに祈るよろこび

〈説教のおさらい〉

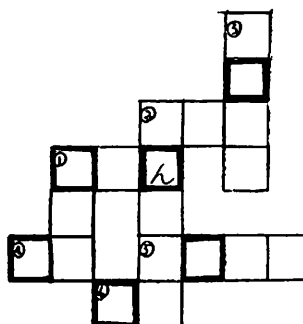
私たちはイエス様を信じ、従うようになっても罪をおかします。生きている間ずっとおかし続けます。自分自身に罪がありながら、他人の罪を赦してくださいとお祈りするのはすこしおかしいかもしれませんが、これこそイエス様が共にいてくださることを思いおこす祈りです。

十字架の上でイエス様は「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と祈られました。イエス様だから祈れるお祈りです。このイエス様が「こう祈りなさい」と教えてくださったのが主の祈りです。

イエス様が私たちと一緒にいてくださいますから、この願いを祈ることができます。

〈やってみよう〉

・パズルをしましょう。太いわくのことがばをつなげましょう。



タテ

- ① わねをたたく動物
- ② からくて赤いもの
- ③ かさをさす日

ヨコ

- ① 日本人が一番よく食べるもの
- ② みそ汁によく入れるもの
- ③ 食べ物をのせるもの
- ④ 動物の王様
- ⑤ あるのにないくだものは？

〈目標〉 罪の赦しを確信し、罪の赦しに生きる

〈展開例〉

【メッセージ】 ① 私たちがなぜ神様にお祈りできるかという、イエスさまの十字架によって罪が赦されて、正しい人間とみなされているからです。だからといって私たちはどんな悪いことをしてもいいのかというそうではありません。「どうせ赦してくれるのだから悪いことをどんどんやっちゃおう」という人は、実は赦されていないのです。神様に赦された人はもう罪を犯したくないと思うはずですが、でも私たちは罪を犯してしまう。そのたびに、私たちは神様に「どうか赦してください」とあやまります。② 赦された人は人を赦すことができます。神様の赦しは人を赦す心となって現われます。あなたが誰かを赦せたとしたら、それは自分が赦されていることのアかしです。この第五の祈りは、神に罪赦された者として、人の

罪を赦す決意を神様に現わしつつ、私たちの現実の一つ一つの罪の赦しを求めていく祈りなのです。

【すすめ方】 主イエスは山上の説教において、兄弟に腹を立ててはならないことを教えられた（マタイ5：21～）。「馬鹿と言ったら自分が馬鹿なのだ」と言われたことはないだろうか。それは「馬鹿」という汚い言葉を言わないよう子どもをしつけるため、誰かが考えた言葉かもしれないが、主イエスは「兄弟に『ばか』と言う者は最高法院に引き渡される」と教えられた。最高法院は当時の最高裁判所のことであるが、神の法廷を暗示している。兄弟に馬鹿という者は、神の法廷でさばかれ永遠の地獄の牢屋に引き渡される。なぜなら馬鹿と言うことによって、その相手との関係を自ら断ち切っているからである。それは「互いに愛し合いなさい」という御心に真っ向から背く行為である。赦し（仲直り）の大切さを、主の教えを通して伝えたい。



第5の願い

「第5の願いは何?」「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく我らの罪をも赦し給え」「じゃ、質問出して、いくつ出るかなあ。今日はたくさん出そうだね」。

「我らに罪を犯す者」って誰? 「我らが赦すごとく」ってどういう意味? 「赦したように赦してください」ってこと? 「赦さないと赦してもらえないの?」(ありがちな誤解)などの質問が出るよ。

出た質問をみんなで考えてみよう。



聖書の読み取り

マタイ 18:21~35。

「赦さないと赦してもらえない」(ありがちな誤解)を強化しそうな譬え話。「赦されているのだから、赦すことができる」「赦すことができる自分が、赦されていることの証」であ

ることを伝えたい。



赦すこと・赦されること

この祈りは「赦してください」という祈りであることに着目させる。どうしても「赦すことができますように」という話になってしまい勝ちだが、そういう祈りではない。

「われらの罪」とは具体的に何か? 「赦す」とは具体的にどういうことか? 原罪と現実の犯罪の両方について、罪のとがからも罰からも免除して下さっていることを共に感謝する。罪の赦しの確信が与えられることにより、平和と喜びに満たされることを共に喜ぼう。

わたしたちが聖なる神様の助けによって他人の罪を赦すことができるとき、この確信は益々深くなる。

月 日「主の祈り 第五の願い」中学科

名前

聖書:

問

☆我らの罪

讃美:

☆赦すことができたとき

日	聖書箇所	祈りの課題
9日	ルカ18:34~43	
10月	ルカ19:1~10	
11火	ルカ19:11~27	
12水	ルカ19:28~44	
13木	ルカ19:45~20:8	
14金	ルカ20:9~19	
15土	ルカ20:20~26	

カテキズム	子どもカテキズム 問84
	ウェストミンスター小教理問答 問106
	ハイデルベルク信仰問答 問127

子どもカテキズム

問84 「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 罪深い私たちは、神さまの憐れみがなければ、一瞬でも神さまの子どもとしての祝福に生きることはできませんし、またサタンも攻撃してくるので、罪の誘惑から守ってください、罪との戦いに勝てるようにしてください、ということです。

〈神のみもとにとどまることを求める祈り〉

「ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう。命のある限り、主の家に宿り、主を仰ぎ望んで喜びを得、その宮で朝を迎えることを」(詩編27:4)。この詩編の祈りと、第六の祈願は響きあっています。「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」。この祈りは、主なる神の恵みのもとにとどまることを願う祈り、神のみもとに堅く立つことを求める祈りです。神の恵みのもとにとどまるために、主なる神の助けを祈り求めます。私たちは、神の助けがないならば、神のもとにとどまることのできない存在なのです。

〈弱さを知る者の祈り〉

私たちは、自らの弱さを知る者、自らの罪と無力を知る者とされています。私たちには、罪を赦されてなお、からみつような古い自我や罪の残滓があります。私たちには、自己中心な心、自己保全を求める思い、名誉を欲する心があります。金銭を求めたり、快楽を求める欲望もあります。心新たにされてなお、私たちは、これらの古い心に苦しめられます。この古い心に対して、私たちは弱いのです。この古い心が勢いを盛り返して、その誘惑に屈する危険もあるのです。その弱さを私たちは、はっきりと知らなければなりません。

この弱さを知るならば、私たちは、「試みにあわせないでください」、「悪から救い出してください」と祈らないではおれません。この祈りは、自らの小ささを知る者の祈りです。私たちは、決して自分の力に依り頼むのではなく、主なる神に依り頼みます。主なる神こそ我が助けです。

〈神と共に戦い、成長させられる〉

この地上の歩みにおいて、私たちは、さまざまな出来事に出会います。だれ一人として、平穩無事な人生などというものはないでしょう。その歩みの中で、私たちは、さまざまな出来事に出会います。その出来事を通して、私たちは試みられます。主なる神は、その試みを通して、私たちを救いへと導き、また信仰の確信を深めるために用いられます。私たちの古い心は、またサタンは、その試みを通して私たちを悪へと誘惑しようとしています。人生のさまざまな出来事は、そのようにして、一方では悪への誘惑ともなり、もう一方では神の御業ともなります。

ですから、そのところにおいて、神に助けを求めて、神に働いていただかなければなりません。もちろん、主なる神は、私たちの祈りにかかわらず、私たちを守り導き、働いてくださっています。しかし、そのところで私たちが神に助けを求めて祈るならば、私たちも神と共に戦う者とされるのです。試みと戦い、悪と戦い、そうして、試みも信仰の訓練として用いられるのです。神の民としての鍛錬を受け、成長させられます。試みは益とされるのです。

私たちの戦いは信仰の戦いであり、ですから、武器も信仰の武器です。すなわち、御言葉と礼典と祈りです。御言葉を心に刻み、ロザさみ、また共同体の交わりに支えられて、守られます。共に戦う仲間と励まし合い、とがめ合い、また慰め合います。それらを、主への祈りをもって遂行します。「主よ、憐れみたまえ」と祈ることによって、私たちの地上の歩みが守られ、神の恵みのもとに堅く立ち続ける者とされるのです。

テキスト マタイによる福音書6章9節～13節
 カテキズム 子どもカテキズム 問84

「誘惑に打ち勝つ祈り」

[単元のねらい]

古来、キリストの教会は、主日礼拝式で、主の祈りを唱えることを欠かしたことはない。いわば教会は主の祈りと共に地上を旅して来たと言っても良い。説教と聖餐そして主の祈りは、それほど礼拝式において、欠くべからざる要素なのである。しかも、主の祈りは、あるゆる集会で、また個人的にも祈り続けられてきた。主の祈り自らがつくった教会の伝統の重みを、小さな子らにも口移しに唱えさせたい。

さて、この最後の祈願も、地上で誰よりも真剣かつ真実に祈られたのは、人となられた御子イエス・キリストであられた（ヘブライ人への手紙5章7節）。それは、神の栄光を求めて生きる時、誰でもこの祈りを祈らずにおれないからである。人なるイエスさまの激しい戦いは我々の想像を絶するほどのものである。世とサタンは我々を誘惑し、信仰の破船へと執拗に攻撃し続ける。それをご存知の主であられるゆえに、先回りをするようにこの祈りを与えてくださった。いわばキリスト者は、この祈りによって勝利者イエス・キリストへと逃げ込ませていただく。そしてまさにその故に、我々を勝利者とし、そこから信仰の闘いへと派遣する力を与える祈りでもある。すべての子どもの現実、とりわけ中高生の契約の子、信仰告白者の罪との戦いは、どれほど激しいものであろうか。良心が研ぎ澄まされている青少年期を信仰によって生きる固有の難しさに、教師は寄り添いたい。説教において、真の慰め、福音を語らねば子どもたちは倒れてしまう。

イエスさまが地上で、伝道を開始しようとなさったとき、最初に体験なさったことは何だったか知っていますか。悪魔の誘惑を受けられたのでした。どうして、悪魔はイエスさまを攻撃したのでしょうか。その理由の一つは、イエスさまが、天のお父さまの御名をあがめることだけを求め、御国を完成するために働かれ、御心を完全に実現することを求めておられるからです。それなら、イエスさまは、サタンに負けてしまわれたでしょうか。いいえ違います。完全に勝利されました。イエスさまは一回も罪を犯したことがありません。心の中に、神様への疑い、つぶやきの思い、人を憎む思いを持ったことがまったくありません。

皆の中でこんなふうを考えるお友だちもいるかもしれません。「それはそうだよ。だって、イエスさまは神さまなんだから」。でも、考えてください。イエスさまは僕たち私たちと全く同じ人間となってくださったのです。だから、お腹もすくし、疲れます。そんな時、僕たち私たちだったらどうなりますか。いらいらしませんか。文句を

言ったり、怒ったり、わがままを言ったりしませんか。でも、イエスさまは、お腹がすいて、お疲れになって、お弟子さんたちにつらくあたったことなど一度もありません。どうして、イエスさまはそんな風にできたのでしょうか。その秘密はお祈りです。イエスさまは、いつもお祈りしておられました。どんなお祈りだったのでしょうか。きっと、先生と似ていたと思います。普通の声で、お祈りしておられたと思います。

でも、先生は、そんなお祈りばかりではなかったことも知っています。皆も、ゲツセマネのお祈りのイエスさまのことを聴いたはずです。汗が血の滴りのように流れ落ちるように、熱心に、お祈りに打ち込まれたのです。ヘブライ人への手紙5章7節に、もしかするとイエスさまのお祈りを目撃していた人なのかもしれませんが、こう書かれています。「キリストは、肉において生きておられた時、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、ご自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れら

れました」。イエスさまは涙を流して、激しく叫んで、天のお父さまにお祈りされたのです。

それは、どんなお祈りでしょう。僕たち私たちがお祈りしている主の祈りです。ちっちゃな声で唱える僕たち私たちですけれど、イエスさまは、このお祈りを涙を流して祈られたのです。特に、今日の第6番目の最後のお祈り、「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」は、イエスさまが涙を流してお祈りされたお祈りだったと思います。

何故、それほど苦しいお祈りをなされたのでしょうか。それは、僕たち私たちのためです。イエスさまが、もしも、罪に負けてしまわれたら、僕たち私たちは、十字架を信じても救われません。イエスさまが罪人になってしまったら、僕たち私たちを救う事はできないからです。だから、完全に悪魔に勝ってくださる以外にないのです。スポーツの試合なら、10対1で勝っても、2対1で勝っても、勝ち負けです。でも、イエスさまがサタンと戦われた時、100対0とか、1000対0とかです。つまり、まったく負けられなかったのです。そのために、イエスさまも天のお父さまの力を叫びながら求められました。僕たち私たちの救いを実現するためです。そして、イエスさまは今も、天において、天のお父さまの右におられて、

僕たち私たちをご自分の仲間と認めてくださって、「私たちを」、つまり「僕たち私たちを」悪から救ってくださいと執り成して祈っていただきます。

僕たち私たちも、「よーし、日曜学校に休まずに行こう」と心に決めると、いろんな用事ができたり、友だちに遊びに行こうと誘われたり、テレビが気になったりするかもしれません。神さまを愛し、隣人を愛そうと心に決めると、これまで、考えた事がなかったほどに、自分の中に愛する心がないことに気づいたり、逆に、仲良くするよりも喧嘩してしまったりすることが起こってきます。誰でも経験してきたことです。いえ、毎日経験することです。でも、先週学んだように大丈夫です。イエスさまのこのお祈りがあるからです。ボクシングでいえば、僕たち私たちがたとえノックダウンされても、絶対にノックアウトされることはありません。このお祈りがイエスさまによってお祈りされ、僕たち私たちもお祈りしているなら、サタンが神さまに勝てるはずはありません。だから、このお祈りをお祈りして、少しずつ、信仰が成長できるように、皆で祈りましょう。イエスさまと一緒に、僕たち私たちが皆で主の祈りを祈ってあげれば、僕たち私たちも勝てるのです。

暗唱聖句

我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

「主の祈り」より

〈ねらい〉

私たちが、神様の憐れみによってサタンからの誘惑から守られ、導かれていることを学ぶ。

〈展開例〉

みんなは、今朝、誰と、どうやって、教会に来ましたか。小さい子は、きっと、お父さんやお母さんに連れてきてもらったと思います。家を出る時、「今日は、日曜学校休みたいなあ、家でテレビでも見ていたいなあ」と思ったことはないですか？ そんな時は、実は、サタンが、神様を礼拝する良い心を神様を信じない悪い心へ変えてしまおうと、誘惑しているのです。

私たちは、悪い心へと変わってしまわないように、「私たちが誘惑にあわせないで、悪いものから救ってください」とお祈りしましょう。

〈折り〉

天のお父様、今日、日曜学校に来て神様を礼拝することができて、ありがとうございます。でも時には、「教会をお休みしようかな」と思う心になってしまうことがあるので、そんな時は、悪い心にならないよう守ってください。来週も日曜学校に来れるように導いてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

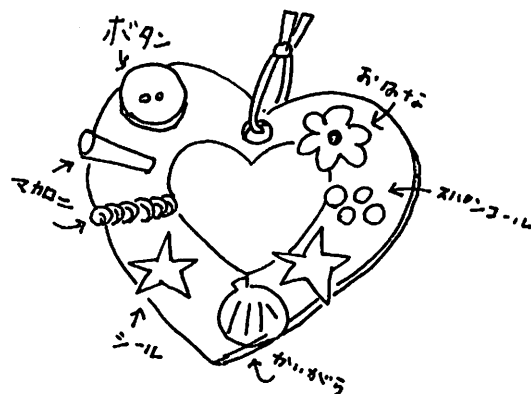
〈工作〉

♡ハートのリース

♡用意するもの…厚紙かダンボール、両面テープ、のり
リボン、折り紙、シール、ボタンやモールなどなど

厚紙やダンボールでハートの形の輪を用意する。

かわいいボタンやスパンコール、モール、マカロニなど、どんな物でもOK！
ハートのリースを飾ろう。



♡わたしたちの心のハートをイエス様はいつでも見てるよ♡

〈目標〉

イエス様は誘惑を受けられ、私たちの苦しみを知ってくださる。そのイエス様が「悪より救い出されたまえ」との祈りを教えてくださったことを覚え、誘惑に負けないようにと祈ることへと導く。

〈礼拝説教を振り返る〉

イエス様は、悪魔の誘惑をお受けになられました。神さまに従って、神さまを第一として生きようとするとき、悪魔はその人を神さまから引き離そうとします。

みんなが毎週日曜日にちゃんと来ようとかんげるとき、大好きなテレビがあったり、お友だちが遊ぼうと誘ってきたりして教会に行くのをどうしようかと悩んじゃったりします。それが、神さまからみんなを離そうとする悪魔の働きです。お友だちやテレビは悪くはないのだけど、そのお友だちやテレビやそのほか、みんなの周りにあるものを使って、悪魔はみんなを神さまから切り離そう

とします。

イエス様はその悪魔の働きに勝利してくださいました。イエス様はその苦しみを知ってくださって、悪魔に勝ってくださったその力をもって、悪魔の働きからみんなを守ってくださるのです

イエス様によって、そのサタンの誘惑から守られて、神さまにしっかりとつながっていることができるように、「悪より救い出されたまえ」とお祈りするのです。

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま

私たちは毎日のように神さまから離そうとする誘惑にあっています。

どうかイエス様がその力を持って私たちを守ってください、私たちが悪魔の誘惑に勝てるようにしてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。

アーメン。

〈やってみよう〉

3月9日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。

表

裏

われらこころみに あわせず、悪より すくい出したまえ	罪のさそいから守って、 神さまの子どもとして よるこんで 生きれますように。
----------------------------------	---

今日はここでおしまい。
じゃあまた来週ね(´_`)~

〈暗唱聖句〉 主の祈り

〈学びのポイント〉

- (1) キリスト者すべてのなすべき祈り
- (2) 主イエスが先立って祈ってくださる
- (3) 悪いものに負けないよう、罪との戦いを続ける

〈説教のおさらい〉

私たちの身の回りには様々な誘惑があります。教会の礼拝より、お友だちとゲームをしたりテレビを見たりすることの方が楽しく思えてきます。そんな考えになったことがありますか？ それは悪い者が私たちを神さまから引き離すために、いろいろな手段でやってきます。

自分だけではどうしても負けてしまうこともあります。そんな時に、イエス様に助けを求め、イエス様に祈り願う。キリスト者にはそれが許されています。かならず助け出してくださいることを信じて祈りましょう。

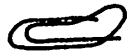
〈やってみよう〉

魚つりをみんなで行きましょう。

○用意するもの

厚紙・ゼムピン・わりばし・糸

- ①魚の形や好きな形に厚紙を切っておく。
- ②切った厚紙に悪いこと（いじめ、うそ、いらすをを書く。同じことばを何枚も作ってよい）
- ③よいことも書く（人数にもよりますが10枚ずつぐらい）
- ④ゼムピンをつけ、引っ掛けやすいようにピンをたてる。
- ⑤割り箸に糸をつけ、ゼムピンをひろげつりやすいようにする。



字の書いてある方を下に向けてみんなで行います。

良いことをいっぱいやった人の勝ち

〈目標〉 弱い自分を知り、神様と共に罪と戦う

〈展開例〉

【メッセージ】 ①みなさんはきっと小さい頃から「強くなりなさい」と言われてきたと思います。たとえばころんでも泣かないと、「えらいよ」と言われませんでしたか。注射をしても泣かないと、「頑張ったね」と言われませんか。そう言われるわけは、我慢のできる子になってほしいと、お父さん、お母さんの願いがあるからです。我慢できるということはいいことです。でも我慢できる力は誰がくださると思いますか。それは神様です。神様の助けなしには、私たちは強くなれませんし、善いことができるようにもなれません。本当は、私たちは一人では弱いのです。神様と一緒にってはじめて強くなれるのです。②みなさんの多くはもう注射を打つ時我慢できるでしょう。でも大人になってもなかなか我慢できずに負けてしまう

ものがあります。何だと思いませんか。それは「試み」です。「試み」はあなたの神様への愛を試すためにやってきます。「試み」はあなたを楽しいことに誘ったり、あなたを悲しくさせ、あなたを短気にしたり、あなたのやる気をなくさせたりします。その「試み」によってあなたの罪があらわれ、罪に負けるのです。だからできれば試みには会いたくありません。だから「試みに合わせないでください」と祈ります。でも、もし試みに遭ったとしても、神様が一緒に戦ってくださればあなたは罪に打ち勝つことができます。だから「悪より救い出したまえ」と祈るのです。

【すすめ方】 私たちの魂と神の霊との正しい結びつきを損なうさまざまなもの（人間の偶像化・財産・名誉・享楽など）を身の周りで見つけてみよう。とりわけ「富の惑わし」に注意を払おう。私たち自身世俗化という名の試みの中にあることを覚えよう。



第六の願い

「第六の願いは何?」「我らを試みにあわせず悪より救い出されたまえ」「はい、質問は?」くらいのテンポで行きたい。

「試み」しか出ないかも。「悪」も出るかな。「試みにあわせず」「悪より救い出し」というのが具体的にどういうことか? のような質問が出るととても嬉しい。

出た質問をみんなで考えてみよう。



聖書の読み取り

ペトロ I 4:12~14, 5:8~11。

キリスト者として、試みにも必ず遭うし、サタンは食い尽くそうと探し回っている。それは決してないことではなく、必ずあることだから、全能の神様に「あわせないで、救い出して」と心から祈る。



弱い自分を認めること

どんな試みがあるだろう? 体験したことある? 自分じゃなくても他の人が体験した試みって知っている? 聖書の中に出てくる試みは? 悪に陥りそうになったころある? そこから救い出された経験ってある? (他の人・聖書の中、繰り返し)

自分が弱いこと、人間が弱いことが分かるに連れて、この祈りは真剣になる。子どもが弱いのは違う、大人の弱さにもう気がついているかも知れない。心から真剣にこの願いを祈ろう。

「救い出し給え」は「すくいだしたまえ」と読みます。子どもには「いでよ!〇〇」でなじみのある言い回しです。「すくいだしたまえ」なんて読んで、せっかくの文語の格調の高さを台無しにしませんか? ちょっと発音チェックをしてみましょう。

月 日「主の祈り 第六の願い」中学科

名前 _____

聖書:

問

讃美:

☆試みにあったことがある?

☆悪に陥りそうになったことは?

日	聖書箇所	祈りの課題
16日	ルカ20:27~44	
17月	ルカ20:45~21:6	
18火	ルカ21:7~19	
19水	ルカ21:20~33	
20木	ルカ21:34~22:6	
21金	ルカ22:7~23	
22土	ルカ22:24~38	

この聖書箇所は、ダビデが神殿建築のために自ら寄贈し、またイスラエル全体に自主的な寄贈を訴えて、その結果、多くのささげものがささげられて整ったときに、全会衆の前で主を賛美し、主への感謝を祈った祈りです。とりわけ10～13節は、14節で「すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません」と告白しているように、この神殿建築のためのささげものを通して、偉大さ、力、威光、栄光を主に帰して賛美している箇所です。

(1) たたえる

ダビデのこの祈りは神への賛美で始まります。

この時のダビデの喜びは、どのようなものだったのでしょうか。そもそも神殿建築は、サムエル記下7章にてでくるダビデ契約の中で神様が約束されたものでした。そこでは、神の「神殿」を建てるのは「あなた（ダビデ）」ではなくて「わたし（神）」であるという約束でしたから、ダビデによる神殿建築の準備も神の約束を信じて行われた事業でした。ですから、ささげものを集めて神殿建築の準備が整った時、ダビデとしては、まさに神が約束どおり整えてくださったという感謝を覚えたことでしょう。16節、「わたしたちの神、主よ、わたしたちがあなたの聖なる御名のために神殿を築こうとして準備した大量のものは、すべて御手によるもの、すべてあなたのもです」という告白がそれを言い表しています。ただ自分の願いがかなえられたということではなく、神の約束

があり、それに押し出されて進めてきた事業ですから、その完成もわたしたちの力によるものではなく、約束を与えた方のみわざによるものだと思います。

この一連の祈りでは、「偉大さ、光輝、威光、栄光」という神の属性、「天と地にあるすべてのもの」、「万物を支配しておられる」という神のみわざが語られ、「このような奇進ができるとしても、わたしなど果たして何者でしょう。わたしの民など何者でしょう」、「この地上におけるわたしたちの人生は影のようなもので、希望はありません」という告白が祈られます。偉大な神の御前に何者でもない、希望のないわたしたちであるのに、神をたたえる偉大な事業に参与させていただいている、その光栄と、そのようなわたしたちを顧みてくださる神の恵みがたたえられています。神様の属性、御業、恵み、これらが順次取り上げられて、自分たちの告白を交えて、神様の栄光がたたえられているのです。

(2) 栄光を神に帰す

このように神の栄光をたたえ、神に全面的に栄光を帰する姿勢は、わたしたちの心をも正しく神の御前に向かわせます。17節以下で、ダビデが「わたしは正しい心をもってこのすべてのものを奇進いたしました」と告白しているとおりです。神様をたたえ、神に栄光を帰することは、同時に「民の心を確かにあなたに向かうもの」につながるのです。

カテキズム	子どもカテキズム 問85
	ウェストミンスター小教理問答 問107
	ハイデルベルク信仰問答 問128

子どもカテキズム

問85 「国とカと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン」という結びの言葉は、何を意味していますか。

答 私たちの神さまが、必ず勝利し、このお祈りをかなえてくださる神さまであることを喜びと感謝、信仰をもって言い表すのです。「アーメン」とは、ただイエスさまの真実に支えられて、私も真実にお祈りすることができる、ということです。ですから、私たちは、お祈りの最後に、「主イエスさまの御名によって、アーメン」と申し上げます。「天のお父さま、アーメン」。これだけでも立派なお祈りですが、私たちは神さまの子どもらしく、素直に何でも祈り願います。

〈祈りの結びの言葉〉

短く簡潔な、ある定式化された、三位一体の神をほめたたえる言葉のことを、「頌栄」と言います。祈りの前後で頌栄を用いて神をほめたたえることは、神の民の伝統です。使徒パウロも、祈りの中で頌栄を用いており、またパウロの書簡は主なる神をほめたたえてはじまり、頌栄の言葉で閉じられます。

主の祈りの結びの頌栄は、福音書によりますと、主イエスが教えられた祈りには含まれていません。教会の礼拝の中で祈られるに際して、この頌栄の言葉が加えられて、「主の祈り」として整えられたと考えられています。しかし、これは、根拠なく付け加えられた言葉ではありません。歴代誌29:10-13などの旧約の御言葉の伝統の中で主をほめたたえた言葉です。旧約の御言葉が引用され、短くまとめられて、頌栄の言葉として用いられました。ですから、のちのキリスト教会も宗教改革者たちも、この頌栄の言葉を大切にしました。

〈祈りの基礎、土台〉

「国とカと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり」とは、「国もカも栄えも、そのすべてがとこしえに、主よ、あなたのものです」という信仰の告白にほかなりません。

頌栄が大切な理由は、頌栄が、神の御力と御業、また神の真実についての賛美であり、信仰の告白だからです。祈りの基礎がここにあるのです。私

たちは、主の祈りの冒頭において、「天の父よ」と祈り求めました。そのことによって、祈りの基礎が神にあることを確認しました。再び、祈りの結びにおいて、神の大いなる恵みとその御業を賛美し、また神の真実をほめたたえ、またその信仰を言い表します。祈りが、この神の真実に依って立っているからです。

〈神の国の完成を確信して祈る〉

主なる神は、罪と死に覆われたこの世に対して、主イエス・キリストにおいて勝利されました。主イエス・キリストは天の御父の右に座して、すべてのものを支配しておられます。私たちの肉の目には、悪がこの世を支配し、暗闇に覆われているように見えますが、信仰の目においては、すでに主イエス・キリストの支配が実現しています。やがて主イエス・キリストが再び来られて、この勝利は完成されます。やがてまもなく神の御国の完成が明らかにされる時が来ます。

「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高いところにいるものも、低いところにいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」（ローマ8:38,29）。神の勝利を確信し、喜びと感謝と信仰をもって神をほめたたえて、祈りを閉じるのです。

テキスト 歴代誌上29章10節～13節
 カテキズム 子どもカテキズム 問85

「勝利を確信して祈る」

[単元のねらい]

「国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり、アーメン」。主の祈りのこの言葉は教会の頌栄である。聖書の古い写本には、このことばはない。しかし、教会はおそらく、その最初から、主の祈りにこのような頌栄を付け加えたのであろう。教会は、この驚くべき恵みの手段を与えてくださった神を、主イエス・キリストを讃えずに終えられないからであろう。そして、もう一つの理由は、おそらく主イエスの祈りを祈ることによって、自分自身の言葉で（教会の言葉で）も、神を讃えたいからではないか。主の祈りを嫌う教会もある。「祈りは自由祈禱でなければ霊的でなくなるから」などと言う。しかし、主の祈りを嫌って（礼拝式では唱えるが、個人生活で軽んじる）、どうして霊的な祈りを祈れるようになるのだろうか。我々は、主の祈りを重んじる。しかし、その我々がもしも主の祈りの文言を正しく理解せず、味わわず唱えているだけなら、そのような方々の批判を甘受せざるを得ないかもしれない。

主の祈りは、自分自身の祈りの言葉をもやがて紡ぎ出させる祈りである。その意味で、教会の頌栄で終わらずに、このあと、ますます神を讃える賛美の言葉が紡ぎ出されることは、実に素晴らしい事であろう。子どもたちに祈りを教える。これこそ、日曜学校の目標である。主の祈りを暗唱できることをもって足れりとすることはできない。子どもたちに、短くても自分自身の背丈にあった祈りの言葉を唱えさせたい。

僕たち私たちは、これまで主の祈りを学んで、イエスさまを礼拝してきました。主の祈りをお祈りするときに、イエスさまと一緒にいてくださり、イエスさまと一つに結ばれていることを信じることが出来ます。一人でお祈りしているときも、僕たち私たちは、ばらばらなのではなく、イエスさまとお友だちや先生と一つになってお祈りしていることを知りました。

今日のカテキズムは、主の祈りの最後のことばでした。「国と力と栄えとは、かぎりなくなんじのものなればなり」。この言葉は、イエスさまのお祈りの言葉ではありません。主の祈りを教えていただいて、お祈りする喜びを味わい知っている教会が加えた、神さまを賛美する言葉です。もちろん、これももともと旧約聖書の御言葉を用いたのですから、神さまの言葉です。

「国と力と栄え」という言葉は、主の祈りの中に出てきました。国ということでは、「御国を来たらせたまえ」がありました。「御名をあがめさ

せたまえ」というお祈りは、神さまの栄光を賛美するという意味ですから「栄え」が関係します。それなら「力」は何でしょうか。神さまが何でもおできになる全能、主権ということですから、「御心が天になるごとく地上になる」というのが実現させる力ということで、力が関係すると言えるでしょう。つまり、僕たち私たちは、この言葉を付け加えることによって、「神様はこの主の祈りの全部を、完全になえてくださることがおできになります。それを心から信じます」と言っているわけです。

国の中で、一番偉いのは誰でしょうか。王さまとか皇帝とか、お金の力や政治の力、武力を持っている人たちが一番偉いと考えるのが、2000年前の人たちの考えです。それは今も変わっていません。そんな人たちがばかりの中で、キリスト者は、「僕たち私たちが救うことができるのはイエスさまだけです。神さまの御計画を実現する力は、イエスさまにあるのです。一番偉いのは、イエスさ

ま。天のお父さま、ただ神さまにのみ栄光があるように」。こんなお祈りをささげたのは、すごいと思いませんか。

お祈りは、僕たち私たちが熱心に何度も何度もお祈りするから、それだから、聞かれるわけではありません。お祈りする僕たち私たちの力とか、信仰の良い状態だから聞かれるわけではありません。お祈りが聞かれるのは、ただ、神さまが御言葉で約束しておられるからなのです。神さまの御心だから、必ず実現するのです。それなら、お祈りしなくても、神さまのお働きは進みますか。その通りです。進みます。けれども、神さまは、僕たち私たちのお祈りを待っておられます。僕たち私たちのお祈りを通して、神さまが働いてくださるのは、神さまの大きな、計り知れない、愛のゆえです。僕たち私たちは、神さまから、「わたしのために、世界のために、自分自身のために、お祈りしなさい」と命じられています。そのような世界で一番大切と言っても良いくらいのお仕事を与えられているのです。それがお祈りです。だから、僕たち私たちはお祈りするのです。熱心にお祈りするのです。僕たち私たちのお祈りを神さまが待っておられるのです。

僕たち私たちは、神の子とされました。神様が、僕たち私たちに求めておられる事は何でしたか。「感謝することです」。僕たち私たちは、神さまの御心に従うことによって感謝をあらわします。十戒を生きるのはそのためです。十戒を生きることは、主の祈りを祈ることになります。ある人は、「お祈りこそ神様への僕たち私たちの感謝のなかで一番大きなことです」と言いました。その通りです。僕たち私たちは、神さまへの感謝をお祈りすることによってあらわします。お祈りすることによって、神さまの御計画は僕たち私たちを通してなされます。だから、祈ります。お祈りは、僕たち私たちの責任です。特権です。

最後に、お祈りは、主の祈りだけではありませんね。主の祈りを祈り終えたキリスト者は、最後に「国と力と栄えとは限りなく神さまあなたのもので」と付け加えました。それなら、その後、こんどは僕たち私たちも、自分の言葉で自由にお祈りすることが許されます。お祈りできるし、お祈りするべきです。どんな小さなことでもお祈りすれば、神さまが一番良い方法で応えてくださるので、僕たち私たちは、ますます感謝することができます。信じることはお祈りすることです。感謝することはお祈りすることなのです。

暗唱聖句

国と力と栄えとは限りなくなんじのものなればなり。

「主の祈り」より

〈ねらい〉

子どもたちに、主の祈りを共に祈る幸いを覚えさせるとともに、短くても祈りの言葉を唱えることができるよう学ぶ。

神様は私たちに、感謝をしてお祈りをしなさいと教えています。みんなも毎日お祈りをしましょうね。どんなことでもよいのです。神様はみんなのお祈りを待っています。

〈展開例〉

日曜学校で、ずっと主の祈りを教えてもらってきましたね。今日は、最後の「国と力とは限りなくなんじのものなればなり、アーメン」を覚えましょう。みんなには、ちょっと難しい言葉ですね。この言葉の意味は、神様の素晴らしさを褒め称える賛美の言葉です。

〈祈り〉

天のお父様、私たちに祈りをする心を与えてくださってありがとうございます。

今週も元気に、幼稚園や保育園にいけますようにお願いします。毎日、お祈りすることができますように。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

ペッタンでカード

★用意するもの…画用紙、スタンプ、インクや絵の具
ダンボール、野菜、キャップ、ボタンなど

画用紙や色画用紙でカードを作り、お祈りを書いておく。
不要になったフタやキャップ、野菜などなんでもペッタンしてみよう！
ダンボールでハートや星を型どってスタンプを作ってみても？



〈目標〉

最後に頌栄で結ばれる主の祈り。主が教えてくださった祈りからつむぎだされた人の言葉が主の祈りに加えられている。それと同様に自分の言葉での祈りがつむぎだされるように導く。

〈礼拝説教を振り返る〉

「国と力と栄えとは限りなくなんじのものなればなり」との言葉は、聖書にはない、人間がつむぎだした言葉です。でも、主の祈りの言葉です。この言葉は、神さまの御国と神さまの御力、神さまの御栄光を賛美する言葉です。神さまにだけ御栄光があるように、イエス様のお名前だけが、本当に栄光に満ちているお名前ですと賛美している言葉です。この言葉は神さまを心から賛美し、「ありがとうございます」を伝える言葉で、信仰を表す言葉です。

お祈りは私たちの力や信仰の力で聞かれるものではありません。イエス様によってお祈りを聞いてくださるといふ神さまのお約束があるから聞かれ

るのです。神さまがすべてを支配し、勝利しておられるから、祈りが聞かれるのです。

その神さまは、私たちがお祈りするのを待っておられます。私たちを愛して、お祈りを待っていてくださっている神さまに、私たちは感謝と賛美のお祈りをささげます。

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま

私たちを愛してくださって、私たちにイエス様を与えてくださったことを感謝します。

そして、私たちのお祈りを聞いてくださることを感謝します。

どうか私たちが神さまに心から「ありがとうございます」という気持ちでお祈りができるようにしてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。

アーメン。

〈やってみよう〉

3月16日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。

表

裏

国と力と栄えとは、 かぎりなくなんじの ものなればなり。	● ●	● ●	すべてを悪から すくって下さった 神さまの勝利を かくしんします。
------------------------------------	-----	-----	--

今日はここでおしまい。
じゃあまた来週ね★

〈暗唱聖句〉 主の祈り

〈学びのポイント〉

- (1) 神さまを賛美することが祈りの本質
- (2) 主の祈りこそ霊に導かれた祈り
- (3) 主の祈りに続き自分の言葉で祈ろう

〈説教のおさらい〉

私たちは主の祈りを学んできました。主の祈りの最初は神さまの御名を呼ぶことでした。お祈りする相手を正しく呼びます。天の父とはどんなお方だったのでしょうか？ 天も地もそこにあるもの全てを創られ、今も支配していらっしゃるお方です。

私たちの命も、希望も、平安もすべての良いも

のの源である神さまに、賛美し神の国の完成を待ち望み、御心を重ね合わせ、毎日の糧、罪の赦し、悪よりの救いを与えてくださる神さまを覚えて感謝して祈りましょう。

〈やってみよう〉

○歴代誌上29:10～20を人数分コピーしてください。

○この聖書の箇所の中に国・カ・栄（神・主もOK）という字がいくつあるか子どもたちにさがさせます。三色（五色）の色鉛筆を使って字を○で囲ませたりして数えさせてください。一番多い言葉は何でしょう。だれが一番正しく数えることができたでしょう。

やり方は自由です。楽しく遊んでください。

〈目標〉 心からの尊敬をもって神をたたえる

〈展開例〉

【メッセージ】 ①私たちの住んでいる世界では、強い者が弱い者を踏み台にして勝った勝ったと言っています。みなさんは知っていますか。お金をたくさん持っている会社は、お金を少ししかもっていない会社に汚い仕事や危険な仕事をさせて、もっとお金を儲けていますし、強い国が弱い国を攻撃して多くの人を殺しています。テストで自分より低い点をとった人を心の中で見下げたことはありませんか。私たちの世界では沢山お金をもち、たくさん武器を持ち、高い点をとる人が勝利者とされもてはやされます。②ところが真実の勝利者は真の神であり、私たちの救い主イエスキリストだけです。イエスさまはお金持ちではありませんし、武器を何ひとつ持ちませんでしたし、人を見下したり、ばかにしたりしませんでした。

ただイエスさまはご自分の命を、私たちのためにささげることにより、私たちに愛を示されました。お金持ちや強い国やテストの成績の良い人もイエスさまの愛には勝てません。イエスさまに心が向く時、誰でもイエスさまの愛の力に支配され、イエスさまとともに世に打ち勝つことができるのです。「国とカと栄えとは限りなくなんじのものなればなり」とは、そのような救い主イエスさま、父なる神様をたたえる言葉なのです。

【すすめ方】 競争に勝つために努力することは大切かもしれませんが、しかしもっと大切なのは悪に勝つことです。競争そのものが悪である場合、競争をやめることも必要です。国とカと栄えは、この世における勝者のものでは決してないのです。国家戦争、企業戦争、及び受験戦争についての悲惨な事例にこと欠かない現代に生きる子どもたちに、神の勝利と栄光を伝えることはいかに大切なことでしょうか。



結びの言葉・頌栄

「国と力と栄とは限りなくなんじのものなればなり」について、質問は？」で始める。「要するにこれは何？」という質問が出るとよい。語句の意味の質問としては「栄」は出るだろうけど、「国」「力」は出るかな？「限りなく」「汝」「なればなり」も出るだろう。出た質問をみんなで考えてみよう。



聖書の読み取り

詩編115：1～3。

高らかに神様の御名を讃えよう。



祈りの確信の根拠

「国」ってどこのこと？ 神様が支配される国の範囲は？「力」ってどんな力なんだろう？ 能力とか権力とか威力とか、いろいろな言葉が出てくるといい。「栄」ってどんな栄光なんだろう？ どんな素晴らしい状態なんだろう？

神様は全てを支配され全てに力を持ち栄光に満ちたお方だから、わたしたちではなく神様の御名が永遠に讃美されるために、わたしたちは今まで学んで来た第一から第六の願いを祈る。

どんな領域に属する事柄でも、全てが神様の支配のもとにあること、神様はすべてのよきものをわたしたちに与えようと欲しましたそれがおできになる方であることを覚えて祈ろう。

月 日「主の祈り 結びの言葉」中学科

名前

聖書：

問

讃美：

☆どこの国？ どんな力？ どんな栄光？

☆わたしたちはどんなふうに祈るの？

日	聖書箇所	祈りの課題
23日	ルカ22：39～53	
24月	ルカ22：54～71	
25火	ルカ23：1～12	
26水	ルカ23：13～25	
27木	ルカ23：26～43	
28金	ルカ23：44～56	
29土	ルカ24：1～12	

この箇所はパウロのコリント訪問計画変更に関する言及を扱っているところで、パウロのことをこころよく思わない信徒たちが、この計画変更を理由にパウロのことを非難していることに対して、パウロが神とキリストの御業の誠実さに訴えて計画変更の理由を述べようとしている箇所です。

この聖書箇所の引用は、パウロが真実と誠実さを説明する中で、「神の約束は、ことごとくこの方において『然り』となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して『アーメン』と唱えます」(20節)と言っているとこころに中心があります。

(1) パウロのコリント訪問

パウロが上記のような神の真実と誠実さ、それに基づいてクリスチャンたちの「アーメン」という信仰をコリントの教会員に説明した背景には、コリントの教会の抱える問題があったようです。コリントの人々は、パウロのコリント訪問計画変更をだしにして、パウロの不誠実さを訴えたかったようです。パウロはこうしたコリントの信徒たちに対して、コリント訪問計画がそもそも人間的な考えに基づくものではなく、また軽はずみな考えでもなく、同じ神を礼拝する者としてコリントの人たちが「もう一度恵みを受けるようにと」(15) 考えて計画したものであることを説明しました。それは、「神から受けた純真と誠実によって」(12) 考えた計画であり、「あなたがたの信仰を支配するつもり」(24) なのではなく、同じキリストにある者としての「思いやり」(23) から出たものであると言いたいのです。

パウロはこのコリント訪問計画とその変更に関する思いと意味を説明するため、神とキリストの誠実さに訴えています。それは、「わたしとシルワノとテモテが、あなたがたの間で宣べ伝えた神の子イエス・キリスト」という福音にあらわされた神の誠実さです。そもそもコリントの人たちは、このキリストの福音を聞き、福音を通して知った神の誠実さに心打たれ、神とキリストに対して「アーメン」と言える信仰をもつにいたったのです。キリストの福音は、「この方においては『然り』だけが実現した」と言えるものなのです。コリントの人たちはそれを、パウロなどの使徒たちから聞き、信じて「アーメン」と言ったはずだし、パウロの訪問計画も、コリントの人たちによせる思いもこの神の真実さと恵みに基づくものなのです。

(2) 神様の約束の成就

パウロはここで神様の恵みと誠実さに基づいて説明しました。その説明でパウロが言うように、イエス・キリストにおいて「然り」、「その通りだ！」と言えることだけが実現し、福音はそれを伝えるものなのです。そして、これは以前から神が約束していたものなのです。神の約束は御子において実現したのです。それも、「その通りです！」、「アーメン」と言えるほど、約束通りに実現したのです。パウロがコリントの信徒たちに伝えたように、すべてのクリスチャンが「アーメン」と唱えるのは、約束どおりに実現された神の誠実さに根拠があるのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問85
 ウェストミンスター小教理問答 問107
 ハイデルベルク信仰問答 問129

ハイデルベルク信仰問答

問129 「アーメン」という言葉は、何を意味していますか。

答 「アーメン」とは、それが真実であり、確実である、ということです。なぜなら、これらのことを神に願ひ求めていると、わたしが心の中で感じているよりもはるかに確実に、わたしの祈りはこの方に聞かれているからです。

〈真実である、確かである〉

「アーメン」とは、「真実である」、「確かである」という意味のヘブライ語です。これは、「神の約束は真実である」、「神の御言葉は確かである」ということです。主なる神によってこの祈りが真実とされる、神が確かに聞いてくださると確信して、「アーメン」と言います。ですから、「アーメン」とは、神の真実を確信する讃美と信仰告白の言葉です。私たち人間は真実を貫くことができないはなはだ不確かな存在ですが、主なる神は真実なお方です。神は真実であられて、私たちの祈りを確かに聞いてくださり、私たち自身の祈りにはるかにまさってふさわしく、御心を行って、私たちに配慮してください。主なる神こそまことに真実なる方であると告白するのです。

〈ただ一人アーメンなるお方〉

主イエスは、しばしば「アーメン」とおっしゃいました。新共同訳で「はっきり言うておく」と翻訳されている主イエスの言葉が「アーメン」という言葉です。新改訳は「まことに」と翻訳しています。主イエスは権威ある者として教えられましたが、その権威がこの「アーメン」という言葉に表されています。ヨハネ黙示録は、主イエスのことを「アーメンである方」と呼んでいます（たとえば3:14）。主イエスは、御自身の言葉が「アーメン」であると、また御自身が「アーメンなるお方」とであると明らかにされました。

私たち罪人は、だれ一人として、真実な者として生きることができません。罪の故にすべての人が真実を失っています。しかし、ただお一人、主イエス・キリストは真実なるお方です。主イエス

は、御父に対して真実を尽くされました。約束されていた救いのみわざを成し遂げて、神の御言葉の真実を貫きました。このお方こそが神の真実であり、「アーメンなるお方」にほかなりません。

三位一体の御神は、この主イエス・キリストのみわざを通してキリストを信じる者に罪の赦しを告げて、それが「アーメン」すなわち「真実である、まことである」と宣言されました。私たちの罪は赦されたのであって、キリストの故に白い義の衣を着せられて、真実な者として神の御前に立つのです。キリストにおいて真実な者とされ、私たちも「アーメンなる者」とされます。私たちは、キリストの救いの恵みに入れられて、神の御前に、まことに真実の人間として歩むことができます。私たちは、ですから、主イエス・キリストを「アーメン」とお呼びして、ほめたたえます。

〈祈りの土台〉

「アーメン」と唱えて祈りを閉じるのは、祈りが「アーメンなるお方」に基づいており、キリストを通して御父に聞かれるからです。私たちの祈りは、真実に欠ける言葉ではありますが、キリストの故にきよめられ、真実の言葉とされて、御父のもとに届けられます。私たちの欠けある祈りが御心にかなう祈りとされ、私たちの思いにまさる豊かな恵みが注がれます。「わたしが心の中で感じているよりもはるかに確実に、わたしの祈りはこの方に聞かれている」と確信してよいのです。

ですから、祈りの最後に、「アーメン」と唱えて、主イエス・キリストの真実にすべてを委ねます。私たちは、キリストにすべてを委ね、依り頼んで祈る幸いを与えられています。

テキスト コリントの信徒への手紙二 1章18節～22節
 カテキズム 子どもカテキズム 問85

「アーメン」

〔単元のねらい〕

本誌が目指した、「子どもカテキズム」にもとづく2年サイクルのカリキュラムも、遂にゴールを迎えることができました。執筆してくださった教師、日曜学校教師、教師会のお一人お一人に心から御礼、感謝申し上げます。これを用いてくださった皆様、お読みくださって支えてくださいましたあなたのお働きの上に、主の祝福がいよいよ注がれますように。そしてさらに、この働きが拡大して継続され、「一人でも多くの子らに、たった一人の子に」、命の福音を全身全霊をもって語り、神の子として育て、キリストの良き弟子として訓練する日曜学校の教育・伝道の御業に、共にますます励んで参ることがゆるされたらなんと幸いなことでしょうか。この業にゴールはありません。

さて、祈りの後に、我々は必ず「アーメン」と言う。我々が祈りをささげる場合には「アーメン」を唱える。子どもたちも、「イエスさまの御名によってお祈りします。アーメン」と教えられ、教会の祈りには、「アーメン」が必ずつくことを肌身で覚えさせられる。本単元では、「アーメン」と祈りとの関係について集中して学ぶ。ごく単純に申して、「アーメン」とは「この祈りは真実そのとおりです」という神への告白といえる。「真実」と訳すことができる。そこで明らかにしたいのは、この真実は徹底的にキリストの真実によってのみ引き起こされる真実であるということである。アーメンと唱えて、祈りにおいて、我々の真実をまったく根拠にせず、ただキリスト・イエスの真実のみに（今、自分の祈りが可能なのは、天上の大祭司なるキリストの執り成しの故である）立脚して祈禱することができる幸いを、告白・賛美するのである。アーメンは、主イエス・キリスト御自身の御業と人格への限りない賛美である。壮大な一言である。それゆえに、「天のお父様、アーメン」だけでも立派なお祈りである。そして、そこからこそ自由祈禱が生みだされる。子らに、「喜びの祈り」を味わわせ、祈りの生活へ育てることが我々の課題である。

今日で、「主の祈り」から学んでイエスさまを礼拝することは終わります。毎日、主の祈りをお祈りしていますか。もしも、それができなくても、ご飯を食べる時には、「天のお父さま、感謝していただきます」ってお祈りしてくださいね。もしも、一人で歩いているときがあれば、目を開けたまま、「天のお父さま、アーメン」。それだけでもかまいません。神様に心を向けてみてください。お祈りは目を開けていてもできます。神さまは、いつも僕たち私たちがお祈りするのを待っておられます。お祈りは神さまからの語りかけへのお返事でしたね。天のお父さまの子どもの僕たち私たちが名前を呼ばれているのですから、決して知らん振りしてはいけませんね。

さて、僕たち私たちがお祈りするとき、いつもお祈りの最後にアーメンと言います。はじめて日曜学校に来た時には、『「アーメン」っていったい何だろう』と思ったでしょう。教会でしか聞かない言葉ですからね。アーメンは、「このお祈りは本当のことです、心からこのお祈りをしました。そのとおりになりますように」。そのような意味があります。

でも、お祈りはこれまで学んできましたが、僕たち私たちの力のできるものではありませんね。イエスさまによって救われて、神さまの子としていただいたから、神さまを天のお父さまと呼びできるのです。イエスさまが天において、今、僕たち私たちのために執り成しのお祈りをささげていてくださるので、聖霊なる神さまが僕たち私た

ちの心に働きかけてくださって、「お祈りしたいな、お祈りしなければならないな」と、思えるようになるのです。皆の中で、「お祈りなんか一度もしたことないぞ、お祈りなんか大っ嫌い」って思っているお友だちがいますか。いないでしょう。「時々お祈り忘れちゃう。日曜学校ではお祈りするけれど、家や学校ではお祈り忘れちゃう」。そんなお友だちなら少なくないかもしれません。でも、お祈りが嫌いではないでしょう。それは、聖霊なる神さまがあなたの心の中に働いていてくださっているからです。「お祈りは好きだけど、先生のように上手にお祈りできない」と考えているお友だちは大丈夫です。必ず、もっともっとお祈りの言葉が出てくるようになります。教会で神さまの御言葉の説教を聞いていれば大丈夫です。何よりも、お祈りが好きだと思えるお友だちは、間違いなく聖霊なる神さまが心の中に宿っておられます。神さまの子です。時々忘れてもかまいません。主の祈りを心を込めてお祈りできればよいのです。

お祈りしているとき、皆、こう考えてみてください。「ああ、今、私のために、私と共にイエスさまがお祈りしてくださっているんだ」。なぜなら、それは本当のことだからです。主の祈りを祈る時も、自分の言葉でお祈りするときも、イエスさまが共にいてくださるのです。イエスさまと一つとされるのです。だから、お祈りできる人はすごいですね。嬉しいですね。何ができるより、

お祈りできることほど、嬉しいことはないです。お祈りできる人は、人生の勝利者になれるのです。神さまと一緒に生きれる人です、だから天国に行ける人なのです。

僕たち私たちが、お祈りするときには、必ず「イエスさまのお名前によってお祈りします」と言いますね。それは、イエスさまが、「わたしの名前によって願いなさい」と命じてくださったからです。だから、お祈りするときには、天のお父さまに向かって、イエスさまのお名前を通してささげます。でも、主の祈りには、「イエスさまのお名前によってお祈りします」と言いません。何故なら、この祈りはイエスさまのお祈りだからです。それだけではなくて、「アーメン」という言葉の中に、もうイエスさまのお名前も入っているからなのです。実は「アーメン」というのは、イエスさまのニックネームでもあるのです。だから、教会で皆とお祈りするとき、最後の「アーメン」は大きな声で唱えましょう。「イエスさま、ありがとうございます。このお祈りを聴いてくださって、僕たち私たちを愛してくださって、神さまの子にしてくださいって感謝します」という心を込めて、「アーメン」と言いましょ。

小さな言葉だけれども、僕たち私たちにとって、とても大切な大きな恵みの言葉です。イエスさまを信じる人はお祈りする人です。お祈りできる人ほど、幸せな人はいません。

暗唱聖句

神の約束は、ことごとくこの方において「然り」となったからです。

それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して「アーメン」と唱えます。

コリントの信徒への手紙二 1章20節

〈ねらい〉

「アーメン」という言葉の意味と、神様は祈りを喜ばれ、真に確実に聞いてくださる方であることを学ぶ。

〈展開例〉

みんなはお父さんやお母さんには何でもお話しするよね。そしてお父さんやお母さんはみんなのお話を喜んで聞いてくれるよね。

お祈りとは、神様に本当の気持ちを何でもお話しすることです。そう、お父さんやお母さんにお話するのと同じようにね。そして神様はみんなのお祈りをとっても喜んで聞いてくださいます。

ところで、お祈りをする時、いつも最後に必ず「アーメン」というよね。みんなでお祈りする時も、最後にはみんなで声をそろえて「アーメン」というよね。では、この「アーメン」といったいどんな意味なんだろう？「アーメン」と

は、「そのとおりにになりますように」とか「このお祈りは本当のことです、心からこのお祈りをしました」という意味があります。神様は私たちのお祈りをいつも待っておられます。朝起きた時、ごはんの時、寝る前など、どんな時もお祈りしましょう。上手な言葉でお祈りできなくても、短い言葉でも、心をこめて本当の気持ちを神様にお話しすれば、何もかもみんなのことをわかっている神様は喜んで聞いてくださいます。そして、お祈りできたこと、お祈りを確かに聞いてくださる神様へのありがたい気持ちをこめて、大きな声で「アーメン」と言いましょ。

〈いのり〉

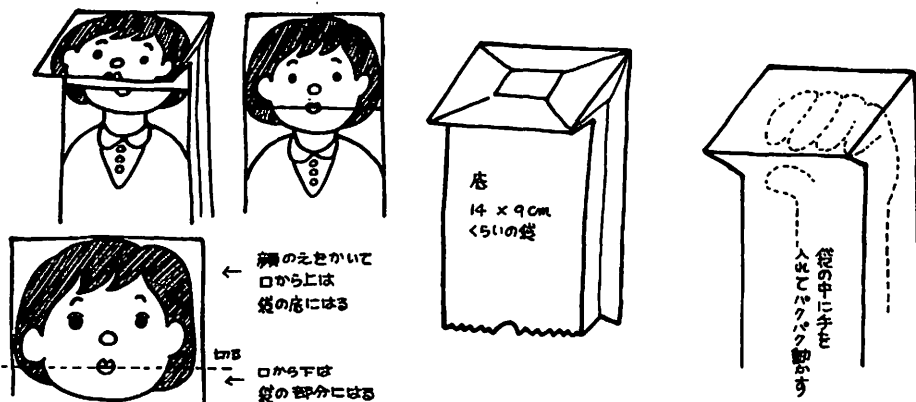
天のお父様、私たちがお祈りできるようにしてくださいありがとうございます。どんな時にも素直にお祈りをささげられる子どもとしてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

おいのり人形をつくろう

★用意するもの…紙袋、画用紙、のり、はさみ、クレヨン、色えんぴつなど

□がばくばく動く人形といっしょにお祈りしてみよう。
主の祈りを覚えていたら、みんなでいっしょに唱えてみよう！



〈目標〉

イエス様の真実をもって私たちの祈りをささげること覚え、「アーメン」との言葉の意味を考えて、「アーメン」と言って祈りを終える意味を教える。

よってお祈りをささげているから、イエス様のお名前によって神さまにお祈りをささげて、「アーメン」とささげることができるのです。

だから、お祈りの最後に「アーメン」と言うことは大事なことです。

〈礼拝説教を振り返る〉

お祈りの最後に「アーメン」と言います。「アーメン」というのはどういう意味だったでしょうか。「本当です」「その通りです」と言う意味です。

罪をいつも犯してしまい、すぐにうそを言ったりしちゃう私たちが、お祈りを「本当です。本当の私の心です」と言うことができるのはなぜでしょうか？ お祈りしていることをいつも願っているからでしょうか？ そうではありません。イエス様がいつも私たちと一緒に祈りしてくださっているのです。そして、イエス様が私たちの祈りを御自身のお祈りとして父なる神さまにささげくださるのです。そのイエス様の正しさに

〈祈りましょう〉

天の父なる神さま

私たちにイエス様をお与えくださっていることを感謝します。

私たちに与えてくださったイエス様が、今、私たちと一緒に神さまにお祈りをささげてください。

どうか私たちがイエス様を信じて、イエス様のお名前で神さまにしっかりと祈りをささげ、「アーメン」と言って、イエス様の正しさによって祈りをささげることができるようになってください。イエス様のお名前によって祈りします。

アーメン。

〈やってみよう〉

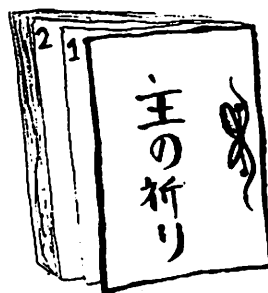
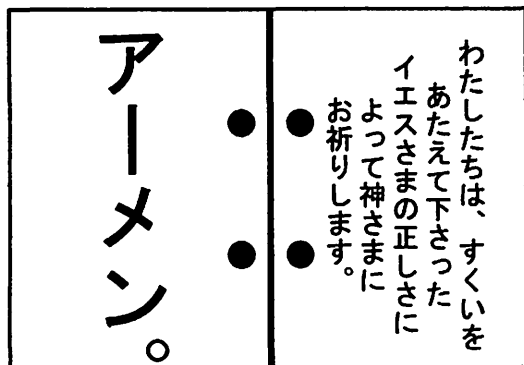
3月23日の続きです。

「今日やること」

- ・穴をあけたB5用紙1枚の表に今日の主の祈りの言葉をかき、裏にその内容を書きます。
- ・最後に今まで書いたものを順番にはさんでリボン・ひもでとめます。

表

裏



やっと今日で完成< _ _ >

〈暗唱聖句〉 コリントニ1：20

〈学びのポイント〉

- (1) 「アーメン」をつけない祈りはない
- (2) キリストの真実が祈りを確かにする
- (3) 子どもたちが喜んで「アーメン」と言えるように

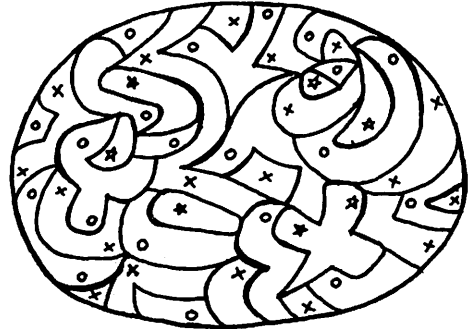
〈説教のおさらい〉

私たちは祈りの最後にならず「アーメン」と唱えます。私たちの祈りがその通りに成りますように、確かでありますようにと祈ります。それは、わたしたちのお祈りが立派であったり、聞く人たちを感動させたりする力があるのではなく、私たちが祈る前から神さまが知っていらっしゃる、聞いてくださるからです。小さな声で、つぶやくように祈るときもイエス様が共にいて、一緒に祈ってくださることを覚えて祈りましょう。

〈やってみよう〉

①お祈りの最後の「アーメン」ってどんな意味？

- ア. 神さまごめんなさい。
イ. そのとおりにになりますように
ウ. 神さまおやすみなさい



②×と○をぬりましょう。

何がでてくるでしょう？

()

〈目標〉 アーメンの心を知ろう

〈展開例〉

【メッセージ】 ①聖書にはシャロームとかインマヌエルとかハレルヤなど、とても便利な言葉がいくつか出てきます。なぜ便利かという、これらはみなある意味を短い言葉で言い表したものだからです。シャロームとは「あなたがたに平安がありますように。」、インマヌエルは「主が共におられる」、ハレルヤは「主をほめたたえよ」です。「アーメン」も便利な言葉の一つです。それは子どもカテキズム問85の答えにあるとおりです。②「アーメン」は呪文ではありませんし、この言葉を言わないとお祈りが聞かれないということもありません。しかし、これはイエスさまもよく使われた言葉なのです。「アーメン」は、私たちのそばにいつもイエスさまがいてくださるという確信を強めるために唱えるのです。だから「アーメン」

の意味をよく理解して、「私はイエス様の真実のおかげで祈れるし、祈りは私たちの願いを超えて神様に聞かれている」という確信をもって唱えましょう。

【すすめ方】 ①について：上に掲げた以外にも聖書には、原語による、印象的な話し言葉「ホサナ」「アバ」「マラナタ」などがある。調べて子どもたちに紹介しよう。②について：イエスさまは「アーメン」という言葉を実に何度も使われた。その多くは弟子たちに大切なことを告げるときに、言葉のはじめに「アーメン」をおいたのである。新共同訳ではその箇所はすべて「はっきり言うておく」と訳された（ギリシア語の原語「アーメン」を書いて示そう）。また黙示録3：14では「アーメン」はイエスさまの名として用いられた。また聖書の最後にもアーメンが唱えられ、「主イエスよ、来てください」と祈られている。「アーメン」はいかにイエスさまに関係の深い言葉であるかを確認しよう。

結びの言葉・頌栄

「アーメン」と板書して、「この言葉について、何か質問は？」と聞く。「どういう意味？」「何語？」「どうしてこの言葉だけカタカナで、日本語に訳さないの？」「どこの国に行ってもアーメンはアーメンなの？」くらい、出ないだろうか？ 出た質問をみんなで考えてみよう。

聖書の読み取り

歴代誌上16:36、黙示録3:14。コリニ1:18～20。旧約時代から「アーメン」と神様を讃えてきた。アーメンはイエスさまの名前でもある。

これらのことは真実です

聖書の巻末付録「用語解説」で「アーメン」を調べさせる。ギリシャ語の音訳が何か確認しておこう。

今までどんな気持ちで「アーメン」と唱えていたか？ これからはどんな気持ちで「アーメン」と唱えるか？

時間があれば、主の祈りを学んだ感想、お祈りカレンダーに取り組んでどうだったかなどを話し合おう。

「アーメン」はイエスさまの口癖？
 「はっきり言うておく」は福音書で74回、
 全てイエスさまのセリフ。ヨハネだけ「よくよくあなたに言うておく」（口語訳）「まことにまことにあなたに告げます」（新改訳）
 「まことに誠に汝に告ぐ」（文語訳）となる。

月 日「主の祈り 結びの言葉」中学科
 名前

聖書：

問

讃美：

☆「アーメン」の意味

☆どんな気持ちで「アーメン」と唱えるか？

日	聖書箇所	祈りの課題
30日	ルカ24:13～35	
31月	ルカ24:36～53	
1火	ルツ記1:1～18	
2水	ルツ記1:19～2:9	
3木	ルツ記2:10～23	
4金	ルツ記3:1～18	
5土	ルツ記4:1～22	

1月26日 幼稚科 分級展開例 〈工作〉「主の祈りのカードを作ろう!」 図版

きれいに色をぬって、台紙に貼って、主の祈りを暗唱できるようにしましょう。

しゅのいのり

てんにましますわれらのちちよ

ねがわくは、みなをあがめさせたまえ

みくにを、きたらせたまえ

みこころのてんになるごとく、ちにもなさせたまえ

われらのにちようのかてを、きょうもあたえたまえ

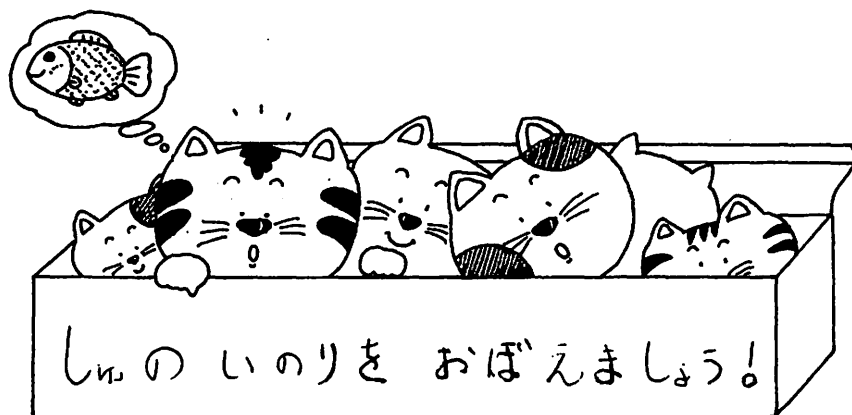
われらにつみをおかすものを、われらがゆるすごとく

われらのつみをもゆるしたまえ

われらを、こころみにあわせず、あくよりすくいだしたまえ

くにとちからとさかえとは、かぎりなくなんじのものなればなり

アーメン



日曜学校 2003年度カリキュラム (2003年4～6月分)

月 日	教会暦・行事	主 題	聖書箇所
4月6日	レント・進級式	レント	マタイ27：15-26
13日	受難週	受難週	マタイ27：32-56
20日	イースター	復活祭	マタイ28：1-10
27日		天地の良き創造	創世記1章
5月4日		人間の創造	創世記2：6-25
11日	母の日	墮落	創世記3：1-24
18日		アブラハムの召命	創世記12：1-9
25日		アブラハムへの約束	創世記15：1-21
6月1日		イサクをささげる	創世記21：1-8, 22：1-19
8日	ペンテコステ、花の日	聖霊降臨祭	使徒2：1-13
15日	父の日	エジプトに売られるヨセフ	創世記39章～40章
22日		ファラオの夢を解く	創世記41章～42章
29日		エジプトへの移住	創世記46章

以下、9月までの予定

月 日	教会暦・行事	主 題	聖書箇所
7月6日		モーセの誕生	
13日		主の過ぎ越し	
20日		出エジプト	
27日		契約のしるし	
8月3日		約束の地に入る	
10日		最初の王サウル	
17日		ダビデ契約	
24日		ソロモン王	
31日		ユダの滅亡	
9月7日		回復の預言	
14日		捕囚からの解放	
21日		城壁の修復	
28日		約束を待つ人々	

あ と が き

中部中会教育委員会日曜学校教案誌編集部

ついに二年間の子どもカテキズムのカリキュラムの最終号をここに刊行することができました。まず何よりも感謝したいのは、志を立てさせ、実現させてくださった神の真実……。そして同時に、分級展開例の執筆を担ってくださった日曜学校教師、教師会の皆様の誠実、熱心に対してです。どれほどの犠牲的な奉仕が捧げられたことでしょうか……。それは神がご存知です。心から御礼申し上げます！

この企てによって、契約の子が確実に成長すること、一人でも多くの子らが福音にあずかるようになること、これこそ、神からの祝福であると思います。手前味噌ではありますが、私どもの伝道所では、確かな結実を与えられたと思います。

最後に、中部中会をはじめ、諸教会、諸教派の読者の皆様に心から感謝申し上げます。一人でも多くの子らにと祈り、たった一人の子のためにも、日々、祈りつつ準備に励んで日曜学校の働きを担っておられる皆様の上に、主イエス・キリストの恵み、聖霊の励ましが豊かにございますように！

第57回定期大会（2002年）におきまして、教育委員会から日曜学校教案誌を大会的に発行する提案がなされました。しかし、継続審議となりました。実に、私どもの最初からの祈りは、大会から「教会学校教案誌」が発行され、これによって教派形成、青少年伝道が進展することでした。これは日本キリスト改革派教会として、どうしてもなされなければならない事業であると信じていますが、もはや私どもの手を離れています。御心なることを祈るのみです。

中部中会教育委員会では、この二年間を節目とさせていただき、その後は大会で発行されることを願っておりました。そのため、当教案誌編集部としても2003年度の計画は立てておりませんでした。しかし、上記の大会決議となりましたので、教案誌編集部では、急速、「一年間のカリキュラム」を作成しているところです。救済史の流れの中で、聖書の物語を取り扱う一年としたいと考えています。4月から6月までは、前ページのとおりです。このカリキュラムに基づいて、説教やテキスト研究、小学科、中学科の分級展開例等を作成し、希望する教会に一部ずつ送付させていただく（それを必要に応じて教会でコピーしてご利用いただく）方向で検討いたしております。なお覚えて用いていたき、とりわけお祈りくだされば幸いに存じます。

Soli Deo Gloria!

編 集 後 記

●皆で分級展開例を書くことを通して、神様の御力を実感できました。感謝でした（津島伝道所日曜学校）。●この教案づくりに参加することにより、教師会で豊かな交わりが与えられたことを感謝します。この小さな働きが、子どもたちの成長の助けになることを願います（多治見教会日曜学校）。●二年間奉仕を続けることができたことを光栄に思います。ありがとうございました（豊明教会日曜学校）。●教師よりも生徒の話す時間が長くなることを願って教案を書きましたが……いかがでしょうか？ 一年間、教案を書くことが許され、たいへん勉強になりました。感謝です（関キリスト教会教会日曜学校）。●表紙について……新しい年を迎えて、夢と希望をいっぱい乗せて、大空を飛んでいこう（宮川裕希子、名古屋教

会）。●ビルでの伝道、教会形成もあとわずか。弊誌と共に育った地域の子らが移転先の教会堂にも通えますように！（相馬伸郎、名古屋岩の上传道所宣教教師）。●教案誌が大会から発行されるための道筋が整えられるよう祈っています（木下裕也、豊明教会牧師）。●二年間の発行が導かれたことを神様に感謝しています。教案誌が大会から発行されることを祈りつつ（春名義行、津島伝道所宣教教師）。●自転車操業の二年間、何とか守られて参りました。連絡不行き届きや手違いで各方面に迷惑もおかけいたしました。心からお詫び申し上げます。皆様の寛容と忍耐と熱心に励まされた二年間でした。心から感謝申し上げます（望月信、高蔵寺教会牧師）。

	執筆担当	編集部
聖書研究	分級展開例	相馬伸郎（長）
1 / 5, 12, 19……春名義行	幼稚科……名古屋教会	木下裕也
1 / 26, 3 / 23, 30…村手 淳	小学科下級……津島伝道所	村手 淳
カテキズム研究	小学科中級……多治見教会	春名義行（会計、販売取次）
1 / 5 ~ 2 / 16……木下裕也	小学科上級……豊明教会	望月 信（編集）
2 / 23 ~ 3 / 30……望月 信	中学科……関キリスト教会	
説教展開例……相馬伸郎	表紙デザイン……宮川裕希子	

日本キリスト改革派教会 中部中会 『日曜学校教案誌』
2003年1・2・3月号（季刊）
第8号
2002年12月15日発行

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校教案誌編集部 名古屋岩の上传道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0008 愛知県名古屋市緑区平手北2-1701 協英ビル3F Tel/Fax. 052-877-8962
編集・印刷	株式会社あるむ 〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田3-1-12 第三記念橋ビル3F
頒布取り次ぎ	津島伝道所 宣教教師 春名義行 〒496-0038 愛知県津島市橋町2-30 Tel/Fax. 0567-26-4221
頒価	900円（本体価格）